

CMES

ANNUAL REPORT

2025

Vol.026

愛媛大学沿岸環境科学研究センター 年報

目次

1. 総説	- 2 -
1. 1 組織（令和7年4月1日現在）	- 2 -
1. 2 各部門の概要	- 4 -
2. 研究者要覧（令和7年4月現在）	- 5 -
3. 研究プロジェクト（令和6年度）	- 15 -
3. 1 科学研究費等	- 15 -
3. 2 共同研究	- 18 -
3. 3 受託研究	- 18 -
3. 4 各種研究助成金（民間・財団等），奨学寄付金等	- 19 -
3. 5 受託事業	- 20 -
3. 6 補助金	- 20 -
4. 研究成果（暦年で2024年に出版，掲載されたもの）	- 21 -
4. 1 著書	- 21 -
4. 2 学協会誌等	- 21 -
4. 3 学内，所内誌等	- 26 -
4. 4 一般誌等	- 27 -
4. 5 報告書等	- 27 -
4. 6 学会発表等	- 27 -
5. 学会及び社会における活動（令和6年度）	- 42 -
5. 1 併任・委員会委員等	- 42 -
5. 2 学協会委員等	- 44 -
5. 3 学会，講演会などの開催（センター主催または共催）	- 46 -
5. 4 学会，講演会などの開催（個人）	- 47 -
5. 5 学会賞等	- 47 -
6. 国際的活動（令和6年度）	- 49 -
6. 1 国際研究プロジェクト	- 49 -
6. 2 在外研究等	- 51 -
6. 3 海外調査・国際学会等	- 51 -
6. 4 外国人客員研究員等	- 53 -
6. 5 海外からの訪問者	- 53 -
6. 6 招聘研究員	- 54 -
6. 7 留学生等	- 54 -
7. 教育活動（令和6年度）	- 56 -
7. 1 卒業論文・修士論文・博士論文 題目	- 56 -
7. 2 講義・集中講義	- 57 -
8. 設備（令和6年度導入）	- 62 -
9. 広報（令和6年度）	- 63 -
9. 1 CMES ニュース	- 63 -
9. 2 報道関係	- 64 -
9. 3 講座，講演会等	- 65 -
10. 調査実習船「いさな」運行状況（令和6年度）	- 67 -
11. 研究員名簿（令和6年度）	- 68 -
12. 客員研究員名簿（令和6年度）	- 69 -
13. 運営委員会（令和6年度）	- 71 -
14. センター規則および運営委員会規程	- 72 -

1. 総説

1. 1 組織（令和7年4月1日現在）

センター長 : 郭 新宇
副センター長 : 森本 昭彦

環境動態解析部門

教授 : 郭 新宇
教授 : 森本 昭彦
教授 : 加 三千宣
助教 : 牛島 悠介（令和6年9月1日着任）
兼任教員（理工学研究科 教授） : 日向 博文
兼任教員（理工学研究科 准教授） : 片岡 智哉
先端研究院先端研究高度支援室 准教授 : 吉江 直樹
先端研究院先端研究高度支援室 特定研究員 : Siraporn Tong-U-Dom（令和6年5月1日着任）
特定研究員 : Leng Qian
客員教授 : Chen Tung Arthur Chen（国立中山大学（台湾）特任教授）
（令和6年8月1日着任）
研究補助員 : 徳永 幸子
研究補助員 : 松田 昌子
事務補佐員 : 山内 樹里

*特定研究員 : Mao Xinyan（令和6年8月31日退職）
*日本学術振興会外国人特別研究員 : Wang Shuya（令和6年9月31日受入終了）

化学汚染・毒性解析部門

教授 : 岩田 久人
教授 : 国末 達也
准教授 : 野見山 桂
講師 : 仲山 慶
准教授 : 田上 瑠美
兼任教員（農学研究科 教授） : 高橋 真
兼任教員（農学研究科 教授） : 石橋 弘志
兼任教員（農学研究科 准教授） : 水川 葉月
日本学術振興会特別研究員PD : 山原 慎之介（令和7年4月1日着任）
研究員 : Asela Marisol Buenfil Rojas（令和7年4月1日着任）
研究員 : 須之内 朋哉（令和7年4月1日着任）
研究補助員 : 満汐 美穂
研究補助員 : 渡部 絵里子
研究補助員 : 倉田 智美
研究補助員 : 谷本 典子
研究補助員 : 田中 順子
事務補佐員 : 前野 和香子
事務補佐員 : 梶本 和枝

*特任助教 : 落合 真理（令和7年3月31日退職）
*研究員 : Nguyen Minh Tue（令和7年3月31日退職）
*研究員 : 後藤 哲智（令和7年3月31日退職）
*研究員 : Kanerva Mirella Mariia（令和6年8月31日退職）
*日本学術振興会外国人特別研究員 : Asela Marisol Buenfil Rojas（令和7年3月31日受入終了）

生態・保健科学部門

教授 : 渡辺 幸三
助教 : 濱本 耕平 (令和6年9月1日着任)
講師 : 大林 由美子
兼任教員 (農学研究科 教授) : 渡辺 誠也
兼任教員 (理工学研究科 教授) : 三宅 洋
兼任教員 (プロテオサイエンスセンター 教授) : Culleton Richard
研究員 : 三浦 郁修
研究員 : Reyes Jerica Isabel (令和7年4月1日着任)
日本学術振興会特別研究員PD : 柳原 未奈
研究補助員 : 岡崎 早希
研究補助員 : 片岡 優

*研究員 : 鈴木 聡 (令和7年3月31日退職)
*日本学術振興会外国人特別研究員 : Khristina Judan Cruz (令和6年11月30日受入終了)
*日本学術振興会外国人特別研究員 : Anwar Hossain (令和7年3月31日受入終了)
*研究補助員 : 池永 弥生 (令和6年12月31日退職)

国際・社会連携室

准教授 : 鈴木 康嗣
研究補助員 : 関井 優
教授 : Davina Medina Amalin (愛媛大学海外クロスアポイントメント支援事業)
教授 : Jose Isagani B. Janairp (愛媛大学海外クロスアポイントメント支援事業)
(令和6年10月1日着任)
准教授 : Mary Jane Cruz Flores (愛媛大学海外クロスアポイントメント支援事業)
助教 : Anna Karen Carrasco Laserna (愛媛大学海外クロスアポイントメント支援事業)
客員教授 : 高菅 卓三 (株式会社島津テクノリサーチ 取締役)
客員教授 : Kurunthachalam Kannan (State University of New York at Albany 教授)
客員教授 : 金 恩英 (韓国慶熙大学 教授)
客員教授 : Michael Thomas Monaghan (ベルリン自由大学 教授)

共通

技術専門職員 : 大西 秀次郎
技術専門職員 : 小川 次郎

研究・産学連携支援部先端研究推進課

部長 : 若松 伸一 (令和7年4月1日着任)
次長 : 神 智彦 (令和7年4月1日着任)
先端研究推進課課長 (事務取扱) : 神 智彦 (令和7年4月1日着任)
先端研究推進課副課長 : 和気 洋子 (令和6年10月1日着任)
先端研究推進課研究拠点第一チーム課員 : 杉村 英里子
事務補佐員 : 中山 真理
事務補佐員 : 渡部 亜紀

*研究部長 : 佐野 護 (令和7年3月31日配置換)
*研究支援部研究支援課課長 : 大本 盛嗣 (令和7年3月31日配置換)
*研究支援部研究支援課副課長 : 神野 哲也 (令和7年3月31日配置換)
*研究支援部研究支援課研究拠点第一チーム TL : 田坂 裕 (令和6年9月31日配置換)

*は転任または退職した職員

1. 2 各部門の概要

環境動態解析部門

研究内容：沿岸海域の環境は、様々な人間活動や気候変動などの影響によって変動する。これらの変動の実態やメカニズムを解明し、将来の沿岸環境の変動を予測することが本部門の目標である。調査船や各種モニタリングシステムによる現地調査、数値シミュレーション、堆積物コア解析などの手法を用い、他部門とも連携しながらこの目標に向けた各種の課題に取り組んでいる。また、現在の様々な沿岸環境問題のメカニズムを物理学的側面から解明していくことも当部門の研究課題である。

主な研究テーマ：瀬戸内海の栄養塩環境の長期モニタリングと将来予測、高解像度数値生態系モデルによる瀬戸内海の環境変動機構の解明、豊後水道の急潮および底入り潮の発生機構とそれらの環境への影響の解明、宇和海水温情報システムの開発、内湾域の物質循環と生物生産機構の解明、赤潮や貧酸素水塊の物理機構の解明、沿岸海域における海洋酸性化モニタリング、養殖漁場の物質循環と環境保全、黄海・東シナ海の海洋循環、河川水プルームの挙動、海洋マイクロプラスチックの観測とモデリング、黒潮による栄養塩輸送、宇和海の環境変遷史解明、海洋堆積物変質過程の数値構造、残留性有機汚染物質に関する数値モデリング、人新世の地質学的研究、環境DNAを用いた海洋・湖沼生物種の長期動態の解明、海洋表層の乱流混合過程の解明、海洋循環が表層水温に及ぼす影響の解明、海面水温変動の大気への影響評価

化学汚染・毒性解析部門

研究内容：生物蓄積性有害化学物質の汚染モニタリングとリスク評価を通して、生態系を保全する方途を提言する。具体的には、内分泌かく乱物質（環境ホルモン）やその代謝物など生物やヒトの健康に悪影響を及ぼす化学物質に注目して、環境や生態系汚染の現状と推移、分布・挙動・ゆくえ、生物蓄積の特徴を地域的・地球的視点で解明することを目的としている。また、無脊椎動物・魚類・両生類・爬虫類・鳥類・哺乳類などの野生生物や実験動物を対象に、異物代謝酵素や脂溶性リガンドレセプターの機能特性を分子レベルで解析し、毒性発現の種多様性や感受性の種差を評価する研究（敏感・鈍感のサイエンス）、多次元オミクス（トランスクリプトーム・プロテオーム・リポドーム・メタボローム）解析による包括的な毒性影響・作用機序を解明する研究にも取り組んでいる。

主な研究テーマ：地球規模での大気、水質、堆積物（土壌）、生態系汚染の実態解明と動態解析、途上国（とくにアジア）の陸域および沿岸海洋汚染の実態解明と動態解析、廃棄物投棄場やリサイクル施設の化学汚染と影響の解明、野生生物（プランクトン、両生類、爬虫類、魚類、鳥類・哺乳類）の汚染実態の解明と生物濃縮機構の解析およびリスク評価、ヒトの汚染実態解明と健康影響評価、海洋汚染および陸域汚染の過去復元と将来予測、環境残留性・生物蓄積性化学物質の網羅的スクリーニング、化学物質汚染による野生生物個体群の異物代謝酵素への影響、脂溶性リガンドレセプターの比較機能学的研究、シトクロム P450 およびメタロチオネインの比較機能学的研究、多元的オミクス解析による生物の遺伝子ネットワーク攪乱のモニタリングと新規バイオマーカーの探索、化学物質暴露による胚発生への毒性影響とその作用機序の解明、毒性影響の感受性を支配する分子機構の解明、野生生物による化学物質の代謝能を評価する研究、New Approach Methodologies (NAMs: in silico, in vitro, chemoinformatics, bioinformatics, omics など)による有害化学物質のハイスループットスクリーニング手法の開発

生態・保健科学部門

研究内容：都市・陸水域・沿岸域におけるヒト・動物・環境の健康を包括的に守るワンヘルスに資する研究を推進している。具体的には、1) デング熱などの蚊媒介感染症を生態学的に制御する環境疫学研究、2) 人間社会～沿岸生態系における薬剤耐性菌の発生メカニズムの解明、3) ゲノム解析や環境DNAを使った河川の生物多様性の評価手法の開発、4) ヒラメ・マダイ・ホヤなどの海産魚介類に発生するウイルス病、細菌性疾病、寄生虫病の研究、5) 沿岸域生態系における微生物食物網や物質循環機構の解明などを行っている。

主な研究テーマ：環境微生物の抗生物質耐性に関する研究、微生物間での遺伝子伝播の研究、海洋細菌のセルラーゼの研究、蚊媒介感染症、魚介類の日和見・再興感染症ウイルスの生態、重油汚染の魚類生体防御系への影響、瀬戸内海の生態系構造解析、海洋での生物間相互作用、微生物の新規機能の開発、河川環境の保全

2. 研究者要覧

(令和7年4月現在)

環境動態解析部門

郭 新宇 GUO Xinyu

【職名】 教授 沿岸環境科学研究センター長 理学部理学科地学コース・理工学研究科理工学専攻兼任 【E-mail】 guoxinyu@sci.ehime-u.ac.jp 【学歴】 昭和63年7月中国天津大学海洋船舶工学科卒業, 平成3年1月中国ハルビン船舶工程学院修士課程海洋流体力学専攻修了, 平成9年3月愛媛大学理工学研究科博士後期課程生産工学専攻修了 【学位】 平成9年3月愛媛大学博士(工学) 【所属学会】 1. 日本海洋学会, 2. 日本海洋学会沿岸海洋研究部会, 3. 日本地球惑星科学連合, 4. American Geophysical Union, 5. American Meteorological Society 【専門分野】 1. 海洋物理学, 2. 沿岸海洋学 【主な研究テーマ】 1. 東シナ海の流動構造と栄養塩の動態, 2. 瀬戸内海の流動構造と栄養塩の動態, 3. 黒潮流域における栄養塩輸送, 4. 瀬戸内海及び黒潮内側域における水温の経年変動, 5. 最終氷期最盛期の黒潮流域と縁辺海に関するモデリング, 6. 残留性有機汚染物質の輸送循環モデリング 【受賞歴】 2014年6月 Reviewing Excellence Award for Continental Shelf Research, 2016年度愛媛大学理学部ベストティーチャー賞

森本 昭彦 MORIMOTO Akihiko

【職名】 教授 沿岸環境科学研究センター副センター長 理学部理学科地学コース・スーパーサイエンス特別コース環境科学コース・理工学研究科数理物質科学専攻 【E-mail】 morimoto.akihiko.ci@ehime-u.ac.jp 【学歴】 平成6年愛媛大学工学部海洋工学科卒業, 平成8年愛媛大学大学院工学研究科博士前期課程土木海洋工学専攻修了 【学位】 平成12年9月九州大学博士(理学) 【所属学会】 日本海洋学会, 日本海洋学会沿岸海洋研究会 【専門分野】 1. 沿岸海洋学, 2. 海洋物理学 【主な研究テーマ】 1. 瀬戸内海の栄養塩循環, 2. 豊後水道の底入り潮に関する研究, 3. 台風通過に伴う海洋の応答に関する研究, 4. 対馬暖流流路の変動に関する研究, 5. 東南アジア沿岸域の海洋環境に関する研究 【受賞歴】 2022年9月日本海洋学会沿岸海洋研究会速水論文賞

加 三千宣 KUWAE Michinobu

【職名】 教授 理学部理学科地学コース・スーパーサイエンス特別コース環境科学コース・理工学研究科数理物質科学専攻及び先端科学特別コース兼任 【E-mail】 mkuwae@sci.ehime-u.ac.jp 【学歴】 平成14年3月大阪市立大学大学院理学研究科後期博士課程(生物地球系専攻)修了 【学位】 平成14年3月大阪市立大学博士(理学) 【所属学会】 1. 日本第四紀学会, 2. 日本海洋学会, 3. 日本珪藻学会, 4. 日本水産海洋学会, 5. 日本海洋学会沿岸海洋研究会, 6. 地球環境史学会, 7. 日本地球惑星科学連合, 8. American Geophysical Union, 【専門分野】 1. 第四紀学, 2. 古陸水学, 3. 古海洋学 【主な研究テーマ】 1. 琵琶湖湖底堆積物の珪藻化石を用いた過去40万年間の環境変遷史, 特に古気候変動記録の復元に関する研究, 2. 珪藻及び安定同位体比, 色素を用いた日本沿岸域における生物生産と気候変動に対する応答, 3. 魚鱗を用いた多様性小型浮魚類のバイオマスの長期変動に関する研究, 4. 浮遊性有孔虫及び底生有孔虫殻のMg/Ca比を用いた西南日本沿岸浅海域の海洋温暖化に関する研究, 5. 海洋・湖沼堆積物中の環境DNAを用いた水域生物の生物量・多様性の長期変動, 6. 人新世GSSPとしての別府湾堆積物に関する研究 【受賞歴】 2008年日本海洋学会日高論文賞受賞, 2004年日本第四紀学会日本第四紀学会論文賞, 2025年日本第四紀学会学術賞

牛島 悠介 USHIJIMA Yusuke

【職名】 助教 理学部理学科地学コース兼任 【E-mail】 ushijima.yusuke.fp@ehime-u.ac.jp 【学歴】 平成27年京都大学理学部卒業, 平成29年京都大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻修士課程修了, 令和2年同博士後期課程指導認定退学, 令和2年同博士後期課程修了 【学位】 令和2年11月京都大学博士(理学) 【所属学会】 1. 日本海洋学

会, 2. 日本地球惑星科学連合, 3. American Geophysical Union 【専門分野】 1. 海洋物理学, 2. 気候学 【主な研究テーマ】 1. 海洋表層の乱流混合, 特に風性乱流と熱対流に及ぼす地球自転の影響に関する研究, 2. 北太平洋の表層循環と水温(密度)との関係の解明, 3. 気象・気候現象に及ぼす海面水温の影響評価 【受賞歴】 2017年7月 Outstanding Young Scientist Award (9th International Workshop on Modeling the Ocean), 2019年3月 Student Poster Award (3rd International Symposium “Ocean Mixing Processes: Impact on Biogeochemistry, Climate, and Ecosystem”), 2019年5月学生優秀発表賞(日本地球惑星科学連合2019年連合大会)

吉江 直樹 YOSHIE Naoki

【職名】 先端研究院先端研究高度支援室 准教授 【E-mail】 yoshie.naoki.mm@chime-u.ac.jp 【学歴】 平成9年3月北海道大学水産学部水産化学科卒業, 平成14年9月北海道大学大学院地球環境科学研究科博士課程大気海洋圏環境科学専攻修了 【学位】 平成14年9月北海道大学博士(地球環境科学) 【所属学会】 1. 日本海洋学会, 2. 日本海洋学会沿岸海洋研究部会, 3. 日本地球惑星科学連合, 4. 水産海洋学会, 5. Association for the Sciences of Limnology and Oceanography 【専門分野】 1. 生物地球化学, 2. 海洋生態系モデリング, 3. 海洋学, 4. 海洋生物学 【主な研究テーマ】 1. 瀬戸内海における低次生態系・物質循環の現場モニタリングおよび数値モデリング, 2. 沿岸域への外洋水進入現象に伴う生態系応答の現場モニタリングおよび数値モデリング, 3. 超高解像度観測と数値モデルを組み合わせた沿岸域における栄養塩動態に関する研究, 4. 瀬戸内海における藻場の時空間分布に関する研究, 5. 瀬戸内海における有害赤潮の時空間分布に関する研究, 6. 東シナ海におけるサブメソスケール渦が海洋生態系に及ぼす影響に関する研究, 7. トカラ周辺海域における栄養塩・低次生態系動態に関する研究, 8. 栄養塩等の水質環境が小型浮魚生産量に及ぼす影響に関する研究, 9. 豊後水道における海洋酸性化モニタリング 【受賞歴】 2010年 日本海洋学会岡田賞, 2011年 北太平洋海洋科学機構(PICES) Best Presentation Award 2019年 第15回三浦保環境賞特別賞

日向 博文 HINATA Hirofumi

【職名】 兼任教員(大学院理工学研究科生産環境工学専攻 教授) 【E-mail】 hinata.hirofumi.dv@chime-u.ac.jp / hinata@cee.chime-u.ac.jp 【学歴】 東京工業大学大学院理工学研究科土木工学専攻修了(1991) 【学位】 平成12年1月 東京工業大学博士(工学) 【所属学会】 土木学会, 日本海洋学会, 水産海洋学会 【専門分野】 沿岸海洋学, 海岸工学 【主な研究テーマ】 海洋プラスチックの海岸-沿岸域における挙動の解明, 海洋レーダを用いた津波計測に関する研究, 黒潮変動が沿岸域の物質輸送に与える影響に関する研究 【受賞歴】 土木学会論文奨励賞(2001), 日本港湾協会論文賞(2013), 土木学会四国支部研究・論文賞(2018), 2021年度愛媛大学学長賞(2021年11月)

片岡 智哉 KATAOKA Tomoya

【職名】 兼任教員(大学院理工学研究科理工学専攻 准教授) 【E-mail】 kataoka.tomoya.ab@chime-u.ac.jp, tkata@cee.chime-u.ac.jp 【学歴】 平成18年3月徳島大学工学部卒業, 平成26年3月豊橋技術科学大学大学院工学研究科博士後期課程修了 【学位】 平成26年3月 豊橋技術科学大学博士(工学) 【所属学会】 土木学会, 日本海洋学会, 日本海洋学会沿岸海洋研究会, 日本水環境学会, American Geophysical Union (AGU), Institute of Electrical and Electronics Engineer (IEEE) 【専門分野】 海岸工学, 水工学, 沿岸海洋学 【主な研究テーマ】 海洋レーダを用いた波浪計測に関する研究, 海洋プラスチックの陸域から海洋までの挙動の解明, 沿岸域におけるリモートセンシング手法の開発と応用 【受賞歴】 2012年6月 50th ECSA BEST STUDENT ORAL PRESENTATION AWARD, 2013年5月 平成24年度日本港湾協会論文賞, 2016年2月 平成27年度水路技術奨励賞, 2019年8月 令和元年度河川財団奨励賞, 2019年11月 令和元年度全国大会第74回年次学術講演会優秀講演者賞

冷 茜 LENG Qian

【職名】 研究員 【E-mail】 leng.qian.eg@chime-u.ac.jp 【学歴】 平成 29 年 6 月 中国海洋大学環境理工学部環境科学科卒業、令和 2 年 6 月 中国海洋大学環境理工学院修士課程環境科学専攻修了、令和 6 年 3 月 愛媛大学理工学研究科博士後期課程先端科学特別コース修了 【学位】 令和 6 年 3 月 愛媛大学博士（理学） 【所属学会】 1. 日本海洋学会、2. 日本海洋学会沿岸海洋研究会、3. 日本地球惑星科学連合 【専門分野】 沿岸海洋学 【主な研究テーマ】 瀬戸内海の栄養塩の動態 【受賞歴】 なし

陳 鎮東 CHEN-Tung Arthur Chen

【職名】 客員教授 (National Sun Yat-sen University 教授) 【E-mail】 ctchen@mail.nsysu.edu.tw 【学歴】 1977 年 6 月 Chemical Oceanography, University of Miami, Miami, Florida, U.S.A., 【学位】 1977 年 6 月 Chemical Oceanography, University of Miami, Miami, Florida, U.S.A. (博士課程修了) 【所属学会】 1. 日本海洋学会、2. American Geophysical Union 【専門分野】 1. 生物地球化学、2. 海洋化学 【主な研究テーマ】 炭素循環、栄養塩と水塊分布、化学分析、【受賞歴】 1978 年 1 月 Outstanding Young Man of America, 1990 年 12 月 Distinguished Research Award, National Science Council 1992 年 1 月、2004 年 12 月、2010 年 5 月 (Outstanding Research Award, National Science and Technology Council (3 times)、1997 年 11 月 Biwako Prize for Ecology, The Ecological Society of Japan 2004 年 12 月 Ho Chin-Tuei Outstanding Honorable Award, Mr. Ho Chin-Tuei Cultural and Educational Foundation 2010 年 12 月 54th Academic Awards, Ministry of Education、2016 年 5 月 Distinguished Sea -Star Scholar、2016 年 8 月 Y.Z. Hsu Scientific Paper Award, Far Eastern Y. Z. Hsu Science and Technology Memorial Foundation、2019 年 5 月 Merit MOST Research Fellow Award, Ministry of Science and Technology

化学汚染・毒性解析部門

岩田 久人 IWATA Hisato

【職名】 教授 ・理学部理学科生物学コース・理工学研究科環境機能科学専攻生物環境科学コース及び先端科学特別コース兼任 【E-mail】 iwata.hisato.mz@chime-u.ac.jp 【学歴】 平成 6 年 3 月 愛媛大学大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程修了 【学位】 平成 6 年 3 月 愛媛大学博士（学術） 【所属学会】 1. 日本環境科学会、2. 日本環境会議、3. 日本環境化学会、4. 日本環境毒性学会、5. 日本獣医学会、6. 日本内分泌攪乱物質学会、7. 日本生化学会、8. 日本分子生物学会、9. Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC)、10. Society of Toxicology 【専門分野】 環境毒性学 【主な研究テーマ】 1. 環境汚染物質による生態系の汚染とその毒性影響の解明、2. 多次元オミクス（トランスクリプトーム・プロテオーム・リポドーム・メタボローム）解析による包括的な毒性影響・作用機序の解明、3. 異物代謝酵素や脂溶性リガンドレセプターの機能特性を分子レベルで解析し、毒性発現の種多様性や感受性の種差を評価する研究（敏感・鈍感のサイエンス）、4. 異物代謝酵素シクロム P450 を指標とした化学物質暴露および毒性影響の評価、5. 野生生物のリスク評価を目指した脂溶性リガンドレセプターのインビトロ・インシリコリガンドスクリーニング法の開発、6. New Approach Methodologies (NAMs) による化学物質の有害性評価・リスク評価手法の開発 【受賞歴】 1994 年 9 月 QUINTESENCE Excellence in Environmental Contamination and Toxicology、2011 年 7 月 第 16 回生態学琵琶湖賞、2021 年 4 月 愛媛大学理学部ベストレクチャー賞

国末 達也 KUNISUE Tatsuya

【職名】 教授 理学部理学科化学コース・理工学研究科環境機能科学専攻分子科学コース及び先端科学特別コース兼任 【E-mail】 kunisue.tatsuya.ew@chime-u.ac.jp 【学歴】 平成 16 年 3 月 愛媛大学大学院連合農学研究科生物環境

保全学専攻博士課程修了 【学位】 平成 16 年 3 月 愛媛大学博士（農学） 【所属学会】 1. 日本内分泌攪乱物質学会, 2. 日本環境化学会, 3. 日本廃棄物資源循環学会, 4. 日本水環境学会, 5. 日本環境科学会, 6. Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC), 7. American Chemical Society (ACS) 【専門分野】 環境化学, 機器分析化学 【主な研究テーマ】 1. 多様な動物種に対する化学物質の曝露とリスクの評価, 2. 新規環境汚染物質の探索とアジア地域の汚染, 3. ホルモン様物質の分析法開発と環境毒性学への応用 【受賞歴】 2018 年 5 月日本環境化学会学術賞

野見山 桂 NOMIYAMA Kei

【職名】 准教授 理学部化学科・理工学研究科環境機能科学専攻分子科学コース兼任 【E-mail】 keinomi@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】 平成 19 年 3 月 熊本県立大学大学院環境共生学研究科環境共生学専攻博士課程修了 【学位】 平成 19 年 3 月 熊本県立大学博士（環境共生学） 【所属学会】 1. Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC), 2. 日本環境化学会, 3. 日本水環境学会, 4. 日本セトロジー研究会, 5. American Chemical Society (ACS), 6. 日本内分泌攪乱物質学会 【専門分野】 1. 水環境化学, 2. 環境分析化学, 3. 異物代謝学 【主な研究テーマ】 1. 有機ハロゲン化代謝物の分析法開発と代謝物をマーカーとした比較生物学的研究, 2. 野生高等生物の肝ミクロゾームを用いた有機ハロゲン化合物の *in vitro* / 代謝系の確立 3. 哺乳類に残留する有機ハロゲン代謝物の脳移行と甲状腺ホルモンへの影響評価 4. 野生物に残留する医薬品類および生活関連化学物質 (PPCPs) の蓄積特性に関する研究 5. 極性環境汚染物質の新規分析法開発 6. メタボロミクス, プロテオミクスによる有機ハロゲン代謝物の生体影響評価 7. ペット動物の汚染実態解明とリスク評価 8. 神経伝達物質の高感度分析法の開発 9. 臓器・組織中内因性ホルモンの高感度分析法の開発 【受賞歴】 2007 年 11 月日本水環境学会博士研究奨励賞 (オルガノ賞), 2009 年 10 月 第 15 回日本環境毒性学会・バイオアッセイ研究会合同研究発表会奨励賞, 2016 年 4 月 ソニー・ワールドフォトグラフィアワード 2016, 2018 年 2 月 第 14 回三浦保環境賞奨励賞, 2018 年 3 月 愛媛大学理学部ベストレクチャー賞, 2020 年 12 月 2019 年室内環境学会学術大会大会長奨励賞

仲山 慶 NAKAYAMA Kei

【職名】 講師 理学部生物学科・理工学研究科環境機能科学専攻兼任 【E-mail】 kei_n@ehime-u.ac.jp 【学歴】 平成 15 年 9 月 九州大学大学院生物資源環境科学府生物機能科学専攻博士（後期）課程修了 【学位】 平成 15 年 9 月 九州大学博士（農学） 【所属学会】 1. 日本環境毒性学会, 2. 日本水産学会, 3. Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC), 4. 日本魚病学会 【専門分野】 1. 環境毒性学, 2. 水産化学 【主な研究テーマ】 1. トキシコゲノミクスおよびメタボロミクスによる化学物質の毒性影響の評価およびメカニズムの解明, 2. 化学物質の複合暴露による毒性影響の評価手法の開発, 3. 複合的な環境要因の変化に対する生体応答の詳細解析, 4. 有機汚染物質が魚類の発生や脳神経系および行動に及ぼす影響の解明 【受賞歴】 2006 年 9 月 第 12 回バイオアッセイ研究会・日本環境毒性学会合同研究発表会奨励賞, 2015 年 9 月 平成 27 年度日本環境毒性学会 CERi 学会賞

田上 瑠美 TANOUE Rumi

【職名】 准教授 理学部理学科化学コース兼任 【E-mail】 tanoue.rumi.lw@ehime-u.ac.jp 【学歴】 平成 27 年 3 月 愛媛大学大学院理工学研究科博士後期課程修了 【学位】 平成 27 年 3 月 愛媛大学博士（理学） 【所属学会】 日本環境化学会, 日本水環境学会 【専門分野】 1. 環境分析化学, 2. 環境科学 【主な研究テーマ】 1. 微量環境汚染物質の分析法開発, 2. 未規制環境汚染物質の魚類への移行・残留性と体内動態の解析および影響評価に関する研究, 3. 南・東南アジア諸国の水圏環境における化学物質汚染の実態解明と影響評価, 4. 内分泌かく乱作用が疑われている人工化学物質のヒト尿中レベルと曝露量の推定 【受賞歴】 2016 年 9 月 第 22 回日本環境毒性学会研究発表会若手研究奨励賞, 2016 年 9 月 平成 28

年度日本水環境学会博士研究奨励賞（オルガノ賞）優秀賞, 2017年6月第26回環境化学討論会「優秀発表賞」（35歳以下の社会人、若手研究者、および博士後期課程学生の部）, 2020年5月令和元年度日本水環境学会中国・四国支部研究奨励賞（Protecting the environment from psychoactive drugs: Problems for regulators illustrated by the possible effects of tramadol on fish behaviour）, 2021年6月第29回環境化学討論会「優秀発表賞（SETAC賞）」（35歳以下若手研究者の部）【資格】公害防止管理者（水質関係）, 環境計量士（濃度関係）

高橋 真 TAKAHASHI Shin

【職名】兼任教員（大学院農学研究科生物環境学専攻 教授） 【E-mail】 takahashi.shin.mu@ehime-u.ac.jp 【学歴】平成12年3月愛媛大学大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程修了【学位】平成12年3月 愛媛大学博士（農学） 【所属学会】1. 日本環境科学会会員, 2. 日本環境毒性学, 3. 日本内分泌攪乱物質学会, 4. 日本環境化学会, 5. 廃棄物資源循環学会, 6. American Chemical Society (ACS), 7. Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC), 8. 日本水環境学会【専門分野】1. 環境化学, 2. 環境計測学, 3. 資源循環工学【主な研究テーマ】1. POPsおよびその関連物質による地球環境汚染の実態と時空間分布の解明, 2. アジア途上国等における非制御的廃棄物処理に伴う環境負荷および生体影響の評価, 3. 先端機器分析と生物学的検定法を統合した影響指向の環境評価法の確立と応用【受賞歴】2014年7月京都大学環境衛生工学研究会最優秀プロジェクト賞, 2015年5月 廃棄物資源循環学会誌 Best Paper Award, 2019年6月第28回環境化学学術賞, 2019年7月 Emerging Contaminants 誌 Best Paper Award

石橋 弘志 ISHIBASHI Hiroshi

【職名】兼任教員（大学院農学研究科生物環境学専攻 教授） 【E-mail】 hiroishi@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成15年3月 長崎大学大学院生産科学研究科海洋資源学専攻博士課程修了 【学位】平成15年3月 長崎大学博士（学術） 【所属学会】1. 日本内分泌攪乱物質学会, 2. 日本環境毒性学会, 3. 日本水環境学会, 4. 日本食品衛生学会 【専門分野】生態毒性学 【主な研究テーマ】1. 代替および新興PFASによる環境汚染の実態解明と毒性影響評価, 2. 核内受容体—リガンド相互作用のインシリコ統合ケミカルスクリーニング評価系の開発, 3. 魚類を用いた内分泌攪乱物質の影響評価, 4. 海産・汽水産甲殻類を用いた新たな生態毒性試験法の開発と農薬のリスク評価, 5. 造礁サンゴホロビオントの共生・崩壊メカニズムの解明 【受賞歴】2001年1月 日本水環境学会九州支部学術奨励賞, 2008年3月 International Symposium on Biological Response to Chemical Pollutants Best Poster Award, 2011年7月 日本環境化学会第18回環境化学論文賞, 2012年7月 日本毒性学会第2回ファイザー賞, 2020年5月 日本食品化学学会島津製作所論文賞, 2021年5月 日本水環境学会中国・四国支部研究奨励賞, 2023年9月 日本環境毒性学会進歩賞

水川 葉月 MIZUKAWA Hazuki

【職名】兼任教員（大学院農学研究科生物環境学専攻 准教授）【E-mail】 mizukawa.hazuki.jg@ehime-u.ac.jp 【学歴】平成25年3月愛媛大学大学院理工学研究環境機能科学専攻博士後期課程修了【学位】平成25年3月 愛媛大学博士（理学） 【所属学会】1. 日本環境化学会, 2. 日本毒性学会, 3. 日本内分泌攪乱物質学会, 4. Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC), 5. 室内環境学会【専門分野】1. 環境化学, 2. 環境計測学, 3. 環境毒性学【主な研究テーマ】1. 有害化学物質の汚染の実態と毒性影響評価, 2. ペット動物や野生動物に蓄積した有害化学物質の汚染実態と代謝機構の解明およびリスク評価, 3. 野生高等生物の肝マイクロゾームを用いた有機ハロゲン化合物の*in vitro*代謝系の確立【受賞歴】2011年7月第20回環境化学討論会最優秀学生賞, 2012年7月第21回環境化学討論会最優秀学生賞, 2012年8月 32nd International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN 2012) OTTO HUTZINGER Student Presentation Award, 2020年12月 2019年室内環境学会学術大会大会長奨励賞, 2022年6月 日本環境化学会第2回 環境化学進歩賞

グエン・ミン・トゥエ Nguyen Minh Tue

【職名】 研究員 【E-mail】 nguyen.minh_tue.vp@ehime-u.ac.jp 【学歴】 平成 17 年 3 月 スイス連邦工科大学大学院環境科学修士課程修了 【学位】 平成 22 年 9 月 愛媛大学博士（理学） 【専門分野】 1. 環境化学, 毒性学 【主な研究テーマ】 1. アジア地域の廃棄物処理活動に由来する内分泌攪乱化学物質の曝露影響評価, 2. バイオアッセイおよび GC (LC)-TOFMS を用いた内分泌攪乱化学物質の毒性同定・評価手法の確立

ブエンフィル・ロハス・アセラ・マリソル Buenfil Rojas Asela Marisol

【職名】 研究員 【E-mail】 buenfil.rojas_asella_marisol.ax@ehime-u.ac.jp 【学歴】 令和 1 年 12 月 El Colegio de la Frontera Sur - Campus Chetumal Research Center (Mexico), Environmental Biotechnology. Department of Sustainability Sciences 【学位】 令和 1 年 12 月 PhD in Ecology and Sustainable Development El Colegio de la Frontera Sur - Campus Chetumal Research Center (Mexico) 【所属学会】 1. IUCN-SSC Crocodile Specialist Group 2021-2025 2. National Crocodiles' Specialist Group (Mexico) 3. National Researchers System (National Council of Science and Technology, Mexico) 【専門分野】 1. Ecotoxicology 2. Ecotoxicology of reptiles 3. Non-invasive and non-destructive monitoring 4. Biomarkers 5. Bioindicators 6. Conservation genetics 【受賞歴】 1. JSPS Postdoctoral Fellowship 2023 2. Funding Grant AZA Crocodilian Advisory Group (USA) 2022 3. Grant IUCN-SSC Crocodile Specialist Group's Student Research Assistance Scheme (SRAS) 2021 4. Honorable Mention for PhD Thesis, El Colegio de la Frontera Sur 2019.

生態・保健科学部門

渡辺 幸三 WATANABE Kozo

【職名】 教授 大学院理工学研究科生産環境工学専攻兼担 【E-mail】 watanabe.kozo.mj@ehime-u.ac.jp 【学歴】 平成 17 年東北大学大学院工学研究科博士課程後期修了 【学位】 平成 17 年 3 月 東北大学博士（工学） 【所属学会】 1. 土木学会, 2. 応用生態工学会, 3. 日本熱帯医学学会, 4. 日本水環境学会 【専門分野】 1. 応用生態工学, 2. 分子進化生物学, 3. 生態疫学 【主な研究テーマ】 1. 河川生態系の生物多様性の評価と保全、2. デング熱等の蚊媒介感染症の生態学的制御、3. 環境中の薬剤耐性菌の発生・動態メカニズムの解明 【受賞歴】 日本水環境学会令和 3 年度水環境国際活動賞（いであ活動賞）, 平成 26 年度地球環境優秀講演賞, 日本水環境学会平成 21 年年間優秀論文賞（メタウォーター賞）, 平成 16 年度東北大学総長賞, 平成 15 年度土木学会論文奨励賞

大林 由美子 OBAYASHI Yumiko

【職名】 講師 農学部生物環境学科・農学研究科生物環境学専攻・連合農学研究科生物環境保全学専攻兼担 【E-mail】 obayashi.yumiko.nn@ehime-u.ac.jp 【学歴】 平成 14 年名古屋大学大学院理学研究科博士課程後期課程地球惑星理学専攻修了 【学位】 平成 14 年 12 月 名古屋大学博士（理学） 【所属学会】 1. 日本海洋学会, 2. Association for the Sciences of Limnology and Oceanography, 3. 日本微生物生態学会, 4. 日本地球惑星科学連合, 5. 日本分析化学会 6. 日本プランクトン学会 【専門分野】 生物地球化学, 微生物生態学, 海洋学 【主な研究テーマ】 1. 海洋での有機物の微生物分解に関する研究, 2. 水圏生態系における微生物間相互作用に関する研究 【受賞歴】 2020 年日本プランクトン学会論文賞, 2020 年度・2016 年度 愛媛大学農学部ベストティーチャー賞

濱本 耕平 HAMAMOTO Kohei

【職名】 助教 理学部理学科生物学コース兼任【E-mail】 hamamoto.kohei.fy@chime-u.ac.jp 【学歴】 令和5年琉球大学大学院理工学研究科博士後期課程修了【学位】 令和5年3月 琉球大学博士（理学）【所属学会】 1. 日本サンゴ礁学会, 2. 日本ベントス学会, 3. 日本地球惑星科学連合【専門分野】 沿岸無脊椎動物学, 分子生態学, サンゴ礁生態学【主な研究テーマ】 1. ナマコ類の遺伝的多様性と共生微生物叢との関係, 2. 急潮が局所生物群衆に与える影響とその予測, 3. 黒潮が流域の様々な地域で局所生物群衆に与える影響の解明【受賞歴】 1. 令和4年度日本サンゴ礁学会大会若手優秀発表賞, 2. 令和5年琉球大学学長賞

三宅 洋 MIYAKE Yo

【職名】 兼任教員（大学院理工学研究科生産環境工学専攻 教授）【E-mail】 miyake@cee.chime-u.ac.jp 【学歴】 平成14年3月 京都大学大学院理学研究科博士後期課程生物科学専攻修了【学位】 平成14年3月 京都大学博士（理学）【所属学会】 1. 日本生態学会, 2. Society for Freshwater Science, 3. 応用生態工学会, 4. Ecological Society of America, 5. 日本陸水学会, 6. 土木学会【専門分野】 1. 応用生態工学, 2. 河川生態学【主な研究テーマ】 1. 出水攪乱に対する河川生物の応答に関する研究, 2. 集水域特性が河川性底生動物の広域分布に及ぼす影響の解明, 3. 底生動物を指標とした河川環境の評価【受賞歴】 2002年3月生態学会日本生態学会ポスター発表優秀賞, Ichthyological Research 誌 2018年度論文賞

渡辺 誠也 WATANABE Seiya

【職名】 兼任教員（大学院農学研究科生命機能学専攻 教授）【E-mail】 irab@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】 平成15年3月北海道大学大学院理学研究科生物科学専攻修了【学位】 平成15年3月 北海道大学博士（理学）【所属学会】 1. 日本生化学, 2. 日本農芸化学会, 3. 日本生物工学会【専門分野】 1. 生化学, 2. 分子生物学, 3. タンパク質工学【主な研究テーマ】 1. 微生物の新規代謝経路の解明, 2. 微生物酵素の産業応用【受賞歴】 日本農芸化学会 2018年度中国支部奨励賞

カレトン・リチャード CULLETON Richard

【職名】 兼任教員（プロテオサイエンスセンター 教授）【E-mail】 culleton.richard.oe@chime-u.ac.jp 【学歴】 BSc(hons) Zoology (The University of Edinburgh, UK, 2000) 【学位】 PhD Genetics (The University of Edinburgh, UK, 2005)【所属学会】 Japanese Society of Parasitology (councillor), Japanese Society of Tropical Medicine (member), British Society of Parasitology (member), Royal Society of Tropical Medicine and Hygiene (fellow)【専門分野】 Parasitology, epidemiology, genetics and genomics【主な研究テーマ】 Eco-Epidemiology of zoonotic malaria in Malaysia; Epidemiology, genetics and genomics of neglected malaria parasite species in Africa; Malaria vaccine development【受賞歴】 JSTM Young Investigator Award (2014)

三浦 郁修 MIURA Fuminari

【職名】 研究員【E-mail】 miurafuminari0815@gmail.com 【学歴】 平成26年 東京大学工学部都市工学科 卒業、平成29年 東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻修士課程修了, 令和2年 同博士課程 修了【学位】 令和2年3月 東京大学博士(工学)【所属学会】 土木学会, 日本水環境学会, 日本疫学会, International Water Association【専門分野】 感染症疫学, 微生物リスク評価【主な研究テーマ】 1. 異質な感受性を組み込んだ感染症伝播の数理理論, 2. 潜在的な

感染者(不顕性感染・未報告感染者)の統計的推定, 3. 下水中ゲノム情報を用いた感染動態の予測, 4. 自然実験環境と確率過程を用いた感染リスク推定, 5. 人体実験データを用いたワクチン効果の統計解析手法【受賞歴】2020年9月日本水環境学会博士研究奨励賞(オルガノ賞)最優秀賞, 2020年5月日本水環境学会会長特別賞, 2020年3月令和元年度日本学術振興会育志賞, 2020年3月東京大学大学院工学系研究科長賞(研究最優秀), 2019年12月第56回土木学会環境工学研究フォーラム環境技術・プロジェクト賞(共著者として), 2017年10月 Best Presentation Award for Innovative mathematical modeling for the analysis of infectious diseases data (IMAID) 2017

柳原 未奈 YANAGIHARA Miina

【職名】日本学術振興会特別研究員 PD/CPD 【E-mail】meenay810@gmail.com 【学歴】平成26年東京大学工学部都市工学科卒業, 平成28年東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻修士課程修了, 平成31年同博士課程修了 【学位】平成31年3月東京大学博士(工学) 【所属学会】土木学会, 日本水環境学会, 日本環境毒性学会 【専門分野】生態毒性学, 生態リスク評価 【主な研究テーマ】1. 汚染底質・道路塵埃の水生生物への毒性評価, 2. 水生生物のメタボローム情報に基づく毒性要因推定, 3. 種の感受性分布を用いた生態リスク評価 【受賞歴】2019年3月東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 優秀博士研究賞, 2018年9月第24回日本環境毒性学会研究発表会(ポスター賞), 2015年8月 Water and Environment Technology Conference 2015 (The WET Excellent Presentation Award)

国際・社会連携室

鈴木 康嗣 SUZUKI Yasutsugu

【職名】特定准教授 【E-mail】suzuki.yasutsugu.ao@chime-u.ac.jp 【学歴】平成24年3月京都大学大学院生命科学研究科博士課程修了 【学位】平成24年3月京都大学博士(生命科学) 【所属学会】ウイルス学会, 分子生物学会 【専門分野】ウイルス学, 衛生昆虫学 【主な研究テーマ】1. 媒介蚊における内在性ウイルス配列の機能解析, 2. 媒介蚊のウイルスに対する不顕性感染メカニズムの解明, 3. 非レトロ RNA ウイルスの内在化機構の解明, 4. シマカにおける蚊媒介性ウイルス感染に関わる宿主遺伝子の探索, 5. 新規蚊媒介性ウイルスの探索と人への伝播リスク予測 【受賞歴】2019年10月 Best oral presentation prize, 18th Cell Biology of Viral Infections workshop, Schönthal, Germany

ディビナ・メディナ・アマリン Davina Medina AMALIN

【職名】教授(デラサール大学教授) 【E-mail】divina.amalin@dlsu.edu.ph 【学歴】フロリダ大学昆虫・線虫学科博士課程修了 【学位】1999年6月30日フロリダ大学博士(昆虫学) 【所属学会】Philippine Association of Entomologists (フィリピン昆虫学協会), Entomological Society of America (米国昆虫学会), Florida Entomological Society (フロリダ昆虫学会), American Arachnological Society (米国蜘蛛学会) 【専門分野】昆虫学 【主な研究テーマ】生態学的アプローチによる農業生産やヒト健康への害虫制御法の開発に関する研究

メリー・ジェーン・クルス・フローレス Mary Jane Cruz Flores

【職名】准教授(大学院理工学研究科生産環境工学専攻 准教授) 【学歴】デラサール大学博士課程修了 【学位】2010年5月デラサール大学博士(生物学) 【所属学会】フィリピン昆虫学者協会, フィリピン生物学教員協会, フィリピン微生物学会, フィリピン国立研究評議会 【専門分野】ベクター感染症 【主な研究テーマ】マダニ感染症 【受賞歴】准教授クラスファカルティメダル受賞(デ・ラサール大学), St. Jaime Hilario Pillar of Lasallian Excellence Award in Community Engagement (デ・ラサール大学), St. Benilde Romancon Pillar of Lasallian Excellence Award in Teaching (デ・ラサール大学)

高菅 卓三 TAKASUGA Takumi

【職名】 客員教授（株式会社島津テクノリサーチ 特任フェロー）【E-mail】 t_takasuga00@shimadzu-techno.co.jp
【学歴】 昭和 60 年 3 月 愛媛大学大学院農学研究科環境化学専攻修士課程修了 【学位】 平成 13 年 5 月 東京大学博士（農学），平成 15 年 2 月 スウェーデン Örebro 大学名誉博士 【所属学会】 1. 日本環境化学会，2. 日本分析化学会，3. 日本内分泌攪乱物質学会，4. 廃棄物資源循環学会 【専門分野】 1. 環境化学，2. 分析化学，3. 環境分析化学，4. 廃棄物処理 【主な研究テーマ】 1. 廃棄物関連試料及び環境試料中の微量有機ハロゲン化合物の分析化学的研究，2. POPs モニタリングにおける大気・生物試料の超高感度分析方法の最適化に関する研究，3. 臭素化ダイオキシン類及び臭素系難燃剤の超微量測定方法の開発，4. GC/MS(EI 及び NCI)法を用いた生物試料中有機臭素化合物の調査研究，5. GC-HR-TOFMS を用いた環境試料の微量有機ハロゲン化合物の検索と同定および高感度・高精度スクリーニング分析，6. 新規 POPs を含む各種有機ハロゲン化合物等の測定分析法開発 【受賞歴】 1994 年 6 月 日本環境化学会技術賞，1997 年 6 月 日本環境化学会学術賞，1999 年 11 月 環境測定分析功労者賞（社団法人日本環境測定分析協会），2003 年 2 月 スウェーデン Örebro 大学名誉博士，2009 年 5 月 協会功労者賞（社団法人日本環境測定分析協会）

クルンタチャラム・カンナン KANNAN Kurunthachalam

【職名】 客員教授（State University of New York at Albany 教授）【学歴】 平成 6 年 3 月 愛媛大学大学院連合農学研究科博士課程修了 【学位】 平成 6 年 3 月 愛媛大学博士（学術） 【所属学会】 1. Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC)，2. American Chemical Society (ACS), USA, 3. Society of Toxicology (SOT), USA, 4. American Society for the Advancement of Science, USA 【専門分野】 環境化学 【主な研究テーマ】 1. 有害化学物質によるヒト曝露とリスク評価，2. 有機フッ素化合物による環境汚染の実態解明 【受賞歴】 Thomson ISI, Highly Cited Researcher in Environment/Ecology in 2005, ranked #8 in 2005, #7 in 2007, Thomson ISI, Highly Cited Researcher- Special Topics- PCBs, ranked #17 in 2003, United States Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC)/Weston F. Roy Award in Environmental Chemistry in 1999, Excellence in Review Award by American Chemical Society Journal – Environmental Science and Technology in 2004, ISI Highly Top 10 Highly Cited Researcher in Environment/Ecology in 2012, ES&T Super Reviewer Award in 2013, United States Environmental Protection Agency, Scientific and Technological Achievement Award in 2015, ISI Thomson Reuters, Most influential scientific minds in the world, Top 1% Highly cited researcher in Ecology/Environment in 2015, Larry S. Sturman Excellence in Research Award, Wadsworth Center in 2017

金 恩英 KIM Eun-Young

【職名】 客員教授（韓国慶熙大学教授）【E-mail】 eykim08@khu.ac.kr 【学歴】 平成 9 年 3 月 愛媛大学大学院連合農学研究科博士課程生物環境保全学専攻修了 【学位】 平成 9 年 3 月 愛媛大学博士（学術） 【所属学会】 1. 日本環境化学会，2. 日本環境毒性学会，3. 日本内分泌攪乱物質学会，4. Society of Environmental Toxicology and Chemistry，5. Society of Toxicology 【専門分野】 環境毒性学 【主な研究テーマ】 1. 野生生物における毒性影響の感受性を考慮した環境影響評価システムの開発，2. 内分泌攪乱化学物質に対する種特異的反応・感受性のバイオマーカーの探索，3. 細胞内受容体の *in silico* ドッキングシミュレーションによる有害化学物質のハイスループットスクリーニング手法の開発

マイケル・トーマス・モナハン Michael Thomas MONAGHAN

【職名】 客員教授（ライプニッツ淡水生態学・内水漁業研究所教授）【E-mail】 monaghan@igb-berlin.de 【学歴】
スイス連邦工科大学 博士課程修了 【学位】 2002年6月30日スイス連邦工科大学博士（環境科学） 【所属
学会】 Society for Freshwater Sciences（淡水科学国際学会）， Society of Systematic Biologists（システム生物学会），
European Society of Evolutionary Biology（欧州進化生物学会）， Linnaean Society of London（ロンドンリンネ学会）
【専門分野】 河川生態学 【主な研究テーマ】 淡水生態系の生物多様性に関する研究

3. 研究プロジェクト

(令和6年度)

3. 1 科学研究費等

No.	部門	研究担当者	区分	新規/ 継続	研究種目	研究課題	金額(円)	概要
1	環境動態解析部門	郭 新宇	代表	継続	学術変革領域研究(A)	沿岸域と黒潮流域の双方向物質輸送と生物生産への影響評価	5,850,000	黒潮流域とその内側の沿岸域の間に存在する淡水と栄養物質の交換過程を定量化し、水平移流と鉛直混合が両海域間における物質輸送に果たす役割、ならびに基礎生産への寄与を解明することを目的として、物理および生物・化学の観測と低次元生態系モデルをベースにした研究を行う。
2	環境動態解析部門	郭 新宇	分担	継続	学術変革領域研究(A)	マクロ沿岸海洋学の研究推進 (代表:東京大学 羽角 博康)	1,950,000	日本沿岸海域における栄養物質の起源や利用の実態を解き明かすことを目的として、陸域から外洋までの中で生じる様々な現象を統合的に表現するシミュレーションシステムを構築する。
3	環境動態解析部門	郭 新宇	代表	新規	基盤研究(B)一般	境界流と沿岸域との相対位置に着目した外洋から沿岸への栄養塩供給に関する研究	2,080,000	地球回転系の視点から、境界流の流向に対する沿岸域の相対位置の違いに着目し、黒潮の左側にある瀬戸内海と対馬暖流の右側にある若狭湾を選択し、現場観測と高解像度の数値モデル計算から外洋水の進入過程に関する物理機構を解明する。
4	環境動態解析部門	郭 新宇	分担	新規	基盤研究(B)一般	黒潮流域で乱流混合によって有光層に供給される栄養塩の変遷過程と生物生産への寄与 (代表:富山大学 張 勁)	1,040,000	数値モデルを用いて、トカラ海峡における強い鉛直混合が有光層への栄養塩輸送及び基礎生産に与える影響を評価する。
5	環境動態解析部門	加 三千宣	分担	継続	基盤研究(S)一般	微細マイクロプラスチックの動態を含む海洋プラスチック循環の包括的解明 (代表:九州大学 磯辺 篤彦)	2,600,000	微細マイクロプラスチックの動態は、マイクロプラスチック汚染研究の最先端である。本研究では、ミッシングリンクと考えられる海底への堆積量の歴史の変遷を明らかにする。
6	環境動態解析部門	森本 昭彦	代表	継続	国際共同研究加速基金(B)	北部タイランド湾の富栄養化解消に向けた栄養塩循環の把握	2,249,000	北部タイランド湾には5つの河川から大量の有機物が供給され富栄養化が進行している。富栄養化の解消に向け、湾内の栄養塩循環に対する各河川の役割と赤潮の発生メカニズムの解明を目的に観測とモデル研究を実施する。
7	環境動態解析部門	吉江 直樹	分担	継続	基盤研究(B)一般	新世代衛星・現地機動観測を融合する突発的な黒潮の沿岸進入過程の予測と理解 (代表:海洋研究開発機構 美山 透)	1,300,000	豊後水道では夏季を中心に高温で貧栄養な黒潮系外洋水が突発的に進入する急潮と呼ばれる現象が発生する。本研究では急潮に即応できる機動観測を実施し、研究代表者らの数値モデルの精度検証を行うとともに、急潮に伴う低次元生態系の応答を明らかにする。
8	化学汚染・毒性解析部門	国末 達也	分担	継続	挑戦的研究(萌芽)	アミロイド凝集を指標とした生体化合物の内分泌攪乱性評価法の創出 (代表:愛媛大学 座古 保)	260,000	凝集性タンパク質であるアミロイドβの凝集を指標とした、簡便かつ高感度な内分泌攪乱性の分析評価法を開発する。開発した分析法を用いて、化学物質の甲状腺ホルモン輸送タンパク質であるトランスサイレチンとの結合能を評価する。
9	化学汚染・毒性解析部門	国末 達也	代表	継続	国際共同研究加速基金(B)	ベトナムの廃棄物・排水処理由来の微細プラスチック/新興化学物質汚染とリスク評価	4,680,000	経済発展が著しいベトナムの首都ハノイおよびその近郊を対象に、廃棄物や排水の不適切処理で環境中への放出が予想されるマイクロプラスチックと有害化学物質の汚染実態と生態リスクに関するデータを集積し、環境改善や対策技術構築のための科学的基礎データを提示する。
10	化学汚染・毒性解析部門	国末 達也	代表	新規	基盤研究(A)一般	アジア太平洋地域における要監視・新興化学物質の時空間トレンド解析と生態リスク評価	10,400,000	アジア太平洋地域で採集した多様な環境・生物試料を用いて、国際社会で関心の高い要監視化学物質の残留性有機汚染物質(POPs)と水銀に加え、近年新たに環境残留性や生態影響が危惧されている新興化学物質における広域汚染の実態と時系列トレンドを解明し、in silico・in vitro・in vivo試験からリスクを評価する。
11	化学汚染・毒性解析部門	後藤 哲智	分担	新規	基盤研究(B)一般	ノンターゲット分析とQSARの融合手法を用いた海洋化学環境の評価 (代表:産業技術総合研究所 頭士 泰之)	1,820,000	ノンターゲット分析で実測した全検出化合物の物理化学特性及び毒性をDetective-QSARで網羅的に解析することにより、海洋化学環境の実態とリスクを把握する。
12	化学汚染・毒性解析部門	野見山 桂	分担	継続	挑戦的研究(開拓)	毒性試験の高感度化・効率化を目指したMITAシステムの構築と実践 (代表:北海道大学 池中 良徳)	390,000	本研究で提案するMITAシステムは、中枢神経の活動や代謝系の観察を、最先端のイメージング技術を用いることにより可視化する。それにより、連続的かつ高感度で、これまで見落とされていたAdverse Effectsを検出する。
13	化学汚染・毒性解析部門	野見山 桂	代表	新規	基盤研究(A)一般	魚類を指標とした発生・中枢神経毒性を示す新規・未規制医薬品類の探索	8,320,000	日本および東南アジア諸国の野生魚類を対象に、新規および未規制のイオン性環境汚染物質の汚染実態を解明し、それら物質の中枢神経毒性・発生毒性のリスクを評価する。既知のイオン性環境汚染物質に加え、これまで検証されていない新たな汚染物質の探索・同定に取り組む。
14	化学汚染・毒性解析部門	野見山 桂	分担	継続	基盤研究(B)一般	魚類胚の全身スクリーニングと統合オミクスを基盤とした化学物質の毒性発現機序解明 (代表:帯広畜産大学 久保 彰)	260,000	新たな動物実験代替法の開発と活用と寄与するゼブラフィッシュ胚を用いて、社会的・学術的に関心の高い化学物質の毒性評価と毒性発現機序解明を試みる。

15	化学汚染・毒性解析部門	野見山 桂	分担	新規	基盤研究(A)一般	脳機能攪乱検出法・診断法の開発を起点としたシグナル毒性評価プラットフォームの創設 (代表:北海道大学 池中 良徳)	1,300,000	一部の化学物質は、脳内の受容体に作用する事で細胞の情報伝達を攪乱すシグナル毒性を示し、予期せぬ影響を引き起こす。本研究では、これまでの毒性試験では検出できなかった、シグナル毒性を起因とする脳機能ネットワーク攪乱を検出するため、新たなイメージング技術の確立を目指すと共に、高感度なバイオマーカーを開発する。
16	化学汚染・毒性解析部門	岩田 久人	代表	継続	国際共同研究加速基金(B)	メキシコ産ワニを対象とした次世代型モニタリング基盤の開発	4,940,000	淡水生態系の頂点に位置するメキシコのモレレットワニを対象に、環境汚染物質による影響を先端技術によって解析し、モニタリング基盤を確立する。具体的には、ユカタン半島に生息するモレレットワニの複数の野生個体群から血液・鱗甲・爪を非侵襲的に採取し、多様な環境汚染物質の曝露(エクスポージャー)を網羅的に測定するとともに、包括的な多元的オミックス解析をおこない、野生個体群への影響とその至適バイオマーカーを明らかにする。
17	化学汚染・毒性解析部門	岩田 久人	代表	新規	基盤研究(A)一般	水棲哺乳類を対象とした化学物質の先進的な有害性・リスク評価法の開発	9,750,000	水棲哺乳類(鯨類・鯨類)に由来する試料を対象に、先進的な化学物質の有害性の評価法(NAMs)を開発する。また、種差の原因となる感受性規定因子の分子的理解を目指す。さらに、それらの知見を統合し、水棲哺乳類を対象にした化学物質のリスクを科学的根拠に基づいて評価する。
18	化学汚染・毒性解析部門	仲山 慶	代表	継続	基盤研究(C)一般	トラフグ口白血症新規遺伝子産物を活用した感染機序の解明とワクチンの開発 (代表:三重大学 一色 正)	130,000	トラフグ口白血原因ウイルスのゲノム情報を解析し、その情報に基づいたウイルスの系統学的解析を行うとともに、病原性因子を特定し、DNAワクチンの開発を行う。
19	化学汚染・毒性解析部門	落合 真理	代表	継続	基盤研究(C)一般	鯨類iPS細胞の樹立と環境汚染物質の神経毒性リスク評価への応用	975,000	鯨類の培養細胞からiPS細胞および神経細胞を作成し、環境汚染物質への曝露による毒性影響を評価する。
20	化学汚染・毒性解析部門	田上 瑠美	代表	継続	基盤研究(C)一般	生物濃縮性・生態毒性を有する未規制化学物質の網羅的探索	1,300,000	国内外で採集した環境水と水生生物試料を対象に、液体クロマトグラフ-四重極飛行時間型質量分析計(LC-QToF-MS/MS)を用いたワイドターゲット(約400種)・サスペクスクリーニング(約3500種)分析により、水生生物に対して高い濃縮性(移行・残留性)を有する化学物質の網羅的探索を試みる。
21	化学汚染・毒性解析部門	田上 瑠美	分担	新規	挑戦的研究(萌芽)	希少鳥類の生息域外保全に資する非侵襲的薬物感受性評価法の開発と臨床応用 (代表:帯広畜産大学 久保田 彰)	130,000	希少鳥類における治療薬物の代謝および感受性をin vitro・in silicoで評価することにより、より安全性の高い投薬プロトコルの確立を目指す。
22	生態・保健科学部門	渡辺 幸三	分担	継続	基盤研究(C)一般	DNA情報に基づく水生昆虫の流域内多様性評価手法の構築と流域管理への応用 (代表:山梨大学 八重樫 咲子)	195,000	環境DNAのメタバーコーディング解析による水生昆虫の流域内の種多様性を評価する
23	生態・保健科学部門	渡辺 幸三	代表	継続	基盤研究(B)一般	ゲノム情報が解明する河川生物の環境応答:自然選択と機能的多様性に着目した保全	4,940,000	河川生物のゲノムワイドの塩基配列情報を解析し、種・個体群レベルおよび群集レベルの環境応答を正確に定量する新規的技術を開発する。
24	生態・保健科学部門	渡辺 幸三	代表	継続	国際共同研究加速基金(B)	ウイルス抵抗性遺伝子を活用したデング熱媒介蚊の効率的な制御	5,590,000	ネッタイシマカのデングウイルス感染・複製への抵抗性を決めている遺伝子をマーカーとして、デングウイルス伝播ポテンシャルが高い蚊地域集団を見つけ、それらを狙い撃ちにした殺虫剤散布などの効率的なデング熱制御手法を提案する。
25	生態・保健科学部門	渡辺 幸三	分担	継続	基盤研究(A)一般	下水疫学を用いたアジアの途上国における病原ウイルス監視基盤の構築と感染リスク制御 (代表:東京大学 富士 謙介)	3,120,000	アジアの途上国の下水を使った病原ウイルスの検出技術の開発と感染リスクを評価する手法の開発
26	生態・保健科学部門	渡辺 幸三	分担	継続	基盤研究(A)一般	河川生息場の時空間的多様性を指標とする生態系管理:動的環境への適応進化と棲み分け (代表:大阪公立大学 竹門 康弘)	3,120,000	生息場の空間分布や種別別年齢と生息種間の遺伝的系統関係との連関を分析し、生息種の種分化に果たす生息場の時空間的多様性の役割(生息場の種分化ポテンシャル)や棲み分けの進化過程を推定する。
27	生態・保健科学部門	渡辺 幸三	分担	継続	基盤研究(B)一般	新型コロナ様パンデミックを誘因する未知&変異病原ウイルスの下水からの早期検出手法 (代表:東北大学 大村 達夫)	2,210,000	人々の社会生活から排出される下水から、パンデミックを誘引する可能性がある未知病原ウイルスや既知病原ウイルスの変異株を早期検出するシステムを開発する。
28	生態・保健科学部門	渡辺 幸三	分担	継続	基盤研究(B)一般	見えない自然を守る~DNAによる河川地下フロンティア領域の可視化 (代表:北海道大学 根岸 淳二郎)	910,000	防災と両立する河川・水辺生態系保全事業の効果の最大化に向けて、見えないフロンティア領域である地下環境(河床間隙水域)をDNA技術の応用により可視化する。
29	生態・保健科学部門	DIVINA MEDINA AMALIN	代表	新規	基盤研究(C)一般	フィリピンでの有害な殺虫剤抵抗性を高める消化管内共生細菌の遺伝子解析	1,560,000	農業害虫の消化管内の共生細菌叢がプロバイオティクス効果により害虫体内で殺虫剤を分解するメカニズムを共生細菌叢の遺伝情報に基づいて解明し、効率的な害虫制御に活用する。
30	生態・保健科学部門	大林 由美子	分担	継続	基盤研究(C)一般	「摂餌利益」による甲殻類マイクロネクトンの海洋生態系における機能評価 (代表:静岡大学 宗林 留美)	130,000	海洋でのバイオマスが多く鉛直移動を行う甲殻類マイクロネクトンについて、摂餌行動がもたらす生理機能への影響(「摂餌利益」)と高次栄養段階へのその評価を調査し、海洋生態系における彼らの機能を評価する。

31	生態・保健科学部門	大林 由美子	分担	新規	国際共同研究加速基金(海外連携研究)	東南アジアにおけるクラゲ類の種多様性および食用クラゲ類の生態的役割の解明 □ (代表:北里大学 三宅 裕志)	520,000	東南アジアのクラゲ類の種多様性・種分化と、餌生物・共生生物を含めた生態を調査する。食用クラゲ類の生態・生息環境・生態系での役割を明らかにすることで、生物や環境の保全と、東南アジアでは大きな産業であるクラゲ漁業の持続的生産に繋げる。
32	生態・保健科学部門	大林 由美子	代表	継続	基盤研究(B)一般	海洋の細菌群集をめぐる“見えない生物間作用”の実態とその機能:栄養塩再生への寄与	2,340,000	海水中の細菌群集をめぐる、有機物の低分子化を介した“見えない生物間作用”を明らかにし、水圏生態系でのその機能、特に栄養塩再生への寄与と一次生産者への影響を解析する。
33	生態・保健科学部門	大林 由美子	分担	継続	基盤研究(A)一般	大気海洋境界領域の微生物学:海泡濃集と雲核へのリンケージ (代表:東京大学 浜崎 恒二)	910,000	大気海洋境界領域における有機物と微生物の動態と、微生物活動が海水飛沫エアロゾルの雲核活性に与える影響を検討する。
34	生態・保健科学部門	大林 由美子	分担	継続	基盤研究(B)一般	マボヤ被囊軟化症における軟化の分子機構の解明 (代表:三重大学 北村 真一)	390,000	病原鞭毛虫Azumiobodo hoyamushiに起因するマボヤの被囊軟化機構を解明する。我々のこれまでの研究結果から、被囊の主成分であるセルロースは分解されていないことが分かったので、本課題では被囊中のタンパク質に注目して、軟化機構の解明を目指す。
35	生態・保健科学部門	大林 由美子	分担	新規	学術変革領域研究(A)	波浪にともなう大気中微粒子の動態と大気海洋間物質交換過程の精緻評価 (代表:広島大学 岩本 洋子)	3,380,000	大気海洋間の物質循環を左右する様々な物質量の交換(フラックス)について、海上風速・海面水温・波浪などの物理分野の解析と、微粒子の粒径分布・成分・生物作用などの生物・化学的な解析との融合により解明し、数値モデルによって検証する。
36	化学汚染・毒性解析部門	仲山 慶	分担	継続	基盤研究(B)一般	マボヤ被囊軟化症における軟化の分子機構の解明 (代表:三重大学 北村 真一)	390,000	病原鞭毛虫Azumiobodo hoyamushiに起因するマボヤの被囊軟化機構を解明する。我々のこれまでの研究結果から、被囊の主成分であるセルロースは分解されていないことが分かったので、本課題では被囊中のタンパク質に注目して、軟化機構の解明を目指す。
37	生態・保健科学部門	鈴木 康嗣	代表	継続	基盤研究(B)一般	内在性ウイルス配列の抗ウイルス機構による媒介蚊の繁殖戦略の解明	3,510,000	媒介蚊ゲノム中に組み込まれているウイルス由来のDNA配列(内在性ウイルス配列)が、媒介蚊の繁殖に重要な役割を果たしているのかを検討する。
38	生態・保健科学部門	鈴木 康嗣	代表	継続	国際共同研究加速基金(B)	媒介蚊はなぜウイルス感染で深刻な病態を示さないのか:不顕性感染メカニズムの解明	4,290,000	媒介蚊がウイルス感染において、病態を発症しない状態、「不顕性感染」を成立させるために重要な宿主遺伝子を同定とその分子機構の理解を目指す。
39	環境動態解析部門	WANG SHUYA	代表	新規	特別研究員奨励費	黒潮流域における流れと地形の相互作用に起因する内部波と乱流混合	1,000,000	黒潮が通過するトカラ海峡とその周辺海域における内部潮汐と近慣性波の形成と伝播、さらに乱流混合への影響を数値モデルから評価する。
40	化学汚染・毒性解析部門	BUENFIL ROJAS ASELA MARISOL	代表	新規	特別研究員奨励費	メキシコ・ワニ野生個体群の化学物質汚染と影響の統合的評価	1,200,000	メキシコのモレレットワニを対象に、環境汚染物質による影響を先端技術によって解析し、影響の統合的評価法を確立する。具体的には、コカタン半島に生息するモレレットワニの野生個体群から血液・鱗甲・爪を非侵襲的に採取し、多様な環境汚染物質の曝露を網羅的に測定するとともに、包括的な多元的オミックス解析をおこなない、曝露とオミックス測定値の関係を明らかにする。
41	生態・保健科学部門	三浦 郁修	代表	継続	特別研究員奨励費	下水中微生物データと機械学習モデルによるノロウイルス感染症の動態理解	3,900,000	下水中微生物データと機械学習モデルを組み合わせるノロウイルス感染症の動態を理解する。
42	生態・保健科学部門	柳原 未奈	代表	継続	特別研究員奨励費	環境モニタリングデータを用いた生態毒性予測手法の開発	3,250,000	既存の大規模データを活用しながら、化学物質が水生生物へ及ぼす複合的な影響を予測する手法を提案する。さらに、対策が求められる化学物質について推定し、毒性影響の低減に活用される知見を報告する。
43	生態・保健科学部門	HOSSAIN ANWAR	代表	新規	特別研究員奨励費	養殖排水中の抗生物質の除去と薬剤耐性菌の制御:バングラディッシュへ適用可能な新技術	1,200,000	バングラディッシュの養殖池からの排水中の抗生物質を除去する技術開発とそれと薬剤耐性菌の制御効果の評価を行う
44	生態・保健科学部門	CRUZ Khristina Judan	代表	継続	特別研究員奨励費	遺伝子組換えティラピアのゲノムワイド探索:養殖における水資源管理への応用	600,000	遺伝子組換えティラピアの機能的遺伝子をゲノムワイドに探索して養殖における水資源管理への応用を目指す。
45	生態・保健科学部門	濱本 耕平	代表	継続	特別研究員奨励費	ナマコ類による底質の蓄積型栄養塩除去と細菌叢変化がサンゴの生育に及ぼす影響の解明	1,430,000	ナマコ類が摂餌を通してどの程度底質から蓄積型栄養塩を取り除いているかを定量的に評価するとともに、その細菌叢組成に与える影響についても理解することを旨とする。

・金額は令和6年度に受け入れた直接経費(補助金、基金)及び間接経費の合計額

3. 2 共同研究

該当なし

3. 3 受託研究

No.	部門	研究担当者	研究課題	委託者	金額(円)	概要
1	環境動態解析部門	郭 新宇	NEDO 非可食性バイオマス为原料とした海洋分解可能なマルチロック型バイオポリマーの研究開発	新エネルギー・産業技術総合開発機構	8,009,226	瀬戸内海と北西太平洋を対象とする海洋生態系とポリマーを考慮したPOPs動態モデル開発を行う。
2	環境動態解析部門	加 三千宣	NEDO 非可食性バイオマス为原料とした海洋分解可能なマルチロック型バイオポリマーの研究開発	新エネルギー・産業技術総合開発機構	4,037,793	マルチロック型で強靱性を有するバイオプラスチックの開発に向けて、自然環境中での高分子材料の動態を解き明かし、プラスチックなどポリマーの細分化メカニズムを明らかにする。
3	環境動態解析部門	吉江 直樹	漁業環境改善推進事業のうち赤潮被害防止対策技術の開発 「有害赤潮プランクトンの出現動態監視および予察技術開発」	(農林水産省) 水産研究・教育機構 水産技術研究所	500,000	西日本沿岸域で多発するカレンニア・ミキモトイによる赤潮の発生・衰退機構を現場観測と数値モデルを組み合わせて明らかにすることを旨とする。
4	環境動態解析部門	吉江 直樹	漁業環境改善推進事業のうち栄養塩の水産資源に及ぼす影響の調査「栄養塩等の水質環境が小型浮魚の餌料環境に及ぼす環境解明」	(農林水産省) 水産研究・教育機構 水産技術研究所	4,800,000	沿岸域における栄養塩濃度の変動と小型浮き魚の餌料として重要なメソ動物プランクトン量の変動の関連性について数値モデルを用いて明らかにすることを旨とする。
5	環境動態解析部門	吉江 直樹	海洋酸性化適応プロジェクト	特定非営利活動法人里海づくり研究会	1,510,000	沿岸域における海洋酸性化の現状について、豊後水道3か所において高精度連続モニタリングすることにより明らかにすることを旨とする。
6	化学汚染・毒性解析部門	国末 達也	NEDO 非可食性バイオマス为原料とした海洋分解可能なマルチロック型バイオポリマーの研究開発	新エネルギー・産業技術総合開発機構	4,471,600	海洋環境におけるマルチロック型バイオポリマーの長期動態・生態影響予測システムを構築するため、海水-ポリマー界面におけるPOPsの吸着モデルを開発する。
7	化学汚染・毒性解析部門	国末 達也	オープンイノベーション研究・実用化推進事業 高品質養殖魚の育種・完全養殖サイクルの構築と出荷社会実装	農業・食品産業技術総合研究機構生物系特定産業技術研究支援センター	4,700,000	同一条件で飼育されたスマの筋肉中PCBsおよび水銀蓄積濃度に個体差や季節間差が認められるかを検証し、低濃度個体群の選定と要因解析を実施する。
8	化学汚染・毒性解析部門	国末 達也	タイヤトレッドゴム抽出液のノンターゲット分析	株式会社ブリヂストン	12,999,290	タイヤから溶出される添加剤由来化学物質を高分解能LC-QToF-MS/MSで網羅的にスクリーニングし、検出される化合物群の将来的な環境への潜在的リスクを予測する。
9	化学汚染・毒性解析部門	国末 達也	日ASEAN科学技術・イノベーション協働連携事業 フィリピンラグナ州の水源から飲用水にわたるペルフルオロおよびポリフルオロアルキル化合物(PFAS)の体系的モニタリング調査	科学技術振興機構	1,300,000	フィリピンのラグナ州から採集した原水サンプルおよび飲料水中のPFASレベルを明らかにすることで、ヒト健康リスクの評価とフィリピン国内における今後のPFAS規制に有用な基礎データを提示する。
10	化学汚染・毒性解析部門	田上 瑠美	創発的研究支援事業 環境リスクの高い未規制化学物質の探知とリスク低減措置の検討	科学技術振興機構	6,500,000	高い感度を有するLC-MS/MSと高い質量分解能を有するLC-QToF-MS/MSを活用した日本および南・東南アジア諸国の水圏環境に残留する人工化学物質とそれらの環境変化体の網羅分析を試みる。また、環境動態、生物濃縮性、生態毒性を解析することにより、生態リスクの高い未規制化学物質(優先的に詳細調査すべき化学物質と変化体)の提示を目指す。
11	化学汚染・毒性解析部門	田上 瑠美	令和6年度化学物質規制対策「大学・公的研究機関と連携した化学物質管理高度化推進事業(AI技術を用いた魚類における「代謝されにくさ」を決定づける化学物質の特徴探索)」	九州工業大学	959,200	生物濃縮係数の実測値とAIモデルによる予測値を比較し、「代謝されにくい」と「代謝されやすい」と推定される化学物質を識別する。OECDテストガイドライン319Bに従い、コイの肝S9画分を用いた「代謝されにくい」物質上位10種と「代謝されやすい」物質上位10種を被験物質として、in vitro代謝試験を実施して、肝代謝パラメータのin vitro内因性クリアランスを算出する。in vitro内因性クリアランスを「代謝されにくい」物質と「代謝されやすい」物質で比較検証する。

12	化学汚染・毒性解析部門	岩田 久人	農学・環境学分野に関する学術研究動向及び学術振興方策-環境化学・毒性学分野における新たな潮流の解析	日本学術振興会	5,200,000	環境化学・毒性学分野における新たな研究の潮流を解析し、今後の研究方策を提言する。
13	化学汚染・毒性解析部門	仲山 慶	海洋流出マイクロプラスチックの物理・化学的特性に基づく汚染実態把握と生物影響評価(高懸念マイクロプラスチックの生物影響評価に関する研究)	(環境省)国立環境研究所	5,309,000	タイヤ、再生プラ、繊維を対象に魚類に対する有害な影響を検出し、その閾値に基づいて生態リスクを評価する。
14	化学汚染・毒性解析部門	仲山 慶	令和6年度化学物質規制対策「大学・公的研究機関と連携した化学物質管理高度化推進事業(AI技術を用いた魚類における「代謝されにくさ」を決定づける化学物質の特徴探索)」	九州工業大学	383,680	魚類S9画分を用いた代謝試験から、化学物質の難代謝性を評価し、その化学的特徴から代謝されにくさを予測するモデルを構築する。
15	化学汚染・毒性解析部門	仲山 慶	タイヤトレッドゴム抽出液のターゲット分析	株式会社ブリヂストン	9,000,710	タイヤ浸出液中の化学物質のプロファイルを解析し、毒性およびそのポテンシャルを推定する。
16	生態・保健科学部門	大林 由美子	宇和島港海域環境調査	三重大学	3,149,669	魚類のスクーチカ症の原因虫 Miamiensis avidus の環境動態の解明を行っている。
17	生態・保健科学部門	大林 由美子	NEDO 非可食性バイオマスを原料とした海洋分解可能なマルチロック型バイオポリマーの研究開発	新エネルギー・産業技術総合開発機構	575,000	海洋環境におけるマルチロック型バイオポリマーの長期動態・生態影響予測システムを構築するため、海水-ポリマー界面におけるPOPsの吸脱着モデルを開発する。
18	生態・保健科学部門	大林 由美子	伊方原発温排水影響調査	愛媛県	650,000	伊方原発の温排水の影響について、海洋の流動場および動物プランクトンおよび植物プランクトン現存量を調査する。
19	生態・保健科学部門	三浦 郁修	戦略的創造研究推進事業 大規模社会データを縮約する数理疫学手法の構築:理論に基づく感染症対策の新展開	科学技術振興機構	10,400,000	異分野において収集されているが未だ活用されていない「代替データ(人々の社会活動やウイルスの蔓延状況を反映する多様なデータ)」を統合し、迅速かつ詳細な感染動態の把握と介入政策の最適化を実現する数理的アプローチを提案する。

・金額は令和6年度に受け入れた直接経費及び間接経費の合計額

3. 4 各種研究助成金(民間・財団等), 奨学寄付金等

No.	部門	研究担当者	研究課題	寄附者	金額(円)	概要
1	環境動態解析部門	郭 新宇	海洋科学に関する研究のため	Dr. Chen-Tung Arthur Chen	1,002,024	東シナ海を中心とする海洋生態系に関わる栄養塩輸送の研究
2	環境動態解析部門	吉江 直樹	栄養塩類から高次生態系を含む統合シミュレーションの構築	特定非営利活動法人瀬戸内海研究会	1,500,000	海水中の微量な肥料物質から魚類などの高次栄養段階生態系までを包括的に取り扱うことができる統合モデルの構築を目的とした研究を実施する。
3	化学汚染・毒性解析部門	仲山 慶	環境に調和し、自在に分解できる高吸水性ポリマーの開発	公益財団法人 旭硝子財団	3,000,000	高吸水性ポリマーの分解性および生物への影響を評価する。

・金額は令和6年度に受け入れた直接経費及び間接経費の合計額

3. 5 受託事業

No.	部門	研究担当者	研究課題	委託者	金額(円)	概要
1	科学汚染・毒性解析部門	Chalida CHOMPO OBUT (岩田 久人)	論文博士号取得希望者に対する支援事業	日本学術振興会	1,200,000	タイ・バンコクの住民を対象に、マイクロプラスチック曝露量と血中トランスクリプトームの関係を明らかにする。
2	生態・保健科学部門	渡辺 幸三	二国間交流事業 媒介蚊の包括的ゲノム解析による宿主-ウイルス-細菌の相互作用の解明	日本学術振興会	2,500,000	フィリピンにおいて、蚊ゲノム、蚊に感染しているウイルス叢と細菌叢の3者のゲノム情報を包括的に集めることで宿主-ウイルス-細菌の相互作用の解明を目指す国際共同研究
3	生態・保健科学部門	渡辺 幸三	二国間交流事業 蚊ウイルス叢の網羅的解析による未知ウイルスの探索:機械学習に基づく宿主動物の推定	日本学術振興会	2,000,000	インドネシアにおいて、ネッタイシマカなどの蚊のウイルス叢と網羅的に解明してそこから未知ウイルスを探索する国際共同研究
4	生態・保健科学部門	渡辺 幸三	研究拠点形成事業(B.アジア・アフリカ学術基盤形成型) 化学物質リスク管理へのワンヘルスアプローチ	日本学術振興会	6,732,000	フィリピン、インドネシア、タイ、バングラデシュ、マレーシア、日本の6か国の24研究機関による化学物質リスク管理へのワンヘルスアプローチに関する国際研究ネットワークを構築する。

・金額は令和6年度に受け入れた直接経費及び間接経費の合計額

3. 6 補助金

該当なし

4. 研究成果

(暦年で2024年に出版、掲載されたもの)

4. 1 著 書

該当なし

4. 2 学協会誌等

環境動態解析部門

原 著

- 1) Dong M. and Guo, X. (2024): Multiple timescale variations in fronts in the Seto Inland Sea, Japan. *Ocean Science*, **20**, 1527-1546, <https://doi.org/10.5194/os-20-1527-2024>.
- 2) Wang A., Guo, X., Ding, X., Shi, J., Tang, J., Gao, H. (2024): Effect of Ocean Dynamic Processes on the Temporal-spatial Pattern of Persistent Organic Pollutants (PCB-153 and BDE-47) in the Shelf Seas. *Journal of Hazardous Materials*, **480**, 136422. <https://doi.org/10.1016/j.jhazmat.2024.136422>. (2024.11)
- 3) Wang, S., Guo, X., Cao, A., Tsutsumi, E., Chen, X. (2024). Parametric subharmonic instability of the M2 internal tides in the Tokara Strait. *Journal of Geophysical Research: Oceans*, **129**, e2022JC019622. <https://doi.org/10.1029/2022JC019622>.
- 4) Cheng, S., Cao, A., Song, J., Guo, X. (2024): Contribution of high-mode near-inertial waves to enhanced typhoon-induced sea surface temperature cooling in the South China Sea. *Ocean Modelling*, **192**, 102452, <https://doi.org/10.1016/j.ocemod.2024.102452>.
- 5) Liu, Y., Mao, X., Shi, J., Luo, Y., Guo, X., Wang, Y., (2024): Seasonal and spatial variations of dissolved inorganic nitrogen exchange between the Yellow Sea and the East China Sea and the influencing factors. *Marine Pollution Bulletin*, **208**, 116992, <https://doi.org/10.1016/j.marpolbul.2024.116992>.
- 6) Ayoub, N.K., M.P. Chidichimo, E. Dever, X. Guo, S.Y. Kim, M. Krug, B.M. Míguez, T. Morris, M. Roughan, J. Sprintall, K. Tanaka, R.E. Todd, J. Wilkin, E. Álvarez-Fanjul, M. Andres, A. Bosse, C.A. Edwards, J. Gula, C.G. Kerry, Y. Miyazawa, P. Oddo, E. Oka, and K.D. Zaba. (2024): Observing ocean boundary currents: Lessons learned from six regions with mature observational and modeling systems. *Oceanography*, **37**(4), 82-91, <https://doi.org/10.5670/oceanog.2024.504>.
- 7) Zhang, J., Guo, X., Zhu, L., Feng, J., Zhao, L. (2024): Tracing the sources of nutrients through the Tsushima Strait. *Acta Oceanologica Sinica*, **43**(6), 142–152, doi: 10.1007/s13131-024-2372-1.
- 8) Onitsuka, G., Yoshida, G., Shimabukuro, H., Takenaka, S., Tamura, T., Kakehi, S., Setou, T., Guo, X., Higashi, H., (2024): Modeling the growth of the cultivated seaweed *Undaria pinnatifida* under climate change scenarios in the Seto Inland Sea, Japan. *Journal of Applied Phycology*, **36**(5), 3077-3090, <https://doi.org/10.1007/s10811-024-03291-1>.
- 9) Yang, M., Guo, X., Zheng, J., Miyazawa, Y. (2024): North-south discrepancy in the contributors to CB153 accumulation in the deep water of the Sea of Japan, *Science of The Total Environment*, **939**, 173599, <https://doi.org/10.1016/j.scitotenv.2024.173599>.
- 10) Zhao, X., Gong, X., Gong, X., Liu, J., Wang, G., Wang, L., Guo, X. and Gao, H. (2024): Evolution of 3-D chlorophyll in the northwestern Pacific Ocean using a Gaussian-activation deep neural network model. *Frontier in Marine Science*, **11**, 1378488. doi: 10.3389/fmars.2024.1378488.
- 11) Yu, D., Guo, X., Wang, A., Wu, Z., Shi, J. (2024): Simulation and parameter determination of the net sorption of phenanthrene by sediment particles. *Ecotoxicology and Environmental Safety*, **278**, 116440, <https://doi.org/10.1016/j.ecoenv.2024.116440>.
- 12) Wang, A., Guo, X., Ding, X., Shi, J., Tang, J. (2024): Effect of hydrodynamic and ecosystem conditions on persistent organic pollutant temporal-spatial variations in the Yellow Sea. *Journal of Hazardous Materials*, **469**, 134051, <https://doi.org/10.1016/j.jhazmat.2024.134051>.
- 13) Guo, Z., Wang, S., Cao, A., Chen, X., Song, J., Guo, X. (2024): Variability of the M2 internal tides in the Luzon Strait under

- climate change. *Climate Dynamics*. **62** (6), 5019-5028, <https://doi.org/10.1007/s00382-024-07148-8>.
- 14) Wang, S., Guo, X., Morimoto, A., Cao, A., Tsutsumi, E., Miyazawa, Y., Varlamov, S.M. (2024): Semidiurnal Internal Tides in a Shelf Sea South of Japan: Characteristics, Energetics, and Temporal Variations. *Progress in Oceanography*, **222**, 103229. <https://doi.org/10.1016/j.pocean.2024.103229>.
 - 15) Zhang, J., Zhu, L., Guo, X., Wang, Y., Feng, J. and Zhao, L. (2024): Export production in a continental shelf with multisource nutrient supply. *Frontier in Marine Science*, **11**, 1338835. <https://doi.org/10.3389/fmars.2024.1338835>.
 - 16) Pokavanich, T., and Guo, X. (2024): Saltwater intrusion in Chao Phraya Estuary: A long, narrow and meandering partially mixed estuary influenced by water regulation and abstraction, *Journal of Hydrology: Regional Studies*, **52**, 101686, <https://doi.org/10.1016/j.ejrh.2024.101686>.
 - 17) Ding X., Li, X., Wang, A., Guo, X., Xu, X., Liu, C., Qin, X., Xie, Y., Wei, Y., Cui, Z., Jiang, T., (2024): Unprecedented phytoplankton blooms in autumn/winter in the southern Bohai Sea (China) due to high Yellow River discharge: Implications of extreme rainfall events, *Journal of Environmental Management*, **351**, 119901, <https://doi.org/10.1016/j.jenvman.2023.119901>.
 - 18) Tong-u-dom, S., Morimoto, A., Leng, Q., Guo, X. (2024): Seasonal variation in the current field and development of bottom cold water in Harima-Nada. *Journal of Oceanography*, **80**, 1-20. <https://doi.org/10.1007/s10872-023-00702-8>.
 - 19) Ichikawa, K., Noda, J., Sakemi, R., Yufu, K., Morimoto, A., Onishi, H., Pakavanich, T. (2024): Sea surface height measurements by Nadir UAV altimeters using Nadir LiDAR and low-cost GNSS Reflectometry. *Remote sensing*. **2024**, 16, 4577. <https://doi.org/10.3390/rs16234577>
 - 20) Kuwae, M., Yokoyama, Y., Tims, S., Froehlich, M., Fifield, L. K., Aze, T., Tsugeki, N., Doi, H., and Saito, Y. (2024): Toward defining the Anthropocene onset using a rapid increase in anthropogenic fingerprints in global geological archives. *PNAS*, **121**, e2313098121.
 - 21) Capo, E., Picard, M., Nakane, K., Kuwae, M., Bertilsson, S., Kagami, M., Liu, X., Sakai, Y., Tsugeki, N. (2024): A sedimentary DNA perspective about the influence of environmental and food-web changes on the microbial eukaryotic community of Lake Biwa. *Freshwater Biology* **69** 1553-1567.
 - 22) Williams, M., Zalasiewicz, J., Barnosky, A.D., Leinfelder, R., Head, M.J., Waters, C.N., McCarthy, F.M.G., Cearreta, A., Aldridge, D.C., McGann, M., Hamilton, P.B., Summerhayes, C.P., Syvitski, J., Zinke, J., Cundy, A.B., Fialkiewicz-Kozielec, B., McNeill, J.R., Kuwae, M., Rose, N.L., Turner, S.D., Saito, Y., Wagemann, M., Stegner, M.A., Yasuhara, M., Han, Y., Wrisdale, A., Holmes, R., Berrio, J.C., 2024. Palaeontological signatures of the Anthropocene are distinct from those of previous epochs. *Earth-Science Reviews* **255**, 104844.
 - 23) Nihei, Y., H. Ota, M. Tanaka, T. Kataoka and J. Kashiwada. (2024). Comparison of concentration, shape, and polymer composition between microplastics and mesoplastics in Japanese river waters. *Water research*, **249**, 120979, doi: 10.1016/j.watres.2023.120979
 - 24) Kataoka, T., Iga, Y., Baihaqi, R. A., Hadiyanto, H., & Nihei, Y. (2024). Geometric relationship between the projected surface area and mass of a plastic particle. *Water research*, **261**, 122061, doi: 10.1016/j.watres.2024.122061.
 - 25) Kataoka, T., Yoshida, T., & Yamamoto, N. (2024). Instance segmentation models for detecting floating macroplastic debris from river surface images. *Frontiers in Earth Science*, **12**, doi: 10.3389/feart.2024.1427132
 - 26) 大江悠人, 古谷昌大, 片岡智哉(2024). 紫外線照射実験に基づく河川流域内プラスチックごみからの微細プラスチック発生量推計. 土木学会論文集特集号(水工学), **80(16)**, 23-16030. doi: 10.2208/jscej.23-16030
 - 27) Sahana, M. I., Fuji, R., Takahashi, T., & Hinata, H. (2024). Tsunami data assimilation using high-frequency radar-derived surface currents by considering beam angle-dependent measurement error distributions. *Earth and Space Science*, **11(10)**, e2024EA003561.

総説等

- 1) 加 三千宣 (2024) TOPICS 第四紀学 「人新世の科学的根拠とその否認」. 日本地球惑星科学連合ニュースレター 20 (4) https://www.jpгу.org/wp-content/uploads/2024/11/JGL_20-4.pdf
- 2) 加 三千宣・齋藤文紀 (2024) 年代層序単元としての「人新世」の科学的根拠とその否認について—人新世作業

化学汚染・毒性解析部門

原 著

- 1) Yulu, T., Hao, Y., Qu, C., Yang, F., Iwata, H., Guo, J. (2024): Biodiversity of multi-trophic biological communities within riverine sediments impacted by PAHs contamination and land use changes. *Environmental Pollution*, **361**, 124884-124884, doi.org/10.1016/j.envpol.2024.124884
- 2) Chen, H., Chigusa, K., Kanda, K., Tanoue, R., Ochiai, M., Iwata, H. (2024): Developmental toxicity of short-chain chlorinated paraffins on early-stage chicken embryos in a shell-less (ex-ovo) incubation system. *Ecotoxicology and Environmental Safety*, **276**, 116304-116304, doi.org/10.1016/j.ecoenv.2024.116304
- 3) Kanda, K., Iwata, H. (2024): Tris(2-chloroethyl) phosphate (TCEP) exposure inhibits the epithelial-mesenchymal transition (EMT), mesoderm differentiation, and cardiovascular development in early chicken embryos. *Science of The Total Environment*, **922**, 171242-171242, doi.org/10.1016/j.scitotenv.2024.171242
- 4) Liang, J., Li, C., Mo, J., Iwata, H., Rehman, F., Song, J., Guo, J. (2024): Metatranscriptomic profiles reveal the biotransformation potential of azithromycin in river periphyton. *Water Research*, **251**, 121140-121140, doi.org/10.1016/j.watres.2024.121140
- 5) Zhang, B., Yu, W., Liang, J., Yao, X., Sun, H., Iwata, H., Guo, J. (2024): Seasonal variation in structural and functional distribution of periphyton in a macrolide antibiotics-contaminated river. *Environmental Pollution*, **345**, 123495-123495, doi.org/10.1016/j.envpol.2024.123495
- 6) Nakayama, K., Obayashi, Y., Munechika, L., Kitamura, SI., Yanagida, T., Honjo, M., Murakami, S., Hirose, E. (2024): Regeneration of the tunic cuticle is suppressed in the edible ascidian *Halocynthia roretzi* contracting soft tunic syndrome. *Diseases of Aquatic Organism*, **159**, 37-48, doi.org/10.3354/dao03801.2024.
- 7) Nakayama, K., Kitamura, SI.(2024): Susceptibility of common carp to the new ulcer disease-causing atypical *Aeromonas salmonicida* is temperature-dependent, but not body size-dependent. *Fish Pathology*, **59**, 29-32, doi.org/10.3147/jsfp.59.29.2024.
- 8) Nguyen, H. T., Isobe, T., Iwai-Shimada, M., Takagi, M., Ueyama, J., Oura, K., Tanoue, R., Kunisue, T., Nakayama, S. F.(2024): Urinary concentrations and elimination half-lives of parabens, benzophenones, bisphenol and triclosan in Japanese young adults. *Chemosphere*, **349**, 140920, doi.org/10.1016/j.chemosphere.2023.140920
- 9) Behnisch, P., Besselink, H., Suzuki, G., Buchinger, S., Reifferscheid, G., Lukas, M., Wollenweber, M., Wollenweber, S., Hollert, H., Kunisue, T., Tue, N. M., Alijagic, A., Larsson, M., Engwall, M., Ohno, K., Brouwer, A. (2024): Results of an international interlaboratory study on dioxin-like activities in drinking-, river surface- and wastewater using DR CALUX bioassay. *Science of The Total Environment*, **920**, 170759, doi.org/10.1016/j.scitotenv.2024.170759
- 10) Hoang, A. Q., Tue, N. M., Goto, A., Karyu, R., Tuyen, L. H., Viet, P. H., Matsukami, H., Suzuki, G., Takahashi, S., Kunisue, T. (2024): Bioaccessibility of halogenated flame retardants and organophosphate esters in settled dust: Influences of specific dust matrices from informal e-waste and end-of-life vehicle processing areas in Vietnam. *Science of The Total Environment*, **926**, 172045, doi.org/10.1016/j.scitotenv.2024.172045
- 11) Tue, N. M., Kimura, E., Maekawa, F., Goto, A., Uramaru, N., Kunisue, T., Suzuki, G. (2024): Uptake, elimination and metabolism of brominated dibenzofurans in mice. *Toxics*, **12**, 656, doi.org/10.3390/toxics12090656
- 12) Polesca, C., Passos, H., Sousa, A. C. A., Tue, N. M., Coutinho, J. A. P., Kunisue, T., Freire, M. G. (2024): Sustainable pretreatment of blood samples using hydrophobic eutectic solvents to improve the detection of bisphenol A. *Green Chemistry*, **27**, 200-208, doi.org/10.1039/d4gc03396e
- 13) Tanaka, Y., Shindo, A., Dong, W., Nakamura, T., Ogura, K., Nomiyama, K., Teraoka, H. (2024): Tyrosinase inhibition prevents non-coplanar polychlorinated biphenyls and polybrominated diphenyl ethers-induced hyperactivity in developing zebrafish: Interaction between pigmentation and neurobehavior. *Neurotoxicology and Teratology*, **104**, 107373, doi:

10.1016/j.ntt.2024.107373.

- 14) Nomiyama, K., Sato, R., Sato, F., Eguchi, A. (2024): Accumulation of persistent organic pollutants in the kidneys of pet cats (*Felis silvestris catus*) and the potential implications for their health. *Science of The Total Environment*, **933**, 173212, doi: 10.1016/j.scitotenv.2024.173212.
- 15) Hirai, A., Toda, C., Yohannes, Y. B., Collins, N., Tamba, M., Nomiyama, K., Eguchi, A., Hoshi, N., Hirano, T., Nakayama, S.M.M., Ishizuka, M., Ikenaka, Y. (2024): Role of brain monoamines in acetamiprid-induced anxiety-like behavior. *Toxicology*, **505**, 153839, doi: 10.1016/j.tox.2024.153839.
- 16) Nomiyama, K., Sato, F., Shimasaki, M., Mizukawa, H., Khidkhan, K., Ikenaka, Y., Ishizuka, M. (2024): Assessment of Organohalogen Compounds Contamination in Pet Food and Associated Health Risks: A Case Study in Japan. *Environmental Monitoring and Contaminants Research*, **4**, 38-54, doi <https://doi.org/10.5985/emcr.20230009>.
- 17) Ahmed, R.Y.S., Tanoue, R., Chen, X., Kawai, Y.K., Kubota, A. (2024): Assessment of developmental toxicity and the potential mode of action underlying single and binary exposure to estrogenic endocrine disrupting chemicals in zebrafish (*Danio rerio*). *Comparative Biochemistry and Physiology, Part C*, **277**, 109821, doi: 10.1016/j.cbpc.2023.109821.
- 18) Uno, Y., Tsukiyama-Kohara, K., Ishizuka, M., Mizukawa, H., Murayama, N., Yamazaki, H. (2024): Investigation of functional cytochrome P450 4A enzymes in liver and kidney of pigs, cats, tree shrews, and dogs in comparison with the metabolic capacity of human P450 4A11. *Drug Metabolism and Disposition*, **52(9)**, 1009-1019, doi.org/10.1124/dmd.124.001780

総説等

なし

生態・保健科学部門

原 著

- 1) Hossain, A., Nishimura, Y., Salma, U., Tokumura, M., Nishino, T., Raknuzzaman, M., Noro, K., Watanabe, K., Amagai, T., Makino, M. (2024): Effects of Water Matrices on the Removal of Oxytetracycline Antibiotic and Total Organic Carbon (TOC) using Four Different Oxidation Processes, *Results in Engineering*, **24**, 103183. doi: 10.1016/j.rineng.2024.103183
- 2) Francisco, M. E., Carvajal, T. M. and Watanabe, K. (2024): Hybrid Machine Learning Approach to Zero-Inflated Data Improves Accuracy of Dengue Prediction, *PLOS Neglected Tropical Diseases*, **18(10)**, e0012599. doi: 10.1371/journal.pntd.0012599
- 3) Shafiujjaman, Md., Mandal, S. C., Moniruzzaman, M., Mamun, M. H.-A., Sheikh, M. A. A., Watanabe, K., and Hossain, A. (2024): Environmental and Human Health Risk of Heavy Metals in Freshwater and Brackish Water Nile Tilapia (*Oreochromis niloticus*), *Aquaculture, Environmental Geochemistry and Health*, **46**, 477. doi: 10.1007/s10653-024-02249-z
- 4) Cruz, K. G. J., Okamoto, T., Bongulto, K. A., Gandalera, E. E., Kagia, N., Watanabe, K. (2024): Natural Compound-Induced Downregulation of Antimicrobial Resistance and Biofilm-Linked Genes in Wastewater *Aeromonas* species, *Frontiers in Cellular and Infection Microbiology*, **14**, 1456700. doi: 10.3389/fcimb.2024.1456700
- 5) Gamboa, M., Gotoh, Y., Larano, A. and Watanabe, K. (2024): Response of wild aquatic insect communities to thermal variation through comparative landscape transcriptomics, *Journal of Comparative Physiology B*, **116(4)**, e22137. doi: 10.1002/arch.22137
- 6) Sogame, Y., Ogata M., Hakozaiki, S., Saito, Y., Suzuki, T., Saito, R., Suizu, F., and Watanabe, K. (2024): α,β -trehalose, an intracellular substance in resting cyst of colpodid ciliates as a key to environmental tolerances, *Biochemical and Biophysical Research Communications*, **716**, 149971. doi: 10.1016/j.bbrc.2024.149971
- 7) Francisco, M. E. and Watanabe, K. (2024): Innovative house structures for malaria vector control in Nampula district, Mozambique: Assessing mosquito entry prevention, indoor comfort and community acceptance, *Frontiers in Public Health*, **12**, 1404493. doi: 10.3389/fpubh.2024.1404493

- 8) Muharromah, A. F., Carvajal, T. M., Regilme, M. A. F., and Watanabe, K. (2024): Fine-scale adaptive divergence and population genetic structure of *Aedes aegypti* in Metropolitan Manila, Philippines, *Parasites & Vectors*, **17**, 233. doi: 10.1186/s13071-024-06300-x
- 9) Reyes, J. I. L., Suzuki, T., Suzuki, Y., Watanabe, K. (2024): Detection and quantification of natural Wolbachia in *Aedes aegypti* in Metropolitan Manila, Philippines, *Frontiers in Cellular and Infection Microbiology*, **14**, 1360438, doi: 10.3389/fcimb.2024.1360438/full
- 10) Regilme, M. A. F., Sato, M., Tamura, T., Arai, R., Sato, M. O., Ikeda, S., Watanabe, K., Genetic structure and Rickettsia infection rates in *Ixodes ovatus* and *Haemaphysalis flava* ticks across different altitudes, *PLoS ONE*, **19(3)**, e0298656. doi: 10.1371/journal.pone.0298656
- 11) Rachmawati, Y., Ekawardhani, S., Fauziah, N., Faridah, L. and Watanabe, K. (2024): Potential way to develop dengue virus detection in *Aedes* larvae as an alternative for dengue active surveillance: A Literature Review, *Tropical Medicine and Infectious Disease*, **9(3)**, 60. doi: 10.3390/tropicalmed9030060
- 12) Uddin, M. M., Suzuki, Y., Reyes, J. I. L., Watanabe, K. (2024): In vitro characterization of cell-fusing agent virus DNA forms in *Aedes aegypti* mosquitoes, *Virology*, **591**, 109982. doi: 10.1016/j.virol.2024.109982
- 13) Miyazawa, S., Wong, T-S., Ito, G., Iwamoto, R., Watanabe, K., Boven, M. v., Wallinga, J., Miura, F. (2024): Wastewater-based reproduction numbers and projections of COVID-19 cases in multiple cities in Japan, 2022, *Eurosurveillance*, **29 (8)**, 2300277. doi: 10.2807/1560-7917.ES.2024.29.8.2300277
- 14) Suzuki, Y., Suzuki, T., Miura, F., Reyes, J. I. L., Asin, I. C. A., Mitsunari, W., Mohammad, M. U., Watanabe, K.(2024): No detectable fitness cost of infection by cell-fusing agent virus in *Aedes aegypti* mosquitoes, *Royal Society Open Scienc*, **11 (1)**, 231373. doi: 10.1098/rsos.231373
- 15) Honda, R., Kumar, M., Mardalisa, Wang, R., Sabar, M. A., Chaminda, T., Sirikanchana, K., Makkeaw, P., Sulfikar, Ju, F., Jiang, G., Li, B., Chiemchaisri, C., Gomi, R., Amarasiri, M., Venter, H., Nishiyama, M., Watanabe, T., Ihara, M., Kasuga, I., Watanabe, K. and Suzuki, S. (2024): Recommendations of key elements within an integrated monitoring framework of antimicrobial resistance for Asian countries, *Environmental Science & Technology Letters*, **11 (1)**, 5-8. doi: 10.1021/acs.estlett.3c00820
- 16) Nakayama K, Obayashi Y, Munechika L, Kitamura S-I, Yanagida T, Honjo M, Murakami S, Hirose E. (2024): Regeneration of tunic cuticle is suppressed in edible ascidian *Halocynthia roretzi* contracting soft tunic syndrome. *Diseases of Aquatic Organisms*, **159**, 37–48. doi: 10.3354/dao03801.

総説等

なし

国際・社会連携室

原著

- 1) Bardossy ES, Volpe S, Suzuki Y, Merwaiss F, Faraj S, Montes M, Saleh MC, Alvarez DE, Filomatori CV. (2024): Molecular basis of RNA recombination in the 3'UTR of chikungunya virus genome. *Nucleic Acids Res.* 2024 Sep 9;**52(16)**:9727-9744. doi: 10.1093/nar/gkae650.
- 2) Reyes JIL, Suzuki T, Suzuki Y, Watanabe K. (2024): Detection and quantification of natural Wolbachia in *Aedes aegypti* in Metropolitan Manila, Philippines using locally designed primers. *Front Cell Infect Microbiol.* 2024 Mar 18;**14**:1360438. doi: 10.3389/fcimb.2024.1360438.
- 3) Suzuki Y, Suzuki T, Miura F, Reyes JIL, Asin ICA, Mitsunari W, Uddin MM, Sekii Y, Watanabe K. (2024): No detectable fitness cost of infection by cell-fusing agent virus in *Aedes aegypti* mosquitoes. *R Soc Open Sci.* 2024 Jan 10;**11(1)**:231373. doi: 10.1098/rsos.231373.

総説等

なし

4. 3 学内, 所内誌等

環境動態解析部門

- 1) 郭 新宇 (2024): 研究課題紹介, 科研費 学術変革領域研究(A)「沿岸域と黒潮流域の双方向物質輸送と生物生産への影響評価」, CMES ニュース, No.49, 2-3.
- 2) 森本 昭彦 (2024): 研究集会開催報告, 「瀬戸内海水産環境研究集会」, LaMer ニュース, No.16, 7.

化学汚染・毒性解析部門

- 1) 岩田 久人 (2024): 環境汚染物質の有害性を評価するための New Approach Methodologies (NAMs), 環境報告書 2024, 12
- 2) 岩田 久人 (2024): 研究課題紹介, 科研費 基盤研究(A), 「水棲哺乳類を対象とした化学物質の先進的な有害性・リスク評価法の開発」 CMES ニュース, No.50, 3.
- 3) 岩田 久人 (2024): 拠点長新年度挨拶, LaMer ニュース, No.17, 6.
- 4) 岩田 久人 (2024): 2024 年度共同利用・共同研究採択課題, LaMer ニュース, No.17, 9-12.
- 5) 岩田 久人 (2024): 環境汚染物質の有害性を評価するための New Approach Methodologies (NAMs), 環境報告書 2024, 12
- 6) 石橋 弘志(2024): 受賞紹介, 第 2 回日本環境毒性学会進歩賞, CMES ニュース No.49, 6
- 7) 野見山桂 (2024): シンポジウム開催報告, 「7th International Chemical Hazard Symposium」 「第 7 回環境化学討論会 北海道東北地区部会・中国四国地区部会合同シンポジウム」, LaMer ニュース, No.16, 7-8.
- 8) 野見山 桂(2024):研究課題紹介, 科研費 基盤研究(A), 「魚類を指標とした発生・中枢神経毒性を示す新規・未規制医薬品類の探索 (2024 年度～2027 年度)」, CMES ニュース No.50, 4-5.
- 9) 水川 葉月(2024): シンポジウム開催報告「One Health シンポジウム～環境の健全性評価に多角的な視点でアプローチする～の開催報告, LaMer ニュース, No.16, 8.

生態・保健科学部門

- 1) 渡辺 幸三 (2024) : 研究課題紹介, 日本学術振興会 拠点形成事業 B. アジア・アフリカ学術基盤形成型「化学物質リスク管理へのワンヘルスアプローチ」(2024 年度～2026 年度) , CMES ニュース, No.50 1-2.

国際・社会連携室

- 1) 鈴木 康嗣 (2024) : CMES workshop for Launching Interdisciplinary Communication and Knowledge sharing (CLICKs) の開催 報告, CMES ニュース, No.49 1-2.

4. 4 一般誌等

環境動態解析部門

- 1) 豊田隆寛・浦川昇吾・相木秀則・中野英之・新藤永樹・吉村裕正・川上雄真・坂本圭・山上晃央・牛島悠介・原田やよい・小林ちあき・富田裕之・東塚知己・山中吾郎 (2024): 高分解能の結合予測実験を用いた熱帯不安定波の形成過程の解析, 「月刊海洋」, 海洋出版株式会社, 2024年4月号, 255-262, (ISSN: 0916-2011)

4. 5 報告書等

環境動態解析部門

- 1) 後川龍男, 金澤孝弘, 恵崎 撰, 加川真行, 上原達亮, 戸田竜哉, 相田 聡, 永井崇裕, 茅野昌大, 渡邊俊輝, 内田喜隆, 畑間俊弘, 馬場俊典, 毛利文香, 野田 誠, 宮村和良, 岡田 理, 三門哲也, 神野 智, 関信一郎, 上村海斗, 黒原健朗, 岡部正也, 吉江直樹, 郭 新宇, 清水園子, 竹内久登, 外丸裕司, 三宅陽一, 坂本節子: 1) 有害赤潮プランクトンの出現動態監視及び予察技術開発並びに赤潮の発生段階に応じた一連の対策(行動計画)の検討・策定 イ. 瀬戸内海西部・豊後水道・土佐湾海域, 令和 5 年度豊かな漁場環境推進事業のうち「海域特性に応じた赤潮・貧酸素水塊、栄養塩類対策推進事業 (1)赤潮等による漁業被害への対策技術の開発・実証・高度化」報告書, 国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産技術研究所, 51-100, 広島, 2024年3月
- 2) 吉江直樹, 郭新宇, 竹中彰一, 榎浩樹, 鬼塚剛, 阿保勝之: I. 瀬戸内海 3) 栄養塩類管理方策の検討, 令和 5 年度豊かな漁場環境推進事業のうち「海域特性に応じた赤潮・貧酸素水塊、栄養塩類対策推進事業 (2)栄養塩類不足による漁業被害への対策技術の開発・実証・高度化」報告書, 国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産技術研究所, 59-67, 広島, 2024年3月

4. 6 学会発表等

環境動態解析部門

- 1) Wang, S., Guo, X., Kido, S., Miyazawa, Y., Varlamov S. M. (2024) Topographically generated submesoscale processes in the Kuroshio revealed by JCOPE-T_eas1k. 東アジア縁辺海における物質循環と生物・物理・化学過程, Fukuoka, Japan, February.
- 2) Wang, S., Guo, X., Miyazawa, Y., Furue, R., Varlamov S. M. (2024) Sea surface signature of incoherent semidiurnal internal tides revealed by a tide-resolving OGCM. Japan Geoscience Union Meeting 2024, 2024/05, Chiba, Japan, May.
- 3) Guo, X. (2024) Separation of nutrients sources in a low-trophic biogeochemical model and its application to the East China Sea and Seto Inland Sea, Scoping Workshop on Synergy of Ocean Observations and Biogeochemical Models, Xiamen, May.
- 4) Dong, M. and Guo, X. (2024) Evaluation of the Effects of Submarine Groundwater on Nutrient Concentration and Primary Production in a Deep Bay of the Japan Sea. The 14th International Workshop on Modeling the Ocean, Sapporo, June.
- 5) Leng, Q., Guo, X., Morimoto, A. (2024) Evaluation of oceanic nutrient transport and its impact on nitrogen inventory in the Seto Inland Sea. ECSA 60 Implementing Science-Based Solutions and Strategies for Coastal Resilience. Hangzhou, September.
- 6) Wang, S., Guo, X., Kido, S., Qiao, Y., Sasaki, H. (2024) Revisiting the Kuroshio frontal eddies in the East China Sea: insight from eddy energy budget. The Oceanographic Society of Japan Fall Meeting, Tokyo, Japan, September.
- 7) Bai Y., Guo X. (2024): Development of a suspended particulate matter transport model in the Seto Inland Sea. 日本海洋学会秋季大会, 東京, 9月.
- 8) Li Y., Guo X., Zhao X., Bai Y. (2024): Polychlorinated biphenyls (PCBs) concentrations on the biogenic particles and microplastics in the Seto Inland Sea. 日本海洋学会秋季大会, 東京, 9月.
- 9) Zhao X., Goto A., Kunisue T., Guo X. (2024): Composition and temporal variation of organochlorine pesticides in plankton

- from Iyo-Nada, Seto Inland Sea. 日本海洋学会秋季大会, 東京, 9月.
- 10) Li, Z., Guo, X., Ono, T. (2024): Long-term trend of dissolved oxygen in the East China Sea and its adjacent waters. 日本海洋学会秋季大会, 東京, 9月.
 - 11) Luo, Y., Shi, J., Guo, X., Zhang, Q. (2024) Atmospheric nitrogen deposition and its contribution to phytoplankton biomass in the South Yellow Sea. The Oceanographic Society of Japan Fall Meeting, Tokyo, Japan, September.
 - 12) Wu, Z., Guo, X. (2024): Why there is no significant correlation between particulate organic nitrogen in bottom water and total nitrogen in sediments in the Seto Inland Sea. 2024年度日本海洋学会秋季大会, 東京, 9月.
 - 13) 細川琉平, 吉江直樹, 郭新宇(2024) 燧灘南西部におけるノリを導入した低次生態系モデルを用いた研, 2024年度水圏生態系モデリングシンポジウム, 柏, 11月.
 - 14) Wang, S., Zhang, W., Kido, S., Sasaki, H., Guo, X. (2024) Understanding energy cascade in the Northwest Pacific using a submesoscale permitting OGCM. 海洋乱流の観測およびモデリングに関する研究集会, Matsuyama, November.
 - 15) Wang, S., Guo, X., Kido, S., Qiao, Y., Sasaki, H. (2024) Revisiting the Kuroshio frontal eddies in the East China Sea: insight from eddy energy budget. Workshop on turbulent mixing in and around the Kuroshio, Matsuyama, November.
 - 16) Hu, Y., Guo, X., Sasaki, Y., Tsutsumi E. (2024) Nutrient supply to the euphotic zone by the vertical velocity and vertical mixing over the Kuroshio and Kuroshio Extension. Workshop on turbulent mixing in and around the Kuroshio, Matsuyama, November.
 - 17) Guo, X. (2024) Numerical modeling of POPs for coastal seas. Workshop on coastal pollution and ecosystem. Matsuyama, November.
 - 18) Wang, S., Zhang, W., Kido, S., Sasaki, H., Guo, X. (2024) Understanding energy cascade in the Northwest Pacific using a submesoscale permitting OGCM. Taiwan-Japan Ocean Sciences Workshop, Taipei, December
 - 19) Guo, X. (2024) Exchange of water and material between shelf area and Kuroshio region and its influences on the primary production. WESTPAC and FEC Joint Public Forum. Toyama, December
 - 20) Guo, X. (2024) A Numerical Study on the Export Production of the East China Sea, Taiwan-Japan Ocean Sciences Workshop, Taipei, December
 - 21) Wu, Z., Guo, X. (2024): Interannual variation of nitrogen fluxes at the sediment-water interface in Harima Nada. 第8回沿岸生態系の評価・予測に関するワークショップ, 広島, 12月.
 - 22) Lu X., Guo X. (2024): Development of Intertidal Carbon-based Ecological Model. 第8回沿岸生態系の評価・予測に関するワークショップ, 広島, 12月.
 - 23) Yusuke Ushijima, Hiroyuki Tsujino, Ryo Mizuta, Hideyuki Nakano, Hirokazu Endo, Hideo Shioyama, Yukiko Imada, Osamu Arakawa, Seiji Yukimoto, Yuma Kawakami, Shogo Urakawa, Takahiro Toyoda. (2024): A Method for Extracting Externally Forced Change in the Sea Surface Temperature from CMIP6 Models Using an Empirical Orthogonal Function Analysis, Ocean Sciences Meeting 2024, New Orleans, USA, February.
 - 24) 吉川 浩一朗・吉川 裕・牛島 悠介 (2024): ラングミュア乱流が海面加熱時の混合層に及ぼす影響の波パラメータ依存性, 日本地球惑星科学連合 2023年大会, 千葉, 5月
 - 25) Yusuke Ushijima, Kei Sakamoto, Hideyuki Nakano, Ryo Mizuta, Hiroyuki Tsujino. (2024): Upper Ocean Temperature Difference between Non-Eddy-Resolving and Eddy-Resolving Ocean Models in the Subtropical North Pacific, 14th International Workshop on Modeling the Ocean 2024, Sapporo, Japan, June
 - 26) Koichiro Kikkawa, Yutaka Yoshikawa, Yusuke Ushijima. (2024): On nondimensional parameters describing Langmuir turbulence effects on the MLD under surface heating, 14th International Workshop on Modeling the Ocean 2024, Sapporo, Japan, June.
 - 27) Ryo Mizuta, Yusuke Ushijima, Kohei Yoshida, Hirokazu Endo, Hiroyuki Tsujino. (2024): “High-Resolution Large Ensemble Simulation with an Ocean-Assimilated Climate Model”, 9th Global Energy and Water Exchanges Open Science Conference, Sapporo, Japan, July.
 - 28) 豊田隆寛・広瀬成章・坂本圭・中野英之・浦川昇吾・川上雄真・青木邦弘・山上晃央・牛島悠介・碓氷典久・山中吾郎・中山智治・印貞治・久慈智幸・小藤久毅・田中潔 (2024): 津軽暖流の季節モードの形成過程について, 2024年度日本海洋学会秋季大会, 東京, 9月

- 29) 浦川昇吾・坂本圭・広瀬成章・碓氷典久・辻野博之・中野英之・牛島悠介・豊田隆寛・川上雄真・青木邦弘・平原翔二 (2024): MOVE-JPN family を用いた日本近海モデリングとその将来展望, 海洋理工学会 30 周年記念大会, 東京, 9 月 (招待講演)
- 30) Yusuke Ushijima, Yutaka Yoshikawa. (2024): Mixed Layer Deepening due to Wind-Induced Shear -Driven Turbulence and Scaling of the Deepening Rate in the Stratified Ocean, JSPS Core-to-Core Symposium on the One Health Approaches to Chemical Risk Management, Matsuyama, Japan, September.
- 31) 水田亮・牛島悠介・遠藤洋和・吉田康平・川合秀明・行本誠史・吉村裕正・辻野博之 (2024): 海洋を同化した全球 60km モデルによる 21 世紀末までの大規模アンサンブル実験, 日本気象学会 2024 年度秋季大会, 茨城, 11 月
- 32) Yusuke Ushijima, Yutaka Yoshikawa. (2024): Nonlinearly interacting entrainment due to shear and convection in the surface ocean, Workshop on turbulent mixing in Asian marginal seas, Matsuyama, Japan, November.
- 33) 堤英輔, 吉江直樹, 郭新宇, 森本明彦, 遠藤貴洋, 宮澤泰正, 美山透: 豊後水道における乱流混合の観測とその流れと成層との関係, Japan Geoscience Union Meeting 2024, 幕張, 2024 年 5 月 27 日, 口頭
- 34) 美山透, 宮澤泰正, 吉江直樹, 郭新宇: 黒潮大蛇行の流路変化とその瀬戸内海への影響, Japan Geoscience Union Meeting 2024, 幕張, 2024 年 5 月 29 日, 口頭
- 35) 吉江直樹, 山下碧斗, 堤英輔, 郭新宇, 宮澤泰正, 美山透: 2023 年の豊後水道を西岸から進入した急潮に関する研究, Japan Geoscience Union Meeting 2024, 幕張, 2024 年 5 月 27 日, 口頭
- 36) Bernardo, L. P. C., M. Fujii, N. Yoshie, T. Ono, T. Tanaka: Numerical simulation of present and possible future ocean acidification states in the western Seto Inland Sea, Japan, Japan Geoscience Union Meeting 2024, Makuhari, Japan, 29th May, 2024, oral
- 37) 門田雅仁, 郭新宇, 吉江直樹, 小針統: トカラ海峡周辺における栄養塩添加に伴う低次生態系の応答, 2024 年度日本海洋学会秋季大会, 東京, 2024 年 9 月 17 日, 口頭
- 38) 細川琉平, 吉江直樹, 郭新宇: 燧灘南西部におけるノリを導入した低次生態系モデルを用いた研究, 2024 年度日本海洋学会秋季大会, 東京, 2024 年 9 月 19 日, 口頭
- 39) Haryanto, M. J., J. Zhang, T. Endoh, N. Yoshie, T. Matsuno: The Role of Tidal Motion on the Formation of Bottom Waters in the East China Sea: Water Mixing Quantification and Related Nutrient Transport, The Oceanographic Society of Japan 2024 Annual Fall Meeting, Tokyo, Japan, 19th Sept., 2024, oral
- 40) 大林由美子, A. A. Nisa, 恵美羽奏, 吉江直樹, 日向博文: 海水中でのプラスチック表面への生物付着とそれに伴う密度変化の実測, 2024 年度日本海洋学会秋季大会, 東京, 2024 年 9 月 19 日, 口頭
- 41) N. Yoshie: Long-term variations in environment and ecosystems in the Seto Inland Sea, Workshop on coastal pollution and ecosystem, Matsuyama, Japan, 22nd Nov., 2024, oral
- 42) 吉江直樹, 原佑輔, 宮村和良, 野田誠, 清水園子, 竹内久登: 西部瀬戸内海豊後水道における沿岸酸性化の時空間変動, 2024 年度九州沖縄地区合同シンポジウム 九州・沖縄沿岸における陸域-外洋物質動態と生物過程, 大分, 2024 年 12 月 6 日, 口頭
- 43) 西垣肇, 上山竜輝, 大塚紗輝衣, 美山透, 吉江直樹: 豊後水道大分県沿岸における水温・塩分の係留観測, 2024 年度九州沖縄地区合同シンポジウム 九州・沖縄沿岸における陸域-外洋物質動態と生物過程, 大分, 2024 年 12 月 6 日, 口頭
- 44) 遠藤貴洋, 郭新宇, 小針統, 張勁, 富山大理, 仁科文子, 吉江直樹, 中村啓彦, 森本昭彦, 木田新一郎, 滝川哲太郎: マクロ沿岸海洋学「沿岸域と黒潮流域の双方向物質輸送と生物生産への影響評価」続報, 2024 年度九州沖縄地区合同シンポジウム 九州・沖縄沿岸における陸域-外洋物質動態と生物過程, 大分, 2024 年 12 月 6 日, 口頭
- 45) *吉江直樹: 瀬戸内海における栄養塩濃度の時空間変動に伴う低次生態系応答に関する研究, 瀬戸内海の環境保全・創造研究ワークショップ きれいで豊かな瀬戸内海の実現を支える研究の最前線, 神戸, 2024 年 12 月 13 日, 口頭
- 46) 門田雅仁, 郭新宇, 吉江直樹, 小針統: トカラ海峡周辺における栄養塩添加に伴う低次生態系応答, 第 8 回沿岸生態系の評価・予測に関するワークショップ, 広島, 2024 年 12 月 16 日, 口頭
- 47) 橋本元緯, 吉江直樹, 山岡昂平, 郭新宇: 豊後水道における沿岸酸性化の時間変動, 第 8 回沿岸生態系の評価・予測に関するワークショップ, 広島, 2024 年 12 月 17 日, 口頭
- 48) 細川琉平, 郭新宇, 吉江直樹: 燧灘南西部におけるノリの収穫量に関する研究, 第 8 回沿岸生態系の評価・予測に関するワークショップ, 広島, 2024 年 12 月 17 日, 口頭
- 49) 山岡昂平, 郭新宇, 吉江直樹: 東シナ海陸棚斜面における低次生態系の時空間分布, 第 8 回沿岸生態系の評価・予測に関するワークショップ, 広島, 2024 年 12 月 17 日, 口頭
- 50) 尾上遥, 加三千宣, 吉江直樹: 播磨灘における植物プランクトンの長期変動, 第 8 回沿岸生態系の評価・予測に関するワークショップ, 広島, 2024 年 12 月 17 日, 口頭

- 51) 安藤岬希, 吉江直樹, 美山透, 郭新宇: 豊後水道における急潮進入に対する低次生態系応答, 第 8 回沿岸生態系の評価・予測に関するワークショップ, 広島, 2024 年 12 月 17 日, 口頭
- 52) 門田雅仁, 郭新宇, 吉江直樹, 小針統: トカラ海峡周辺における栄養塩添加に伴う低次生態系応答, 2024 年度 第 2 回香川大学瀬戸内圏研究センター・沿岸海洋研究集会, 高松, 2024 年 12 月 21 日, 口頭
- 53) 細川琉平, 郭新宇, 吉江直樹: 燧灘南西部におけるノリの収穫量に関する研究, 2024 年度 第 2 回香川大学瀬戸内圏研究センター・沿岸海洋研究集会, 高松, 2024 年 12 月 21 日, 口頭
- 54) 山岡昂平, 郭新宇, 吉江直樹: 東シナ海陸棚斜面における低次生態系の時空間分布, 2024 年度 第 2 回香川大学瀬戸内圏研究センター・沿岸海洋研究集会, 高松, 2024 年 12 月 21 日, 口頭
- 55) 尾上遥, 加三千宣, 吉江直樹: 播磨灘における植物プランクトンの長期変動, 2024 年度 第 2 回香川大学瀬戸内圏研究センター・沿岸海洋研究集会, 高松, 2024 年 12 月 21 日, 口頭
- 56) 安藤岬希, 吉江直樹, 美山透, 郭新宇: 豊後水道における急潮進入に対する低次生態系応答, 2024 年度 第 2 回香川大学瀬戸内圏研究センター・沿岸海洋研究集会, 高松, 2024 年 12 月 21 日, 口頭
- 57) Morimoto, A., Tong-u-dom, S., Leng, Q., Guo, X. (2024): Control factors of nutrient concentration and material cycle in the eastern part of the Seto Inland Sea Japan. 2nd UN Ocean Decade Regional Conference & 11th WESTPAC International Marine Science Conference, Bangkok, April.
- 58) Burapnaphrathrat, A., Morimoto, A., Mino, S., Luang-on, J., Leenawarat, D., Ishizaka, J (2024): Noctiluca red tide and hypoxia in the Upper Gulf of Thailand in 2023. 2nd UN Ocean Decade Regional Conference & 11th WESTPAC International Marine Science Conference, Bangkok, April.
- 59) Morimoto, A., Leng, Q., Tong-u-dom, S., Guo, X. (2024): Development of physical-sediment-ecosystem models for nutrient management of a semi-enclosed sea in Japan. 2nd UN Ocean Decade Regional Conference & 11th WESTPAC International Marine Science Conference, Bangkok, April.
- 60) Morimoto, A. (2024): Numerical models to manage nutrient condition in the Seto Inland Sea, Japan. Scientific Forum on Coastal Marine Environmental Studies and Monitoring Technology for Sustainable Development, Harmful Algal Blooms, Ciguatera and Food Safety, Jakarta, August.
- 61) Tong-u-dom, A., Morimoto, A., Leng, Q., Guo, X (2024): Lower trophic ecosystem dynamics in the eastern part of the Seto Inland Sea and their response to change in nutrient supply from the rivers. 2024 年瀬戸内海水産環境研究集会, 松山, 8 月.
- 62) 森本昭彦・井谷慧人・郭新宇 (2024) : 台風が東シナ海の陸棚を横切ることによる黒潮流路の変動。2024 年度日本海洋学会秋季大会, 東京, 9 月.
- 63) Morimoto, A. (2024): Understanding of nutrient cycle in the Seto Inland Sea toward sustainable marine environment. JSPS Core-to-Core symposium on One Health Approaches to chemical risk management, Matsuyama, November.
- 64) 加 三千宣 (2024): 海底コアを用いた MP 沈積量変化の復元と今後の課題, 第 3 回環境化学物質合同大会 自由集会 1 「海域底質の MP を研究する～わかっていること、わからないこと、そして、これからのこと～」7 月 2 日, 広島 (招待公演)
- 65) 加 三千宣 (2024): 人類が地球システムを圧倒し始めたのはいつか? 人為痕跡層序からの視点, 別府湾堆積物研究会集会, 2024 年 10 月 13 日, 京都
- 66) 加 三千宣、横山祐典、槻木玲美、土居秀幸、Stephen Tims、齋藤文紀 (2024): 人類が地球システムを圧倒し始めたのはいつか? 人為痕跡層序からの視点, 日本第四紀学会 2024 年大会, 2024 年 8 月 31 日, 仙台
- 67) 加 三千宣・衣川 和志・日向 博文(2024) 別府湾海底堆積物からみたマイクロプラスチック沈積量の経年変動とその支配要因. 日本地球惑星科学連合 2024 年大会, M-IS09, 5 月 27 日, 千葉.
- 68) 加 三千宣・横山 祐典・Stephen Tims・Michaela Froehlich・Leslie, K. Fifield・阿瀬 貴博・槻木 玲美・土居 秀幸・齋藤 文紀(2024) 人新境界の定義を明確にする全球の人為痕跡の急増シグナル. 日本地球惑星科学連合 2024 年大会, MIS12-05, 5 月 29 日, 千葉.
- 69) 加 三千宣 (2024) 人新世は、真実の地質時代か? —その定義と根拠— 占部城太郎教授退職記念 学術シンポジウム
- 70) 加 三千宣・齋藤文紀・横山祐典・槻木玲美・土居秀幸(2023) 層序学上の人新世の始まり. 日本第四紀学会 2023 年大会、9 月 1 日, 所沢
- 71) 大江悠人, 野澤颯一郎, 古谷昌大, 片岡智哉 (2024): 乾湿状態の違いによる飲料用ボトルキャップの紫外線劣化過程の変化, 第 58 回日本水環境学会年会 (2024 年 3 月 6 日-8 日), 九州大学伊都キャンパス, 2024 年 3 月 8 日, 3-A-10-4
- 72) 伊賀陽太, 片岡智哉 (2024): 感潮域におけるマイクロプラスチックの鉛直分布とその時間的変動, 第 58 回日本水環境学会年会 (2024 年 3 月 6 日-8 日), 九州大学伊都キャンパス, 2024 年 3 月 6 日, L-021
- 73) Kataoka T., Y. Iga, R. A. Baihaqic, H. Hadiyanto and Y. Nihei (2024): Morphological relationship between mass and size of meso- and microplastic particle, JpGU Meeting 2024 (2024 年 5 月 26 日-31 日), 千葉幕張メッセ, 2024 年 5 月 27 日, MIS09-08

- 74) 伊賀陽太, 片岡智哉 (2024): 感潮域におけるマイクロプラスチックの一潮汐変動, 令和 6 年度土木学会全国大会 第 79 回年次学術講演会 (2024 年 9 月 2 日-6 日), 東北大学川内北及び川内南キャンパス, 2024 年 9 月 6 日, II-190
- 75) 片岡智哉, 吉田拓司, 山本菜月 (2024): 河川浮遊プラスチックごみ検出のための深層学習モデルの開発と精度検証, 日本海洋学会 2024 年度秋季大会 (2024 年 9 月 16 日-20 日), 東京海洋大学品川キャンパス, 2024 年 9 月 19 日, 24F-16-12
- 76) 伊賀陽太, 片岡智哉 (2024): 大分川感潮域におけるマイクロプラスチック鉛直分布の一潮汐変動, 第 69 回水工学講演会 (2024 年 12 月 2 日-4 日), 富山県民会館, 2024 年 12 月 3 日, 088
- 77) 大江悠人, 野澤颯一郎, 古谷昌大, 片岡智哉 (2024): 人口分布及び気象条件を考慮した国内一級河川流域内での微細プラスチック発生ポテンシャルの評価, 第 69 回水工学講演会 (2024 年 12 月 2 日-4 日), 富山県民会館, 2024 年 12 月 3 日, 091
- 78) Hinata, H. Bottom sediments in a hypoxic basin as a recording medium of microplastic pollution history, 12th Singapore International Chemistry Conference, 招待講演、2024.12.9-13, Singapore,
- 79) Hinata, H. Numerical reproduction of a 75-year history of microplastics accumulation rates in a semi-enclosed hypoxic basin, The 2nd Japan-Thailand Bilateral Symposium of Advanced Materials for Sustainable Society, 招待講演、2024.12.2-3, Bangkok
- 80) Muhammad Irham Sahana, Ryotaro Fujii, Hirofumi Hinata, Incorporating Measurement Error Distribution into Tsunami Data Assimilation using High-Frequency Radar, 10th International Symposium on Data Assimilation, 2024.10.21-25, Kobe

化学汚染・毒性解析部門

- 1) 岩田久人 (2024): 野生生物の影響評価のための New Approach Methodologies (NAMs) と展望, 第 3 回環境化学物質合同大会, 広島, 7 月 2 日～5 日, Program Book, P.56, SL1-2, 招待講演
- 2) 道山千潤・Marisol Buenfil・Mauricio González-Jáuregui・José António L. Barão-Nóbrega・岩田久人・飯田緑 (2024): モレレットワニ (*Crocodylus moreletii*) の鱗甲トランスクリプトームの *de novo* アセンブリと機能同定, 第 3 回環境化学物質合同大会, 広島, 7 月 2 日～5 日, Program Book, P.51, TU-C1-4
- 3) 濱元明来・落合真理・岩田久人 (2024): ダイオキシン曝露による鯨類線維芽細胞の CYP1A1 誘導能評価, 第 3 回環境化学物質合同大会, 広島, 7 月 2 日～5 日, Program Book, P.51, TU-C1-5
- 4) Asela Marisol Buenfil-Rojas・Kei Nomiyama・Mari Ochiai・Izumi Watanabe・Mirella Kanerva・Midori Iida・Mauricio González-Jáuregui・Sergio E. Padilla-Paz・José António L. Barão-Nóbrega・Teresa Álvarez-Legorreta・Hisato Iwata (2024): Integrated Assessment of Chemical Pollution and its Impacts on Wild Mexican Crocodiles - A Perspective from Interdisciplinary Research, 第 3 回環境化学物質合同大会, 広島, 7 月 2 日～5 日, Program Book, P.80, FR-A1-5
- 5) 平川周作・堀就英・香月進・宮脇崇・平野将司・水川葉月・野見山桂・岩田久人・辻学 (2024): *In silico* シミュレーション及び *in vitro* 代謝試験によるヒト CYPs を介した PCBs の代謝能評価, 第 3 回環境化学物質合同大会, 広島, 7 月 2 日～5 日, Program Book, P.81, FR-A1-3
- 6) 落合真理・松田彩佳・栗原望・塩崎彬・松石隆・天野雅男・田島木綿子・山田格・国末達也・岩田久人 (2024): 6 種の漂着鯨類における POPs の *in vitro* 細胞毒性評価と潜在的リスク, 第 3 回環境化学物質合同大会, 広島, 7 月 2 日～5 日, Program Book, P.81, FR-A1-4
- 7) 落合真理・Hoa Thanh Nguyen・後藤哲智・松田彩佳・松石隆・国末達也・岩田久人 (2024): シヤチ新生仔の線維芽細胞における脂由来 POPs 混合液曝露のプロテオミクス解析, 第 3 回環境化学物質合同大会, 広島, 7 月 2 日～5 日, Program Book, P.113, P-186
- 8) Nguyen Minh Tue・Nurlatifah・Haruhiko Nakata・Hisato Iwata・Tetsuya Kunisue (2024): Hazardous additives in biobased and biodegradable plastic bags: Screening for AhR-mediated activities and potential AhR agonists, 第 3 回環境化学物質合同大会, 広島, 7 月 2 日～5 日, Program Book, P.115, P-200
- 9) Hao Chen・Kaori Chigusa・Kazuki Kanda・Rumi Tanoue・Mari Ochiai・Hisato Iwata (2024): Developmental toxicity of short-chain chlorinated paraffins in ex-ovo early chicken embryos, 第 3 回環境化学物質合同大会, 広島, 7 月 2 日～5 日, Program Book, P.123, S-050

- 10) 山根進太郎・Nurlatifah・中田晴彦・Nguyen Minh Tue・国末達也・岩田久人 (2024): 芳香族炭化水素受容体 (AHR) 活性化予測 QSAR モデルによるプラスチック添加剤の毒性評価, 第3回環境化学物質合同大会, 広島, 7月2日~5日, Program Book, P.122, S-043
- 11) 大矢悠幾・山口大樹・渡邊泉・Marisol Buenfil-Rojas・Teresa Alvarez-Legorreta・岩田久人 (2024): メキシコ・ユカタン半島に棲息するモレレットワニ *Crocodylus moreletii* を用いた微量元素モニタリング, 第3回環境化学物質合同大会, 広島, 7月4日, Program Book, P.68, WE-D3-3
- 12) Buenfil-Rojas Asela Marisol, Nomiyama Kei, Ochiai Mari, Watanabe Izumi, Iida Midori, Gonzalez-Jauregui Mauricio, Padilla-Paz Sergio E., Barao-Nobrega Jose Antonio L., Alvarez-Legorreta Teresa, Iwata Hisato (2024): Integrated assessment of chemical pollution and its effects on wild Mexican crocodiles: Preliminary insights. 27th Working Meeting CSG-IUCN. Darwin, Australia, April.
- 13) Robledo, Dave Arthur, Kumagawa Takahito, Ochiai Mari, Iwata Hisato (2024): Assessment of transactivation potencies of killer whale (*Orcinus orca*) estrogen receptor alpha (ER α) by DDTs using in vitro and in silico approaches. 22nd Pollutant Responses in Marine Organisms (PRIMO). Nantes, France, May.
- 14) Robledo, Dave Arthur, Kumagawa Takahito, Ochiai Mari, Iwata Hisato (2024): In silico approaches to predict the in vitro activation potencies of killer whale (*Orcinus orca*) estrogen receptors by environmental pollutants. 58th National Conference of the Biology Teachers of the Philippines (Invited Lecture). Boracai, Philippines, April.
- 15) Robledo, Dave Arthur, Kumagawa Takahito, Ochiai Mari, Iwata Hisato (2024): Transactivation potencies of killer whale (*Orcinus orca*) estrogen receptor alpha (ER α) by DDTs exposure: In vitro and in silico approaches, Marine Biology Symposium 2024, Tokyo, Japan, March.
- 16) Hisato Iwata (2024): Exploring Innovative Technologies in Environmental Toxicology: Perspectives from New Approach Methodologies, 58th National Conference of the Biology Teachers of the Philippines, Philippines, Boracai, Philippines, April.
- 17) Hisato Iwata (2024): Environmental Toxicology and One Health, 8th Chemical Hazard Symposium, Sapporo, Japan, October.
- 18) Robledo, Dave Arthur, Kumagawa Takahito, Ochiai Mari, Iwata Hisato (2024): Risk assessment of killer whale (*Orcinus orca*) estrogen receptor signaling disruption by environmental pollutants: Application of in vitro approach, 第26回日本内分泌攪乱物質学会研究発表会, 東京, 12月.
- 19) 岩田久人 (2024): *In vitro* および *in silico* 解析によるエストロゲン受容体リガンド予測モデルの構築, 日本動物学会第95回長崎大会, 長崎, 9月.
- 20) 岩田久人 (2024): 環境毒理学研究のための New Approach Methodologies (NAMs), JANUS セミナー, 東京, 12月.
- 21) 濱元 明来・落合 真理・森田 浩平・山中 陽なた・岩田 久人 (2024): 鯨類線維芽細胞を用いたダイオキシン曝露による CYP1A1 誘導能の種差の評価, 第26回日本内分泌攪乱物質学会研究発表会, 東京, 12月.
- 22) Dave Arthur R. Robledo, Takahito Kumagawa, Mari Ochiai, Hisato Iwata (2024): New approach methodologies (NAMs) for assessing killer whale (*Orcinus orca*) estrogen receptor activation by environmental pollutants, 第26回日本内分泌攪乱物質学会研究発表会, 東京, 12月.
- 23) Yuna Yoshimoto, Takahito Kumagawa, Hoa Thanh Nguyen, Yuka Yoshinouchi, Hiroki Okuda, Hisato Iwata (2024): Interspecies comparison of the transactivation potency of dog and seal (canine suborder) estrogen receptors by hydroxylated polychlorinated biphenyls, JSPS Core-to-Core Symposium on One Health Approaches to Chemical Risk Management, Matsuyama, Japan, September 30 – October 1.
- 24) Asela Marisol Buenfil-Rojas, Kei Nomiyama, Mari Ochiai, Izumi Watanabe, Mirella Kanerva, Midori Iida, Mauricio González-Jauregui, Sergio E. Padilla-Paz, José António L. Barão-Nóbrega, Teresa Álvarez-Legorreta, Hisato Iwata (2024): Advanced health assessment of wild Mexican crocodiles: Chemical contamination and transcriptome analysis of non-invasive biopsy samples, JSPS Core-to-Core Symposium on One Health Approaches to Chemical Risk Management, Matsuyama, Japan, September 30 – October 1.
- 25) Islem Boukara, Mari Ochiai, Hisato Iwata (2024): Assessment of the toxicity of chlorinated paraffins using human iPSC and their differentiated cells, JSPS Core-to-Core Symposium on One Health Approaches to Chemical Risk Management, Matsuyama, Japan, September 30 – October 1.
- 26) Dave Arthur R. Robledo, Takahito Kumagawa, Mari Ochiai, Hisato Iwata (2024): In vitro and in silico assessment of killer whale (*Orcinus orca*) estrogen receptor activation by environmental pollutants, JSPS Core-to-Core Symposium on One Health Approaches to Chemical Risk Management, Matsuyama, Japan, September 30 – October 1.

- 27) Hao Chen, Kaori Chigusa, Kazuki Kanda, Rumi Tanoue, Mari Ochiai, Hisato Iwata (2024): Developmental toxicity of SCCPs on ex-ovo chicken embryos in a shell-less incubation system, JSPS Core-to-Core Symposium on One Health Approaches to Chemical Risk Management, Matsuyama, Japan, September 30 – October 1.
- 28) Hisato Iwata (2024): New Approach Methodologies (NAMs) in Environmental Toxicology, JSPS Core-to-Core Symposium on One Health Approaches to Chemical Risk Management, Matsuyama, Japan, September 30 – October 1.
- 29) Kubota, A., Rehab, A. Y. S., Robledo, D. A. R., Iwata, H., Hirano, M., Kawai, Y. K. (2024): Developmental effects of estrogenic endocrine-disrupting chemicals and the predictability of in vitro and in silico analyses using zebrafish (*Danio rerio*), International Symposium on Toxicity Assessment (ISTA 21), Fukuoka, Japan, August 25-30, Abstract Book, P.60, O-27.
- 30) Kim, D., Song, W., Koh, D., Goto, A., Kunisue, T., Iwata, H., Kim, E. (2024): Molecular and ecological linkages to dioxin sensitivity of mammalian aryl hydrocarbon receptor 1, International Symposium on Toxicity Assessment (ISTA 21), Fukuoka, Japan, August 25-30, Abstract Book, P.80, O-47.
- 31) Chen, H., Chigusa, K., Kanda, K., Tanoue, R., Ochiai, M., Iwata, H. (2024): New approach methodology for hazard assessment of short-chain chlorinated paraffins in ex ovo chicken embryos, International Symposium on Toxicity Assessment (ISTA 21), Fukuoka, Japan, August 25-30, Abstract Book, P.107, P-10.
- 32) Nguyen, H. T., Yoshinouchi, Y., Hirano, M., Nomiyama, K., Nakata, H., Kim, E., Iwata, H. (2024): New approach methodologies to predict transactivation potencies of environmental contaminants mediated by Baikal seal estrogen receptor α and β , International Symposium on Toxicity Assessment (ISTA 21), Fukuoka, Japan, August 25-30, Abstract Book, P.108, P-11.
- 33) Boukara, I., Ochiai, M., Iwata, H. (2024): Assessment of the effects of short-, medium-, and long-chain chlorinated paraffins on the differentiation of human iPS cells to definitive endoderm, International Symposium on Toxicity Assessment (ISTA 21), Fukuoka, Japan, August 25-30, Abstract Book, P.104, P-7.
- 34) Song, W., Kim, D., Nomiyama, K., Iwata, H., Kim, E. (2024): Molecular toxicological characterization of the novel AHR2 in cats: comparative insights with AHR1, International Symposium on Toxicity Assessment (ISTA 21), Fukuoka, Japan, August 25-30, Abstract Book, P.147, P-5.
- 35) Mari Ochiai, Hoa Thanh Nguyen, Nozomi Kurihara, Yuko Tajima, Tadasu K. Yamada, Hisato Iwata (2024): Cetacean neurotoxicity: Somatic cell-to-neuron differentiation for in vitro pollutant assessment. Workshop "Neuroscience as an Emerging Field in Marine Mammalogy", 35th European Cetacean Society Conference, Italy, April.
- 36) 落合真理, Hoa Thanh Nguyen, 後藤哲智, 松田彩佳, 松石隆, 国末達也, 岩田久人 (2024) : シヤチ新生仔の線維芽細胞における脂皮由来 POPs 混合液 曝露のプロテオミクス解析 (P-186) . 第 3 回環境化学物質合同大会. 山形. 7 月.
- 37) 落合真理, 松田彩佳, 栗原 望, 塩崎 彬, 松石隆, 天野雅男, 田島 木綿子, 山田 格, 国末達也, 岩田久人. 6 種の漂着鯨類における POPs の in vitro 細胞毒性評価と潜在的リスク (FR-A1-4). 第 3 回環境化学物質合同大会. 山形. 7 月.
- 38) Mari Ochiai, Nozomi Kurihara, Masashi Hirano, Akifumi Nakata, Yuko Tajima, Hisato Iwata (2024). In Vitro Cytotoxicity and Neurotoxicity Assessments of Environmental Pollutants in Finless Porpoise Fibroblasts and Induced Neural Cells. 2024 International Cetacean Symposium (ICS2024), Hong Kong, September.
- 39) Mari Ochiai, Hoa Thanh Nguyen, Akitoshi Goto, Ayaka Matsuda, Takashi Matsuishi, Tatsuya Kunisue, Hisato Iwata (2024) Assessment of the effects of persistent organic pollutant mixtures on the proteome of killer whale fibroblast cells. JSPS Core-to-Core Symposium, Ehime, September.
- 40) 国末達也・田上瑠美・仲山 慶・後藤哲智・田中厚資・高橋勇介・鈴木 剛(2024):タイヤ凍結粉砕 (CMTT) 試料から溶出する化学物質のノンターゲット分析 ―水温・時間・UV劣化による溶出量の変化―. 環境科学会 2024 年会, 東京, 2024 年 9 月 9 日～10 日.
- 41) 仲山 慶・秦 美月・佐伯大雅・国末達也・宇野誠一・天野敦子・板木拓也・倉田 修・和田新平・鈴木 剛(2024):マイクロプラスチックによる魚類の成長阻害の評価について. 第 3 回環境化学物質合同大会, 広島, 2024 年 7 月 2 日～5 日.
- 42) 仲山 慶・和田梨奈・国末達也・宇野誠一・天野敦子・板木拓也・倉田 修・和田新平・田中厚資・高橋勇介・鈴木 剛(2024):コイを対象にしたタイヤ粉じんの生態リスク評価. 第 3 回環境化学物質合同大会, 広島, 2024 年 7 月 2 日～5 日.
- 43) 秦 美月・佐伯大雅・仲山 慶・国末達也・宇野誠一・天野敦子・板木拓也・倉田 修・和田新平・鈴木 剛(2024):バージンおよび再生ポリプロピレンマイクロプラスチックの経口投与によるコイの成長阻害. 第 3 回環境化学物質合同大会, 広島, 2024 年 7 月 2 日～5 日.
- 44) 尾藤達宙・宇野誠一・山崎雅俊・國師恵美子・仲山 慶・鈴木 剛(2024):淡水及び海産ヨコエビ類のタイヤ粉塵に対する影響種間差の検討. 第 3 回環境化学物質合同大会, 広島, 2024 年 7 月 2 日～5 日.

- 45) 田上瑠美・仲山 慶・後藤哲智・鈴木 剛・国末達也(2024):タイヤ溶出液中の化学物質のノンターゲット分析～温度や時間の違いによる溶出量の変化～. 第3回環境化学物質合同大会, 広島, 2024年7月2日～5日.
- 46) 磯部友彦・中山祥嗣・岩井美幸・高木麻衣・上山 純・小栗朋子・篠原直秀・国末達也・仲山 慶・田上瑠美(2024):パーソナルケア製品等に含まれるフェノール系化合物の体内半減期の算出. 第3回環境化学物質合同大会, 広島, 2024年7月2日～5日.
- 47) 松尾純平・山崎雅俊・國師恵美子・仲山 慶・宇野誠一(2024):クサフグ胚に対する重油汚染水およびアルキル化 PAHs の影響評価. 第3回環境化学物質合同大会, 広島, 2024年7月2日～5日.
- 48) 仲山 慶・和田梨奈・山崎雅俊・宇野誠一・田上瑠美・後藤哲智・国末達也・倉田 修・和田新平・天野敦子・板木拓也・田中厚資・高橋勇介・鈴木 剛(2024):タイヤ粉じんの生態リスク評価に資する有害性の評価. 令和5年度海洋プラスチックごみ学術シンポジウム, オンライン, 2024年3月9日.
- 49) Nakayama K, Hata M, Saiki T, Kunisue T, Uno S, Amano A, Itaki T, Kurata O, Wada S, Tanaka K, Takahashi Y, Suzuki G(2024): Growth inhibition in common carp by dietary administered virgin or recycled polypropylene microplastics. SETAC North America 45th Annual Meeting, Fort Worth, TX, USA, October 20–24, 2024.
- 50) Nakayama K, Wada R, Kunisue T, Uno S, Amano A, Itaki T, Kurata O, Wada S, Tanaka K, Takayashi Y, Suzuki G(2024): Ecotoxicity evaluation of tire particles using common carp. SETAC North America 45th Annual Meeting, Fort Worth, TX, USA, October 20–24, 2024.
- 51) Uno S, Bito T, Yamasaki M, Kokushi E, Nakayama K, Suzuki G(2024): Differences for effects between marine and freshwater amphipods exposed to tire wear particles. SETAC North America 45th Annual Meeting, Fort Worth, TX, USA, October 20–24, 2024.
- 52) Nakayama K, Wada R, Kunisue T, Tanoue R, Goto A, Uno S, Amano A, Itaki T, Kurata O, Wada S, Tanaka K, Takahashi Y, Suzuki G(2024): Chronic exposure to tire particles induces anemia in common carp. International Symposium on Toxicity Assessment (ISTA21), Fukuoka, Japan, August 25–30, 2024.
- 53) Nakayama K, Hata M, Saiki T, Kunisue T, Uno S, Amano A, Itaki T, Kurata O, Wada S, Tanaka K, Takahashi Y, Suzuki G(2024): Investigating the effects of virgin or recycled polypropylene microplastics on fish growth. International Symposium on Toxicity Assessment (ISTA21), Fukuoka, Japan, August 25–30, 2024.
- 54) Hoang J, Trujillo A, DiBona E, Seeman F, Nakayama K(2024): Immunotoxicity of cryo-milled tire tread in Japanese medaka (*Oryzias latipes*). International Symposium on Toxicity Assessment (ISTA21), Fukuoka, Japan, August 25–30, 2024.
- 55) Isobe T, Ueyama J, Iwai-Shimada M, Takagi M, Oguri T, Shinohara N, Kunisue T, Nakayama K, Tanoue R, Nakayama SF(2024): Intervention trial for pharmacokinetic study of chemicals in daily use products. International Symposium on Toxicity Assessment (ISTA21), Fukuoka, Japan, August 25–30, 2024.
- 56) Uno S, Bito T, Yamasaki M, Kokushi E, Nakayama K, Amano A, Itaki T, Suzuki G(2024): Evaluations of effects in marine amphipod, *Ptilohyale barbicornis*, absorbed microplastics through feeding. International Symposium on Toxicity Assessment (ISTA21), Fukuoka, Japan, August 25–30, 2024.
- 57) 甲斐 奏・田上瑠美・野見山 桂・国末達也・森本昭彦・Nguyen Minh Tue (2024): ベトナムとタイの水圏環境に残留する農薬類・医薬品類の汚染実態調査と生態影響評価, 第58回日本水環境学会年会, 福岡市, 3月6～8日, 講演プログラム・広告集, 33 (1-C-11-1).
- 58) 服部兼真・後藤哲智・国末達也 (2024): 二枚貝を指標生物とした瀬戸内海沿岸域におけるベンゾトリアゾール系紫外線吸収剤汚染の実態解明と地理的要因の解析, 第58回日本水環境学会年会, 福岡市, 3月6～8日, 講演プログラム・広告集, 681 (L-104).
- 59) Takahashi, S., Ueno, D., Hoang, A. Q., Watanabe, I., Kuwae, M. (2024): Temporal trends of contamination by POPs and alternative flame retardants: Retrospective studies using dated sediment core samples from Japan, BFR2024, Incheon, Korea, April, Program OR-005
- 60) Falahudin, D., Wulandari, I., Octaviani, S., Takahashi, S. (2024): Contamination status, bioaccumulation profiles, and human health risk assessment of polychlorinated biphenyls (PCBs) in shark species from Indonesia, 2nd UN Ocean Decade Regional Conference & 11th WESTPAC International Marine Science Conference, Bangkok, Thailand, April, Program C1-04
- 61) 大枝 亮・須之内 朋哉・国末達也・松田純佳・松石 隆・西間庭 恵子・山田 格・田島 木綿子 (2024): 鯨類胃内プラスチックに吸着した POPs の胃液への溶出についての検討, 日本セトロジー研究会第34回(黒潮町)大会, 高知県幡多郡黒潮町, 6月22～23日, 発表要旨集, 9

- 62) 大木 翼・須之内 朋哉・後藤哲智・天野雅男・田島 木綿子・山田 格・国末達也 (2024): スジイルカに蓄積する残留性有機汚染物質と海洋天然有機ハロゲン化合物の時系列トレンド, 日本セトロロジー研究会第 34 回 (黒潮町) 大会, 高知県幡多郡黒潮町, 6 月 22~23 日, 発表要旨集, 10
- 63) 須之内 朋哉・後藤哲智・岩田高志・田島 木綿子・山田 格・国末達也 (2024): 大阪湾に生息するスナメリを対象とした海洋プラスチックと餌生物を介した有機ハロゲン化合物取込量の推定と生物濃縮性の評価, 日本セトロロジー研究会第 34 回 (黒潮町) 大会, 高知県幡多郡黒潮町, 6 月 22~23 日, 発表要旨集, 13
- 64) 国末達也 (2024): 野生生物に蓄積する残留性有機汚染物質の時空間トレンドと未知物質の探索, 第 3 回環境化学物質合同大会 (第 32 回環境化学討論会、第 28 回日本環境毒性学会研究発表会), 広島, 7 月 2~5 日, 講演要旨集, 11-12
- 65) 後藤哲智・Nguyen Minh Tue・頭士泰之・国末達也 (2024): GC×GC-HRToFMS を駆使した環境汚染物質のノンターゲット分析, 第 3 回環境化学物質合同大会 (第 32 回環境化学討論会、第 28 回日本環境毒性学会研究発表会), 広島, 7 月 2~5 日, 講演要旨集, 30
- 66) 仲山 慶・秦 美月・佐伯大雅・国末達也・宇野誠一・天野敦子・板木拓也・倉田 修・和田新平・鈴木 剛 (2024): マイクロプラスチックによる魚類の成長阻害の評価について, 第 3 回環境化学物質合同大会 (第 32 回環境化学討論会、第 28 回日本環境毒性学会研究発表会), 広島, 7 月 2~5 日, 講演要旨集, 86-87
- 67) 小池 智也・平井 杏梨・野見山 桂・江口 哲史・星 信彦・平野 哲史・Collins Nimako・Yared Beyene・丹場 舞・中山 翔太・石塚 真由美・池の中良徳 (2024): LC/Q-TOF/MS を用いたネオニコチノイド投与マウス脳のノンターゲットメタボロミクス分析, 第 3 回環境化学物質合同大会 (第 32 回環境化学討論会、第 28 回日本環境毒性学会研究発表会), 広島, 7 月 2~5 日, 講演要旨集, 108-109.
- 68) 甲斐 奏・田上瑠美・野見山 桂・Nguyen Minh Tue・Le Huu Tuyen・Pham Hung Viet・国末達也 (2024): ベトナムの水圏環境に残留する化学物質のモニタリングと生態影響評価, 第 3 回環境化学物質合同大会 (第 32 回環境化学討論会、第 28 回日本環境毒性学会研究発表会), 広島, 7 月 2~5 日, 講演要旨集, 153-154
- 69) 服部兼真・後藤哲智・国末達也 (2024): 瀬戸内海沿岸域の二枚貝に残留するベンゾトリアゾール系紫外線吸収剤の時空間トレンド解析, 第 3 回環境化学物質合同大会 (第 32 回環境化学討論会、第 28 回日本環境毒性学会研究発表会), 広島, 7 月 2~5 日, 講演要旨集, 196
- 70) 西岡咲希・須之内 朋哉・田上瑠美・国末達也 (2024): 大阪湾の魚類とスナメリにおけるリン酸エステル系難燃剤汚染: 残留性有機汚染物質との比較解析, 第 3 回環境化学物質合同大会 (第 32 回環境化学討論会、第 28 回日本環境毒性学会研究発表会), 広島, 7 月 2~5 日, 講演要旨集, 200-201
- 71) 谷 涼那・田川瑛梨・松神秀徳・宇智田奈津代・田中厚資・Le Huu Tuyen・Pham Hung Viet・国末達也・鈴木 剛・三宅祐一 (2024): ベトナム廃プラスチックリサイクル施設における多環芳香族炭化水素類の排出実態調査, 第 3 回環境化学物質合同大会 (第 32 回環境化学討論会、第 28 回日本環境毒性学会研究発表会), 広島, 7 月 2~5 日, 講演要旨集, 205-206
- 72) 徳田 深咲・佐藤 里奈・田上 瑠美・野見山 桂 (2024): イエネコの臓器・組織を対象とした PFAS の汚染実態と組織分布の特徴, 第 3 回環境化学物質合同大会 (第 32 回環境化学討論会、第 28 回日本環境毒性学会研究発表会), 広島, 7 月 2~5 日, 講演要旨集, 258-259
- 73) 高橋真・有岡舞・岡村奏太朗・水川葉月・奥島千恵・高須賀智奈美・石橋弘志 (2024): 愛媛県で捕獲されたトビの肝臓における PFAS の蓄積濃度と化学組成の経年変化, 第 3 回環境化学物質合同大会 (第 32 回環境化学討論会、第 28 回日本環境毒性学会研究発表会), 広島, 7 月 2~5 日, 講演要旨集, 260-261
- 74) 佐藤愛佳・田上瑠美・水川葉月・野見山桂 (2024): 有機フッ素化合物(PFAS)によるイヌ・ネコ用ドライペットフードの汚染実態, 第 3 回環境化学物質合同大会 (第 32 回環境化学討論会、第 28 回日本環境毒性学会研究発表会), 広島, 7 月 2~5 日, 講演要旨集, 276-277
- 75) K.S. Guruge・Y.A. Tamamura・R. Tanoue・A. Koyama・D.M.L.I. Dissanayake・H.S. Fernando・K.B.S.N. Jinadasa・S.K. Weragoda・D.N. de S. Gunatilleke・S. Subasinghe・M. Watanabe・T. Kunisue (2024): Impact of the COVID-19 pandemic on antimicrobial contamination in healthcare facilities, wastewater treatment plants, and adjacent surface waters in Sri Lanka, 第 3 回環境化学物質合同大会 (第 32 回環境化学討論会、第 28 回日本環境毒性学会研究発表会), 広島, 7 月 2~5 日, 講演要旨集, 340-341
- 76) 平川周作・堀就英・香月進・宮脇崇・平野将司・水川葉月・野見山桂・岩田久人・辻学, *In silico* シミュレーション及び *in vitro* 代謝試験によるヒト CYPs を介した PCBs の代謝能評価, 第 3 回環境化学物質合同大会 (第 32 回環

- 境化学討論会、第 28 回日本環境毒性学会研究発表会)、広島、7 月 2~5 日、講演要旨集、342
- 77) 落合真理・松田彩佳・栗原 望・塩崎 彬・松石 隆・天野雅男・田島 木綿子・山田 格・国末達也・岩田久人 (2024): 6 種の漂着鯨類における POPs の *in vitro* 細胞毒性評価と潜在的リスク、第 3 回環境化学物質合同大会 (第 32 回環境化学討論会、第 28 回日本環境毒性学会研究発表会)、広島、7 月 2~5 日、講演要旨集、343
- 78) 池中良徳・平井杏梨・戸田知得・江口哲史・野見山桂・中山翔太・石塚真由美 (2024): 化学物質による脳機能攪乱の高感度検出に向けた取り組み~ネオニコチノイド投与による不安様行動と脳内モノアミンの関連性~, 第 3 回環境化学物質合同大会 (第 32 回環境化学討論会、第 28 回日本環境毒性学会研究発表会)、広島、7 月 2~5 日、講演要旨集、346
- 79) 仲山 慶・和田梨奈・国末達也・宇野誠一・天野敦子・板木拓也・倉田 修・和田新平・田中厚資・高橋勇介・鈴木 剛 (2024): コイを対象にしたタイヤ粉じんの生態リスク評価、第 3 回環境化学物質合同大会 (第 32 回環境化学討論会、第 28 回日本環境毒性学会研究発表会)、広島、7 月 2~5 日、講演要旨集、353
- 80) 松田悠莉・田上瑠美・磯部友彦・国末達也 (2024): ヒト肝 S9 画分を用いた *in vitro* 試験と機器分析による有機リン系難燃剤の代謝物同定、第 3 回環境化学物質合同大会 (第 32 回環境化学討論会、第 28 回日本環境毒性学会研究発表会)、広島、7 月 2~5 日、講演要旨集、357-358
- 81) 田上瑠美・仲山 慶・後藤哲智・鈴木 剛・国末達也 (2024): タイヤ溶出液中の化学物質のノンターゲット分析~温度や時間の違いによる溶出量の変化~, 第 3 回環境化学物質合同大会 (第 32 回環境化学討論会、第 28 回日本環境毒性学会研究発表会)、広島、7 月 2~5 日、講演要旨集、403-404
- 82) 釘宮雄大・高橋真・岡崎友紀代・鱈迫典久 (2024): 植物中ミジンコ幼若ホルモン様物質の探索、第 3 回環境化学物質合同大会 (第 32 回環境化学討論会、第 28 回日本環境毒性学会研究発表会)、広島、7 月 2~5 日、講演要旨集、566-567
- 83) 秦 美月・佐伯大雅・仲山 慶・国末達也・宇野誠一・天野敦子・板木拓也・倉田 修・和田新平・鈴木 剛 (2024): バージンおよび再生ポリプロピレンマイクロプラスチックの経口投与によるコイの成長阻害、第 3 回環境化学物質合同大会 (第 32 回環境化学討論会、第 28 回日本環境毒性学会研究発表会)、広島、7 月 2~5 日、講演要旨集、706
- 84) 磯部友彦・Hue T. Nguyen・中山祥嗣・岩井美幸・高木麻衣・上山 純・小栗朋子・篠原直秀・大浦 奏・仲山 慶・田上瑠美・国末達也 (2024): パーソナルケア製品等に含まれるフェノール系化合物の体内半減期の算出、第 3 回環境化学物質合同大会 (第 32 回環境化学討論会、第 28 回日本環境毒性学会研究発表会)、広島、7 月 2~5 日、講演要旨集、728
- 85) 落合真理・Hoa Thanh Nguyen・後藤哲智・松田彩佳・松石 隆・国末達也・岩田久人 (2024): シヤチ新生仔の線維芽細胞における脂由来 POPs 混合液曝露のプロテオミクス解析、第 3 回環境化学物質合同大会 (第 32 回環境化学討論会、第 28 回日本環境毒性学会研究発表会)、広島、7 月 2~5 日、講演要旨集、729
- 86) Falahudin, D., Wulandari, I., Octaviani, S., Fahmi, F., Takahashi, S. (2024): First insight of 209 polychlorinated biphenyls (PCBs) in shark species from Eastern Indian Ocean: contaminant status, bioaccumulation profiles, potential sources, and ecological risk assessments, 第 3 回環境化学物質合同大会 (第 32 回環境化学討論会、第 28 回日本環境毒性学会研究発表会)、広島、7 月 2~5 日、講演要旨集、748-749
- 87) Nguyen Minh Tue・Nurlatifah・Haruhiko Nakata・Hisato Iwata・Tatsuya Kunisue (2024): Hazardous additives in biobased and biodegradable plastic bags: Screening for AhR-mediated activities and potential AhR agonists, 第 3 回環境化学物質合同大会 (第 32 回環境化学討論会、第 28 回日本環境毒性学会研究発表会)、広島、7 月 2~5 日、講演要旨集、756
- 88) 中島舞・佐藤愛佳・佐藤楓夏・水川葉月・野見山桂・横山望・池中良徳・石橋弘志・高橋真 (2024): 室内ダスト中 PFAS の汚染実態とペット動物への曝露評価、第 3 回環境化学物質合同大会 (第 32 回環境化学討論会、第 28 回日本環境毒性学会研究発表会)、広島、7 月 2~5 日、講演要旨集、794-795
- 89) 七山慧奈・新里優太・デデファラフディン・奥島千恵・加三千宣・高橋真 (2024): 別府湾底質柱状試料を用いた POPs 及び新規代替臭素系難燃剤の時系列トレンド解析、第 3 回環境化学物質合同大会 (第 32 回環境化学討論会、第 28 回日本環境毒性学会研究発表会)、広島、7 月 2~5 日、講演要旨集、800
- 90) 新里優太・水川葉月・渡辺桃加・野見山 桂・池中良徳・ヤレドベイエネ・石塚真由美・高橋 真 (2024): 野生鳥類における PCBs および水酸化代謝物 (OH-PCBs) の残留と安定同位体比分析に基づく種間差解析、第 3 回環境化学物質合同大会 (第 32 回環境化学討論会、第 28 回日本環境毒性学会研究発表会)、広島、7 月 2~5 日、講演要旨

- 91) 山根進太郎・Nurlatifah・中田晴彦・Nguyen Minh Tue・国末達也・岩田久人 (2024): 芳香族炭化水素受容体 (AHR) 活性化予測 QSAR モデルによるプラスチック添加剤の毒性評価, 第3回環境化学物質合同大会 (第32回環境化学討論会、第28回日本環境毒性学会研究発表会), 広島, 7月2~5日, 講演要旨集, 847-848
- 92) 徳田 深咲・佐藤 愛佳・田上 瑠美・水川 葉月・高橋 真・野見山 桂 (2024): 生体組織試料中に残留する新規 PFAS を対象とした分析手法の開発, 第3回環境化学物質合同大会 (第32回環境化学討論会、第28回日本環境毒性学会研究発表会), 広島, 7月2~5日, 講演要旨集, 849-850
- 93) Hossain, A., Kagia, N., Shafiujjaman, M., Tanoue, R., Kunisue, T., Watanabe, K. (2024): Occurrence of antibiotics and antibiotic resistance genes (ARGs) in hospital wastewater and receiving river surface water in Bangladesh, Water and Environment Technology Conference 2024 (WET2024), Okayama, Japan, July, Program 2C-14
- 94) Isobe, T., Ueyama, J., Iwai-Shimada, M., Takagi, M., Oguri, T., Shinohara, N., Kunisue, T., Nakayama, K., Tanoue, R., Nakayama, S. F. (2024): Intervention trial for pharmacokinetic study of chemicals in daily use products, 21st International Symposium on Toxicity Assessment (ISTA) conference, Fukuoka, Japan, August, Program P-37
- 95) 谷 涼那・田川瑛梨・松神秀徳・宇智田奈津代・田中厚資・鈴木 剛・Le Huu Tuyen・Pham Hung Viet・国末達也・三宅祐一 (2024): ベトナム廃プラスチックリサイクル施設における多環芳香族炭化水素類及びハロゲン化誘導体の排出実態調査, 環境科学会 2024 年会, 東京, 9月9~10日, 要旨集, 86
- 96) 服部兼真・須之内 朋哉・Nguyen Minh Tue・後藤哲智・日向博文・国末達也 (2024): 人工海水中のマイクロポリエチレン・ポリプロピレンに対するポリ塩化ビフェニル異性体の吸着特性, 環境科学会 2024 年会, 東京, 9月9~10日, 要旨集, 128
- 97) 服部兼真・後藤哲智・山村紀航・石丸一輝・国末達也 (2024): 野生のトビに蓄積するデクロラン類及びベンゾトリアゾール系紫外線吸収剤の時系列トレンド: 残留性有機汚染物質との比較解析, 環境科学会 2024 年会, 東京, 9月9~10日, 要旨集, 129
- 98) 国末達也・田上瑠美・仲山 慶・後藤哲智・田中厚資・高橋勇介・鈴木 剛 (2024): タイヤ凍結粉碎(CMTT)試料から溶出する化学物質のノンターゲット分析ー水温・時間・UV 劣化による溶出量の変化ー, 環境科学会 2024 年会, 東京, 9月9~10日, 要旨集, 166
- 99) Goto, A., Zushi, Y., Tue, N. M., Kunisue, T. (2024): Comprehensive screening of potential bioaccumulative compounds in Japanese seabass (*Lateolabrax japonicus*). 44th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN 2024), Singapore, September-October, Abstract Book 489
- 100) Goto, A., Hattori, K., Yamamura, N., Ishimaru, K., Kunisue, T. (2024): Temporal trend analyses of dechlorane compounds and benzotriazole ultraviolet stabilizers in black kites (*Milvus migrans*) from Japan. 44th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN 2024), Singapore, September-October, Abstract Book 542
- 101) 寶來 佐和子・田中佑樹・中田勝士・城ヶ原 貴通・江口 藍・藤村成剛・阿南 弥寿美・山元 恵・国末達也・小椋康光 (2024): Hg 高蓄積野生動物種であるフイリマングースを活用した研究事例, メタルバイオサイエンス研究会 2024, 熊本県水俣市, 10月, プログラム, S1-4
- 102) Oeda, T., Sunouchi, T., Kunisue, T., Matsuda, A., Matsuishi, T., Nishimaniwa, K., Yamada, T.K., Tajima, Y. (2024): Verification of elution of POPs adsorbed on marine plastic debris to the stomach juice in the Zhiphidae, 25th Biennial Conference on the Biology of Marine Mammals, Perth, Australia, November, Program H60
- 103) Nakayama, K., Wada, R., Kunisue, T., Uno, S., Amano, A., Itaki, T., Kurata, O., Wada, S., Tanaka, K., Takahashi, Y., Suzuki, G. (2024): Ecotoxicity evaluation of tire particles using common carp, SETAC North America 45th Annual Meeting, Texas, USA, November, Program 4.22.P-Mo-114
- 104) Nakayama, K., Hata, M., Saiki, T., Kunisue, T., Uno, S., Amano, A., Itaki, T., Kurata, O., Wada, S., Tanaka, K., Takahashi, Y., Suzuki, G. (2024): Growth inhibition in common carp by dietary administered virgin or recycled polypropylene microplastics, SETAC North America 45th Annual Meeting, Texas, USA, November, Program 1.12.P-We-020
- 105) 水川葉月・中島舞・佐藤愛佳・佐藤楓夏・野見山桂・横山望・池中良徳・石橋弘志・高橋真 (2024): 室内ダスト中ペルおよびポリフルオロアルキル物質 (PFAS) の汚染実態解明とペット動物への曝露源推定, 2024 年室内環境学会学術大会, 札幌市, 11月29日~12月2日, 講演要旨集, 261-262
- 106) 小滝 優弥・岡崎 友紀代・石橋 弘志・高橋 真・鎌迫 典久 (2024): ケーシング手法を用いた愛媛県内の河川における内分泌かく乱物質の実態調査, 日本内分泌攪乱物質学会第26回研究発表会, 東京, 12月6日~7日, プログラム,

- 107) 徳田深咲・亀田直人・中村進一・要田莉穂・柴原 崇・畑 大二郎・水川葉月・田上瑠美・野見山桂 (2024): ツシマヤマネコにおける残留性有機ハロゲン化合物の汚染実態, 第 30 回日本野生動物医学会大会, 沖縄県恩納村, 12 月 13 日~15 日, プログラム, P-8
- 108) Hossain, A., Kagia, N., Shafiujjaman, M., Tanoue, R., Kunisue, T., Watanabe, K. (2024): Occurrence of antibiotics and antibiotic resistance genes (ARGs) in hospital wastewater and receiving river surface water in Bangladesh, The 14th International Symposium on Southeast Asian Water Environment (SEAW-14), Kuala Lumpur, Malaysia, December, Program A-124
- 109) Falahudin, D., Wulandari, I., Octaviani, S., Fahmi, F., Takahashi, S. (2024): Full Congener Analysis of Polychlorinated Biphenyls (PCBs) in Shark Species from the Indonesian Seas, 8th Chemical Hazard Symposium, 第 8 回環境化学討論会 北海道東北地区部会・中国四国地区部会合同シンポジウム, Abstract book 6
- 110) Koike, K., Hirai, A., Nomiyama, K., Eguchi, A., Hoshi, N., Hirano, T., Nimako, C., Bayene, Y., Tamba, M., Nakayama, S. M.M., Ishizuka, M., Ikenaka, Y. (2024): Biomarker Search Using Non-Targeted Lipidomics Analysis in the Cerebral Cortex of Neonicotinoid-Treated Mice, 8th Chemical Hazard Symposium, 第 8 回環境化学討論会 北海道東北地区部会・中国四国地区部会合同シンポジウム, Abstract book 10
- 111) Sato, A., Sato, F., Mizukawa, H., Saeki, K., Ikenaka, Y., Tanoue, R., Yokoyama, N., Takiguchi, M., Nakatsu, S., Nomiyama, K. (2024): Elucidation of PFAS Contamination Using Companion Animals as Indicators, 8th Chemical Hazard Symposium, 第 8 回環境化学討論会 北海道東北地区部会・中国四国地区部会合同シンポジウム, Abstract book 12
- 112) Tokuda, M., Sato, R., Tanoue, R., Nomiyama, K. (2024): Characterization of PFAS Contamination Profiles and Tissue Distribution in Cat, 8th Chemical Hazard Symposium, 第 8 回環境化学討論会 北海道東北地区部会・中国四国地区部会合同シンポジウム, Abstract book 18
- 113) Amalia, R., Okujima, C., Falahudin, D., Mizukawa, H., Takahashi, S. (2024): Development of Rapid and Simultaneous Analysis of Current-use Pesticides and Their Residues in Soils from Indonesian Agricultural Fields, 8th Chemical Hazard Symposium, 第 8 回環境化学討論会 北海道東北地区部会・中国四国地区部会合同シンポジウム, Abstract book 21
- 114) Hirai, A., Toda, C., Nomiyama, K., Hirano, T., Nakayama, S.M.M., Ishizuka, M., Ikenaka, Y. (2024): Sensitive Detection of Neurotransmission Disturbance by Neonicotinoids using Multiple Approaches, 8th Chemical Hazard Symposium, 第 8 回環境化学討論会 北海道東北地区部会・中国四国地区部会合同シンポジウム, Abstract book 25
- 115) Shinzato, Y., Mizukawa, H., Nomiyama, K., Watanabe, M., Ikenaka, Y., Beyene, Y., Ishizuka, M., Takahashi, S. (2024): Residues of PCBs and OH-PCBs in Wild Birds and PCBs Metabolic Capacity Interspecific Comparison, 8th Chemical Hazard Symposium, 第 8 回環境化学討論会 北海道東北地区部会・中国四国地区部会合同シンポジウム, Abstract book 30

生態・保健科学部門

- 1) Watanabe, K. (2024): Tips for International Research Collaboration with Japan: A Japanese Researcher's Perspective, JSPS Core-to-Core Symposium on One Health Approaches to Chemical Risk Management, Dhaka, Bangladesh, May
- 2) 段吉新大, Bongulto K.A., 鈴木聡, 渡辺幸三(2024): Mobilization of an 8kb blaOXA72 harboring plasmid between Acinetobacter species by horizontal gene transfer, 令和 6 年度土木学会四国支部第 30 回技術研究発表会, 高知工科大学 香美キャンパス, 高知県香美市, 6 月 1 日, 講演要旨集, VII-4
- 3) 鈴木康嗣, Artem Baidaliuk, 関井優, Irish Coleen Asin, Etienne Simon-Loricere, Maria Carla Saleh, 渡辺幸三, 内在性ウイルス配列による抗ウイルス機構がネッタイシマカ個体・集団に果たす役割の解明, 第 58 回日本脳炎ウイルス生態学研究会, 稲佐山観光ホテル, 長崎県長崎市, 6 月 28 日~29 日
- 4) Watanabe, K. (2024): Utilizing Genomic Analysis and Data-Driven Machine Learning for the Biological Control of Vector Mosquitoes, Philippine Society for Microbiology 53rd Annual Convention, Bacolod, Philippines, July
- 5) Bongulto K.A., Kagia N, Tauchi H, Suzuki S, Watanabe K. (2024): Resistome and virulome composition and localization varies between environmental and nosocomial Acinetobacter isolates, Philippine Society for Microbiology 53rd Annual

- Convention, Bacolod, Philippines, July
- 6) Danyoshi A, Bongulto K.A., Suzuki S, Watanabe, K. (2024): Mobilization of an 8kb blaOXA72 harboring plasmid between *Acinetobacter* species by horizontal gene transfer, Philippine Society for Microbiology 53rd Annual Convention, Bacolod, Philippines, July
 - 7) Low, K. Y., Watanabe, K. (2024): Evaluation of Sensitivity of Mammalian RNA Virus Detection in Metavirome Using Ratios of Mouse Norovirus and Pepper Mild Mottle Virus, JSWE International Water and Environment Technology (WET) Conference 2024, Okayama, Japan, July
 - 8) Kagia, N., Bongulto, K., Hossain, A., Suzuki, S. (2024): Metagenomic analysis of microbial diversity and resistome in wastewater from Pig farm and Municipal wastewater treatment plants, Water and Environment Technology Conference 2024 (WET2024), Okayama, Japan, July, 講演要旨集 3B-06
 - 9) Logronio, D.J., Negishi, J., Villaruel M.J., Watanabe K. (2024): Navigating Hyporheic Diversity with Environmental DNA: Insights into Macroinvertebrate Communities, Water and Environment Technology Conference 2024 (WET2024), Okayama, Japan, July
 - 10) Yasutsugu Suzuki, Irish Coleen, A. Asin, Artem Baidaliuk, Yu Sekii, Wataru Mitsunari, Etienne Simon-Loriere, Kozo Watanabe. (2024): Replication kinetics and tissue tropism of multiple insect-specific viruses in a naturally infected *Aedes aegypti*, Vector Kolymbari Meeting 2024, Kolymbari, Greece, July
 - 11) Yasutsugu Suzuki, Irish Coleen, A. Asin, Artem Baidaliuk, Yu Sekii, Wataru Mitsunari, Etienne Simon-Loriere, Kozo Watanabe. (2024): Replication kinetics and tissue tropism of multiple insect-specific viruses in a naturally infected *Aedes aegypti*, XXVII International Congress of Entomology, Kyoto, Japan, August
 - 12) Low, K. Y., Watanabe, K. (2024): Utilisation of Process Control Protocol for Wastewater Virome Concentration and Extraction' A Preliminary Assessment, JSPS Core-to-Core Symposium "One Health Approaches to Chemical Risk Management", Matsuyama, Ehime, September
 - 13) Logronio, D.J., Negishi, J., Villaruel M.J., Watanabe K. (2024): Utilisation of Process Control Protocol for Wastewater Virome Concentration and Extraction' A Preliminary Assessment, JSPS Core-to-Core Symposium "One Health Approaches to Chemical Risk Management", Matsuyama, Ehime, September
 - 14) Suzuki Y., Watanabe K. (2024): Viral metagenomic analysis of the field-caught *Aedes aegypti* from the dengue hotspot areas in Davao City, Mindanao Philippines, JSPS Core-to-Core Symposium "One Health Approaches to Chemical Risk Management", Matsuyama, Ehime, September
 - 15) Thufail M.A, Faridah L., and Watanabe K. (2024): Spatiotemporal Assessment of Dengue Detection in Urban Areas of Cimahi City, Indonesia, JSPS Core-to-Core Symposium "One Health Approaches to Chemical Risk Management", Matsuyama, Ehime, September
 - 16) Watanabe, K. (2024): Overview of the JSPS Core-to-Core Program and the Aims of the Symposium, JSPS Core-to-Core Symposium "One Health Approaches to Chemical Risk Management", Matsuyama, Ehime, September
 - 17) Ngure Kagia, Anwar Hossain, Md. Shiujjaman, Kenneth Bongulto, Kozo Watanabe. (2024): Antibiotic resistance genes (ARGs) and Mobile genetic elements (MGEs). A case of Buriganga river in Dhaka, Bangladesh, JSPS Core-to-Core Symposium "One Health Approaches to Chemical Risk Management", Matsuyama, Ehime, September
 - 18) Shafiujjaman, M., Hossain, A., Kagia, G., Bongulto, K. A., Danyoshi, A., Salma, U., Tanoue, R., Kunisue, T., Tokumura, M., Watanabe, K. (2024): Simultaneous Degradation of Antibiotics, Bacteria and Antibiotic Resistance Genes from Wastewater Treatment Plant Effluent: Impact of High Antibiotic Concentrations on Ozonation Efficiency, JSPS Core-to-Core Symposium "One Health Approaches to Chemical Risk Management", Matsuyama, Ehime, September
 - 19) Uddin, M. M., Suzuki, Y., Logronio, D. J., Kagia, N., Watanabe, K. (2024): Evolution and genetic diversity of an insect-specific virus (ISV) in the acutely infected *Aedes aegypti* mosquitoes, JSPS Core-to-Core Symposium "One Health Approaches to Chemical Risk Management", Matsuyama, Ehime, September
 - 20) Muharromah, A. F. Astuti, R. U. N. W. and Watanabe, K. (2024): Pig farms in the periurban areas of Yogyakarta, Indonesia, affect the mosquito community structure, JSPS Core-to-Core Symposium "One Health Approaches to Chemical Risk Management", Matsuyama, Ehime, September
 - 21) Francisco, M. E., Watanabe, K. (2024): Drone applications for detection and mapping mosquito habitats, JSPS Core-to-Core Symposium "One Health Approaches to Chemical Risk Management", Matsuyama, Ehime, September

- 22) Bongulto K.A., Kagia N, Tauchi H, Suzuki S, Watanabe K. (2024): Prevalence and interplay of mobile genetic elements in *Acinetobacter*, JSPS Core-to-Core Symposium "One Health Approaches to Chemical Risk Management", Matsuyama, Ehime, September
- 23) Danyoshi A, Bongulto K.A., Suzuki S, Watanabe K. (2024): Mobilization of an 8kb blaOXA72 harboring plasmid between *Acinetobacter* species by horizontal gene transfer, JSPS Core-to-Core Symposium "One Health Approaches to Chemical Risk Management", Matsuyama, Ehime, September
- 24) 鈴木康嗣, Artem Baidaliuk, 関井優, Irish Coleen Asin, Etienne Simon-Loriere, 渡辺幸三(2024): 昆虫特異的ウイルス自然感染蚊系統における内在性ウイルス配列の機能解析, 第71回日本ウイルス学会学術集会, 愛知県名古屋市, 11月4日～6日
- 25) 鈴木康嗣, Artem Baidaliuk, 関井優, Irish Coleen Asin, Etienne Simon-Loriere, 渡辺幸三(2024): Functional analysis of endogenous viral elements in naturally infected *Aedes* mosquitoes with an insect-specific virus, 第47回日本分子生物学会年会, 福岡県福岡市, 11月27日～29日
- 26) 渡辺幸三(2024): JSPS Core-to-Core Symposium on One Health Approaches to Chemical Risk, 国際連携推進機構、研究・産学連携推進機構共同シンポジウム 「世界から愛媛へ、愛媛を世界へ～国際学会誘致から地域の国際化を加速する～」, 愛媛県松山市, 12月10日
- 27) 浦久保陸人・大林由美子. 北西太平洋亜寒帯域・亜熱帯域での海水中の有機物分解ポテンシャル. 白鳳丸 KH-23-3次航海フォローアップ会合. 柏市. 2024年3月8日.
- 28) 大林由美子・浦久保陸人. 海表面マイクロ層とその直下水での有機物分解ポテンシャル. 白鳳丸 KH-23-3次航海フォローアップ会合. 柏市. 2024年3月8日.
- 29) 亀山星奈・剣持瑛行・松浦弘行・吉川 尚・宗林留美・大林由美子・西川 淳. 駿河湾におけるクラゲノミ類(端脚目, クラゲノミ亜目)の種多様性と季節変動. 2024年度日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会. 松江市. 2024年9月14日.
- 30) 庄野裕人・熊本啓太・北村真一・大林由美子. 条件寄生性魚病繊毛虫のプランクトン生活. 2024年度日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会. 松江市. 2024年9月15日.
- 31) 剣持瑛行・平井惇也・吉川 尚・大林由美子・西川 淳. DNA メタバーコーディングによる海産枝角類の食性解析. 2024年度日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会. 松江市. 2024年9月14-15日.
- 32) 浦久保陸人・大林由美子. 北西太平洋亜寒帯・亜熱帯におけるプロテアーゼ活性プロファイル. 2024年度日本海洋学会秋季大会. 東京. 2024年9月17日.
- 33) 大林由美子・Ayunda Ainun Nisa・恵美羽奏・吉江直樹・日向博文. 海水中でのプラスチック表面への生物付着とそれに伴う密度変化の実測. 2024年度日本海洋学会秋季大会. 東京. 2024年9月19日.
- 34) Hamamoto, K., Mizuyama, M., Nishijima, M., Maeda, A., Gibu, K., Polisen, A., Iguchi, A., Reimer J. D. (2024): 17th International Echinoderm Conference, Tenerife, Spain, DISTINCT FECAL MICROBIOME OF *HOLOTHURIA ATRA* FROM SURROUNDING SEDIMENTS, AND ITS ECOLOGICAL ROLE, 2024年7月14-19日, 講演要旨集, 57
- 35) 濱本耕平, 水山克, 西島美由紀, 前田歩, 儀武滉大, Polisen, A., 井口亮, Reimer J. D. (2024): 日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会 2024, 松江市, クロナマコの糞便はサンゴ礁生態系を救うのか?, 2024年9月12-17日, 講演要旨集, 180
- 36) 濱本耕平, 西島美由紀, 儀武滉大, 井口亮 (2024): 日本サンゴ礁学会第27回大会, 宮崎市, 異なる種類のナマコは異なる糞便内細菌叢を持つのか?, 2024年11月27日-12月1日, 講演要旨集, 182-183
- 37) 濱本耕平, 西島美由紀, 儀武滉大, 井口亮 (2024): 棘皮動物研究集会第20回大会, 新潟市, 砂泥底、礫帯および石灰岩上に暮らすナマコ類の糞便内細菌叢, 2024年12月14日, 講演要旨集, 2

国際・社会連携室

- 1) 鈴木康嗣, Artem Baidaliuk, 関井優, Irish Coleen Asin, Etienne Simon-Loriere, Maria Carla Saleh, 渡辺幸三. (2024): 第58回日本脳炎ウイルス生態学研究会, 長崎, 内在性ウイルス配列による抗ウイルス機構がネッタイシマカ個体・集団に果たす役割の解明, 2024年6月28-29日
- 2) Yasutsugu Suzuki, Irish Coleen, A. Asin, Artem Baidaliuk, Yu Sekii, Wataru Mitsunari, Etienne Simon-Loriere, Koza

Watanabe (2024): Vector Kolymbari Meeting 2024, Greece, Replication kinetics and tissue tropism of multiple insect-specific viruses in a naturally infected *Aedes aegypti*, 2024 年 7 月 13-19 日

- 3) Yasutsugu Suzuki, Irish Coleen, A. Asin, Artem Baidaliuk, Yu Sekii, Wataru Mitsunari, Etienne Simon-Loriere, Kozo Watanabe: XXVII International Congress of Entomology, Kyoto, Replication kinetics and tissue tropism of multiple insect-specific viruses in a naturally infected *Aedes aegypti*, 2024 年 8 月 25-30 日
- 4) 鈴木康嗣, Artem Baidaliuk, 関井優, Irish Coleen Asin, Etienne Simon-Loriere, 渡辺幸三: 第 71 回日本ウイルス学会学術集会, 愛知, 昆虫特異的ウイルス自然感染蚊系統における内在性ウイルス配列の機能解析, 2024 年 11 月 4-6 日
- 5) 鈴木康嗣, Artem Baidaliuk, 関井優, Irish Coleen Asin, Etienne Simon-Loriere, 渡辺幸三: 第 47 回日本分子生物学会年会, 福岡, Functional analysis of endogenous viral elements in naturally infected *Aedes* mosquitoes with an insect-specific virus, 2024 年 11 月 27-29 日

5. 学会及び社会における活動

(令和6年度)

5. 1 併任・委員会委員等

環境動態解析部門

郭 新宇

- 1) 招聘上席研究員，独立行政法人海洋研究開発機構 APL
- 2) 地球惑星科学委員会 SCOR 分科会 SIMSEA 小委員会委員
- 3) Future Earth Coast 小委員会委員

森本 昭彦

- 1) IOC 協力推進委員会海洋観測・気候変動国内専門部会員，海洋研究開発機構
- 2) 研究航海検討委員会アドバイザー，海洋研究開発機構
- 3) 共同利用・共同研究委員会委員，名古屋大学宇宙地球環境研究所
- 4) 共同利用・共同研究大気陸域海洋専門委員長，名古屋大学宇宙地球環境研究所
- 5) 融合研究戦略室運営委員，名古屋大学宇宙地球環境研究所
- 6) EMECS 高校生海洋環境保全研究発表会指導委員，国際 EMECS センター
- 7) 日本学術会議環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 FE・WCRP 合同分科会 FEC 小委員会委員

加 三千宣

- 1) 東京大学大気海洋研究所研究船共同利用運営委員会研究船運航部会委員

吉江 直樹

- 1) 共同議長，北太平洋海洋科学機構(PICES)北太平洋沿岸海洋観測に関する委員会(AP-NPCOOS)
- 2) 委員，日本学術会議環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 FE・WCRP 合同分科会 FEC Japan

化学汚染・毒性解析部門

岩田 久人

- 1) 化学物質の内分泌かく乱作用に関連する報告の信頼性評価作業班検討員，環境省
- 2) 共同利用・共同研究拠点「環境汚染・沿岸環境研究拠点 (LaMer)」拠点長，文部科学省
- 3) 農薬の鳥類に対する慢性影響のリスク評価に関する検討会委員，環境省
- 4) 日本学術振興会 学術システム研究センター プログラムオフィサー (主任研究員)，日本学術振興会
- 5) 難分解性・高濃縮性化学物質による高次捕食動物への毒性評価法に係る検討会委員，環境省
- 6) High-level Foreign Expert Talent, 西北大学 (中国)

国末 達也

- 1) 学術諮問委員，(社)日本化学工業協会
- 2) 愛媛県衛生環境評価専門部会委員，愛媛県
- 3) 曝露評価専門委員会精度管理分科会委員，環境省
- 4) 大阪 PCB 処理事業部会委員，中間貯蔵・環境安全事業(株)
- 5) 北九州 PCB 処理事業部会委員，中間貯蔵・環境安全事業(株)
- 6) 愛媛県環境影響評価審査会委員，愛媛県

- 7) 新規 POPs 等研究会委員， 環境省
- 8) POPs 条約有効性評価国内検討委員， 環境省
- 9) 西条市環境審議会委員， 愛媛県西条市
- 10) 化学物質環境実態調査に係る保存試料活用に関する検討会委員， 環境省
- 11) 愛媛県地下水保全及び適正利用審議会委員， 愛媛県
- 12) 南極環境実態把握モニタリング事業検討委員会委員， 環境省
- 13) 愛媛県環境創造センター客員研究員， 愛媛県

野見山 桂

- 1) 愛媛県（宇和島東）スーパーサイエンスハイスクール運営指導委員

仲山 慶

- 1) 化学物質審査検討会専門委員， 経済産業省
- 2) 化学物質の分解性及び蓄積性に係る総合的評価の導入に関する調査 委員経済産業省
- 3) マイクロプラスチック・スマート懇話会 道路由来ワーキンググループ検討会 委員， 環境省

落合 真理

- 1) アドバイザリーボード委員， 環境研究総合推進費「野生動物への環境汚染物質の影響評価を実現する培養細胞を用いた新規評価技術の構築（4RF-2102）」

生態・保健科学部門

渡辺 幸三

- 1) 審査委員， 独立行政法人日本学術振興会
- 2) 客員教授， 山形大学
- 3) 客員教授， デ・ラサール大学（フィリピン）
- 4) 客員教授， バジャジャラン大学（インドネシア）
- 5) フェロー， Borneo Medical and Health Research Centre, Universiti Malaysia Sabah
- 6) 特任教授（客員）， 東北大学

大林 由美子

- 1) 審査委員， 独立行政法人日本学術振興会

国際・社会連携室

鈴木 康嗣

- 1) 外部審査員， Dutch Research Council
- 2) 外部審査員， Swiss National Science Foundation

5. 2 学協会委員等

環境動態解析部門

郭 新宇

- 1) 評議員, 日本海洋学会
- 2) 事業部会委員, 日本海洋学会沿岸海洋研究会

森本 昭彦

- 1) 評議員, 日本海洋学会
- 2) 委員, 日本海洋学会沿岸海洋研究会
- 3) 委員, 里海づくりあり方検討委員会
- 4) 委員, 令和の里海づくりモデル事業 事業推進委員会
- 5) 客員研究員, 愛媛県環境創造センター

吉江 直樹

- 1) 総務部長, 日本海洋学会沿岸海洋研究会
- 2) 副企画委員長, 瀬戸内海研究会議
- 3) 海洋酸性化対策検討委員会委員, 日本財団 海洋酸性化適応プロジェクト
- 4) 部会長, 宇和島環境教育協議会, 教育カリキュラム部会
- 5) 日本財団 海洋酸性化適応プロジェクト 海洋酸性化対策検討委員会委員

加 三千宣

- 1) 評議員, 日本第四紀学会
- 2) 編集委員, 日本第四紀学会

化学汚染・毒性解析部門

岩田 久人

- 1) 理事, 日本内分泌攪乱化学物質学会
- 2) 評議員, 日本環境化学会
- 3) 22nd International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms (PRIMO22), International Scientific Committee
- 4) 21st International Symposium on Toxicity Assessment (ISTA21) 実行委員会委員

国末 達也

- 1) 評議員, 内分泌攪乱物質学会
- 2) 評議員, 日本環境化学会
- 3) 編集委員, 日本環境化学会 機関誌「環境化学」
- 4) 理事, 日本環境化学会

野見山 桂

- 1) 幹事, 日本水環境学会中国・四国支部

- 2) 評議員, 日本環境化学会
- 3) 評議員, 内分泌攪乱化学物質学会
- 4) 副幹事, 日本環境化学会 環境毒性部会
- 5) 正幹事, 日本環境化学会 中国四国地区部会
- 6) EMCR, Editorial Board Members
- 7) 第3回環境化学物質合同大会 実行委員会委員

田上 瑠美

- 1) 評議員, 日本環境化学会
- 2) Environmental Science & Technology Letters, Editorial Advisory Board Members
- 3) 科学技術動向研究センター専門調査員, 文部科学省

仲山 慶

- 1) 幹事・編集委員長, 日本環境毒性学会
- 2) 編集委員, 日本水産学会
- 3) Editorial Board Member, Fish Physiology and Biochemistry (Springer Nature)
- 4) Editorial Board Member, Environmental Toxicology (Wiley)
- 5) 21st International Symposium on Toxicity Assessment (ISTA21) 実行委員会委員

生態・保健科学部門

渡辺 幸三

- 1) 運営幹事, 日本水環境学会
- 2) Executive Board Members, Benthological Society of Asia (BSA)

大林 由美子

- 1) 理事, 日本海洋学会
- 2) 研究に関する将来構想ワーキンググループ, 日本海洋学会
- 3) 論文賞選考委員会委員, 日本海洋学会
- 4) 海洋環境委員会委員, 日本海洋学会
- 5) 選挙管理委員, 日本海洋学会
- 6) 選挙管理委員, 日本プランクトン学会

濱本 耕平

- 1) 委員, 日本サンゴ礁学会 教育・普及啓発委員会

5. 3 学会, 講演会などの開催 (センター主催または共催)

- 1) LaMer 特別講演会
「Improving quantitative in vitro-to-in vivo extrapolation models for per-andpolyfluoroalkyl substances」
環境化学物質 3 学会合同大会「環境化学物質の学際的共同研究の成果と展望」
期日：令和 6 年 4 月 19 日
会場：国立環境研究所 (オンラインとのハイブリッド開催)
- 2) LaMer 研究集会
第 3 回環境化学物質合同大会 重点テーマ「環境化学物質の学際的共同研究の成果と展望」
期日：令和 6 年 7 月 5 日
会場：広島市 JMS アステールプラザ
- 3) LaMer 研究集会
「瀬戸内海水産環境研究集会」
期日：令和 6 年 8 月 26 日～27 日
会場：愛媛大学 総合研究棟 16 階理学部会議室(オンラインとのハイブリッド開催)
- 4) LaMer 特別講演会
「Environment, Pollution, and One Health」
期日：令和 6 年 9 月 13 日
会場：愛媛大学 総合研究棟 1 6 階理学部会議室
- 5) LaMer 特別講演会
「極微量分析技術の進歩と環境分析化学」と「企業人からみたキャリアパス人材育成」
期日：令和 6 年 9 月 19 日
会場：愛媛大学 総合研究棟 1 6 階理学部会議室
- 6) LaMer 国際シンポジウム
「JSPS Core-to-Core Symposium on OneHealth Approaches to Chemical RiskManagement in Ehime」
期日：令和 6 年 9 月 30 日～10 月 1 日
会場：愛媛大学総合情報メディアセンターメディアホール
- 7) LaMer 国際シンポジウム
「Metabolomics and Advanced AnalyticalTechnologies in the Study of Insects,Vector-Borne Diseases and BiologicalControl」
期日：令和 6 年 10 月 2 日
会場：愛媛大学 共通講義棟 C E L 3 3
- 8) LaMer シンポジウム
「第 8 回 Chemical Hazard Symposium (日本環境化学会 北海道・東北地区部会および中国・四国地区部会との共催)~環境化学における One Health アプローチを考える~」
期日：令和 6 年 10 月 24 日～25 日
会場：北海道大学 獣医学部 講堂(オンラインとのハイブリッド開催)
- 9) LaMer 研究集会
「愛媛大学沿岸環境科学研究センター・北海道大学低温科学研究所第 2 回合同研究集会「亜寒帯-亜熱帯域含めた日本周辺の海洋環境科学の統合的理解 2」」
期日：令和 6 年 11 月 25 日～26 日
会場：愛媛大学 総合研究棟 1 6 階理学部会議
- 10) LaMer 研究集会
「海洋乱流の観測及びモデリングに関する研究集会」
期日：令和 6 年 11 月 27 日～28 日
会場：愛媛大学 総合研究棟 1 4 階共通会議室/6 階理学部会議室

11) LaMer ワークショップ

「Workshop on turbulent mixing in Asian marginal seas」

期日：令和6年11月29日

会場：愛媛大学 総合研究棟16階理学部会議室

12) LaMer セミナー

「From Ridge to Reef: Unraveling Plastic Pollution in Different Environmental Compartments in the Philippines」(リッジからリーフへ：フィリピンの異なる環境区画におけるプラスチック汚染の解明)

期日：令和6年12月11日

会場：愛媛大学 校友会館2階サロン

13) LaMer ワークショップ

「第8回沿岸生態系の評価・予測に関するワークショップ

期日：令和6年12月16日～17日

会場：RCC文化センター貸会議室611号室／水産研究・教育機構 廿日市庁舎 会議室(オンラインとのハイブリッド開催)

14) LaMer セミナー

「ヒューマンバイオモニタリングによる化学物質影響評価」

期日：令和6年12月17日

会場：愛媛大学 総合研究棟16階理学部会議室

15) LaMer 特別講演会

「Smelling Blood: Deep behavioral phenotyping reveals how mosquito-pathogen interactions shape transmission」

期日：令和7年1月9日

会場：愛媛大学 共通講義棟C EL12

16) LaMer セミナー

「Biology meets materials science: molecular perspectives on peptide-mediated biomineralization」(生物学と材料科学の出会い：ペプチドを介したバイオミネラリゼーションの分子的展望)

期日：令和7年1月17日

会場：愛媛大学 総合研究棟22階 212室

5. 4 学会，講演会などの開催（個人）

該当なし

5. 5 学会賞等

環境動態解析部門

加 三千宣

- 1) 日本第四紀学会仙台大会，日本第四紀学会：学術賞 別府湾ほかの沿岸堆積物を用いた後期完新世の環境変遷復元に関する一連の研究．2024年8月31日，

化学汚染・毒性解析部門

Dave Arthur R. Robledo (大学院理工学研究科 博士後期課程3年)

- 1) 第26回日本内分泌攪乱物質学会研究発表会, 優秀学生発表賞 (森田賞) 受賞 (令和6年12月)
- 2) JSPS Core-to-Core Symposium on One Health Approaches to Chemical Risk Management, Poster Award (令和6年10月)

濱元 明来 (大学院理工学研究科 博士前期課程2年)

- 1) 第26回日本内分泌攪乱物質学会研究発表会, 優秀学生発表賞 (森田賞) 受賞 (令和6年12月)

Islem Boukara (大学院理工学研究科 博士後期課程2年)

- 1) 21st International Symposium on Toxicity Assessment (ISTA21, The Dr. Doris Au Student Excellence Award (令和6年8月)
- 2) JSPS Core-to-Core Symposium on One Health Approaches to Chemical Risk Management, Poster Award (令和6年10月)

佐藤 愛佳 (大学院理工学研究科 博士前期課程2年)

- 1) 第3回環境化学物質合同大会, 環境化学会: 優秀発表賞 (Springer Nature 賞) (令和6年7月)

松田 悠莉 (大学院理工学研究科 博士前期課程2年)

- 1) 第3回環境化学物質合同大会, 環境化学会: 優秀発表賞 (Springer Nature 賞) (令和6年7月)

服部 兼真 (大学院理工学研究科 博士前期課程1年)

- 1) 第3回環境化学物質合同大会, 環境化学会: 優秀発表賞 (Wellington Laboratories 賞) (令和6年7月)

徳田 深咲 (大学院理工学研究科 博士前期課程1年)

- 1) 第3回環境化学物質合同大会, 環境化学会: 優秀発表賞 (RSC 賞) (令和6年7月)
- 2) 第30回日本野生動物医学会大会: 優秀ポスター発表賞 (令和6年12月)

栞原 萌葉 (大学院理工学研究科 博士前期課程1年)

- 1) 第3回環境化学物質合同大会, 環境化学会: 優秀発表賞 (RSC 賞) (令和6年7月)

福井 光貴 (理学部理学科化学コース)

- 1) 第59回日本水環境学会年会, 優秀ポスター発表賞 (ライオン賞) (令和7年3月)

6. 国際的活動

(令和6年度)

6. 1 国際研究プロジェクト

環境動態解析部門

郭 新宇

- 1) 平成30年1月～, 日本南岸黒潮と親潮による栄養塩輸送及び北西太平洋への影響, 自然資源部第二海洋研究所
- 2) 平成30年1月～, 東シナ海の起源の異なる栄養塩の役割に関するモデリング研究, 中国海洋大学, 天津科技大学
- 3) 平成30年1月～, 渤海と黄海における残留性有機汚染物質に関するモデリング研究, 中国海洋大学, 中国科学院烟台海岸带研究所
- 4) 令和4年5月～, タイのチャオプラヤー川の海水進入に関する研究, カセサート大学

森本 昭彦

- 1) 平成26年6月～, 西部太平洋および周辺縁辺海の海面高度と流速場の変動, CNES (フランス)
- 2) 令和2年4月～, 持続的な東南アジア海洋生態系利用のための研究教育プロジェクト, チュラロンコン大学 (タイ), マレーシアテレンガヌ大学 (マレーシア), 海洋環境資源研究所 (ベトナム), フィリピン大学ビサヤス校 (フィリピン)

吉江 直樹

- 1) 平成30年4月～, 北太平洋沿岸域における海洋モニタリングに関する研究 (AP-NPCOOS), PICES 加盟国 (米国、カナダ、ロシア、中国、韓国)

加 三千宣

- 1) 令和元年8月～, 人新世 GSSP 研究プロジェクト (米国・カナダ・イギリス・オーストラリア)

化学汚染・毒性解析部門

岩田 久人

- 1) 平成17年～, バイカルアザラシにおける化学物質の汚染および影響に関する研究, ロシア・The Eastern-Siberian Scientific and Production Fisheries Center
- 2) 平成21年～, 野生生物のアーリアル hidrocarbon レセプターの進化と機能に関する研究, 韓国・Kyung Hee University
- 3) 平成28年～, フィリピン水圏環境の汚染と野生生物の影響に関する研究, フィリピン・University of the Philippines Los Baños
- 4) 平成29年～, 環境汚染物質が野生生物のトランスクリプトームに及ぼす影響評価, 中国・西北大学
- 5) 平成29年～, 野生動物のゲノム解析に関する研究, 韓国・Ewha Womans University
- 6) 令和3年～, メキシコ産ワニを対象とした次世代型モニタリング基盤の開発, メキシコ・El Colegio de la Frontera Sur (ECOSUR)
- 7) 令和5年～, タイ住民を対象にしたマイクロプラスチック汚染の影響評価, タイ・Chulabhorn Research Institute
- 8) 令和6年～, *In vitro* 試験による海棲哺乳類の毒性影響評価に関する研究, ドイツ・Helmholtz-Centre for Environmental Research-UFZ

国末 達也

- 1) 平成 26 年～, インドの廃棄物処理場および電子・電気機器リサイクル施設、都市環境における POPs 類縁化合物と生活関連物質の汚染に関する研究, インド Bharathidasan University, Tiruchirappalli および KLE's Nijalingappa College, Bangalor
- 2) 平成 26 年～, ベトナムの廃棄物処理場および電子・電気機器リサイクル施設、都市環境における POPs 類縁化合物と生活関連物質の汚染に関する研究, ベトナム・ハノイ科学大学
- 3) 平成 26 年～, ガーナの電子・電気機器リサイクル施設における難燃剤およびダイオキシン類化合物の汚染と起源に関する研究, ガーナ科学・工業研究評議会 (Council for Scientific and Industrial Research)
- 4) 平成 26 年～, POPs 関連物質、有機スズ化合物、微量元素によるポルトガルの室内環境と食品汚染に関する研究, ポルトガル・アベイロ大学 & Évora 大学
- 5) 平成 27 年～, インドネシアの沿岸域および都市域における POPs 関連物質と微量元素の汚染に関する研究, インドネシア・Research Center for Environmental and Clean Technology, National Research and Innovation Agency
- 6) 平成 27 年～, POPs 関連物質によるマレーシア沿岸域の汚染に関する研究, マレーシア・アプトラ大学
- 7) 平成 30 年～, POPs 関連物質によるエジプト沿岸域の汚染に関する研究, エジプト・National Research Centre (NRC)
- 8) 令和 5 年～, バングラディッシュにおける抗生物質汚染と薬剤耐性菌の出現に関する研究, バングラデッシュ・ダッカ大学
- 9) 令和 6 年～, フィリピンにおけるペルフルオロおよびポリフルオロアルキル化合物(PFAS)の水質汚染に関する研究, フィリピン・デラサール大学

野見山 桂

- 1) 平成 20 年～, 有機ハロゲン化合物および水酸化代謝物によるワニの内分泌攪乱, 米国・フロリダ大学および NASA
- 2) 平成 27 年～, アジア河川域における PPCPs による汚染実態の解明, ベトナム・ハノイ科学大学
- 3) 平成 28 年～, PCBs, PBDEs, および水酸化代謝物によるポルトガルのペット動物汚染に関する研究, ポルトガル・アベイロ大学
- 4) 平成 29 年～, タイ王国におけるペット動物汚染の実態解明に関する研究, Kasetsart 大学獣医学部

田上 瑠美

- 1) 平成 27 年～, 水生生物に対する医薬品類の影響評価に関する研究, 英国・ブルネル大学
- 2) 平成 29 年～, 内分泌かく乱化学物質によるポルトガルの室内環境とヒト汚染に関する研究, ポルトガル・アベイロ大学
- 3) 令和元年度～, ベトナムの水圏環境における医薬品類, パーソナルケア製品由来物質, ビスフェノール類, 農薬類, PFAS の環境動態・生態リスクに関する研究, ベトナム・ハノイ科学大学
- 4) 令和 5 年度～, タイの水圏環境における医薬品類, パーソナルケア製品由来物質, ビスフェノール類, 農薬類, PFAS の環境動態・生態リスクに関する研究, タイ・カセサート大学
- 5) 令和 5 年度～, インドネシアの水圏環境における医薬品類, パーソナルケア製品由来物質, ビスフェノール類, 農薬類, PFAS の環境動態・生態リスクに関する研究, インドネシア・National Research and Innovation Agency – BRIN
- 6) 令和 5 年度～, バングラデッシュの水圏環境における医薬品類の環境動態・生態リスクに関する研究, バングラデッシュ・ダッカ大学
- 7) 令和 6 年～, フィリピンにおけるペルフルオロおよびポリフルオロアルキル化合物(PFAS)の水質汚染に関する研究, フィリピン・デラサール大学

落合 真理

- 1) 令和5年～, *In vitro* 試験による海棲哺乳類の毒性影響評価に関する研究, ドイツ・Helmholtz-Centre for Environmental Research-UFZ
- 2) 令和6年度～, European Cetacean Society・Marine Mammal Neuroscience Working Group における鯨類神経科学の国際共同研究, イタリア (パドヴァ大学)、英国 (グラスゴー大学)、ドイツ (Health and Medical University)、スペイン (ラス・パルマス・デ・グラン・カナリア大学) 等、複数研究機関

生態・保健科学部門

渡辺 幸三

- 1) 平成24年4月～, 蚊媒介感染症制御に関する研究, フィリピン・デ・ラサール大学理学部
- 2) 平成26年4月～, 蚊媒介感染症制御に関する研究, インドネシア・パジャジャラン大学医学部
- 3) 平成28年4月～, 蚊媒介感染症制御に関する研究, インドネシア・ガジャマダ大学理学部
- 4) 平成28年4月～, 蚊媒介感染症制御に関する研究, インドネシア・ハサスディン大学公衆衛生学物
- 5) 令和2年4月～, 感染症数理モデルに関する研究, オランダ・国立公衆衛生環境研究所(RIVM)

大林 由美子

- 1) 令和5年9月～, クラゲ類と共生微生物の生態に関する研究, タイ・ブラバ大学海洋科学研究所

国際・社会連携室

鈴木 康嗣

- 1) 令和2年9月～, 媒介蚊とウイルス相互作用に関する研究, フランス・パスツール研究所
- 2) 令和2年9月～, 媒介蚊とウイルス相互作用に関する研究, オランダ・国立公衆衛生環境研究所(RIVM)
- 3) 令和5年9月～, 媒介蚊とウイルス相互作用に関する研究, フィリピン・フィリピン大学デリマン校
- 4) 令和6年4月～, 媒介蚊とウイルス相互作用に関する研究, オランダ・ラドバウド大学

6. 2 在外研究等

該当なし

6. 3 海外調査・国際学会等

環境動態解析部門

郭 新宇

- 1) 令和6年5月21日～23日, Scoping Workshop on Synergy of Ocean Observations and Biogeochemical Models 参加, アモイ大学, 中国
- 2) 令和6年8月27日～9月8日, ECSA 60 Implementing Science-Based Solutions and Strategies for Coastal Resilience と研究打ち合わせ, 杭州, 中国
- 3) 令和6年9月22日～9月26日, 浙江大学海洋学院を訪問し、研究発表と研究打ち合わせを行う, 舟山, 中国

- 4) 令和6年12月19日～22日, Taiwan-Japan Ocean Sciences Workshop on the NW-Pacific and Kuroshio Areas 参加、台湾大学, 台湾
- 5) 令和7年2月22日～3月13日, POGO (Partnership for Observation of the Global Ocean) Science Conference 2025 参加、Penang 市、マレーシア; 研究打ち合わせおよび論文準備、広州、杭州、舟山、中国

森本 昭彦

- 1) 令和6年6月26日～7月5日, 北部タイランド湾の海洋環境調査
- 2) 令和6年8月4日～6日, インドネシア沿岸域の海洋環境に関する共同研究打合せ
- 3) 令和6年8月28日～9月2日, 北部タイランド湾の海洋環境調査およびタイとの共同研究に関する打ち合わせ

牛島 悠介

- 1) 令和6年6月17日～20日, 14th International Workshop on Modeling the Ocean 2024 で発表, 札幌
- 2) 令和6年9月30日～10月1日, JSPS Core-to-Core Symposium on One Health Approaches to Chemical Risk Management で発表, 松山
- 3) 令和6年11月29日, Workshop on turbulent mixing in Asian marginal seas で発表, 松山

化学汚染・毒性解析部門

岩田 久人

- 1) 令和6年5月26日～29日, 22nd Pollutant Responses in Marine Organisms (PRIMO)参加・発表, Nantes, France
- 2) 令和6年4月18日～20日, 58th National Conference of the Biology Teachers of the Philippines 参加・発表, Boracai, Philippines

国末 達也

- 1) 令和6年9月21日～26日, ベトナム・ハノイの環境調査と研究試料の採取, VNU University of Science, Hanoi, Vietnam

田上 瑠美

- 1) 令和6年9月21日～26日, ベトナム・ハノイの環境調査と研究試料の採取, VNU University of Science, Hanoi, Vietnam

Nguyen Minh Tue

- 1) 令和6年9月21日～26日, ベトナム・ハノイの環境調査と研究試料の採取, VNU University of Science, Hanoi, Vietnam

仲山 慶

- 1) 令和6年10月20日～24日, SETAC North America 45th Annual Meeting で発表, Fort Worth, TX, USA

生態・保健科学部門

大林 由美子

- 1) 令和6年8月2日～7日, タイ沿岸域におけるクラゲ類の生態調査, Burapha University, Thailand,

国際・社会連携室

鈴木 康嗣

- 1) 令和7年3月11日～18日, ベトナム・ハノイおよびフエにおける野生蚊の採取, フエ大学, 国立衛生疫学研究所, ベトナム

6. 4 外国人客員研究員等

化学汚染・毒性解析部門

- 1) Kanerva Mirella Maria, 愛媛大学特定研究員, 令和元年5月1日～
- 2) Marisol Asela Buenfil Rojas, 愛媛大学特定研究員, 令和4年8月17日～

6. 5 海外からの訪問者

環境動態解析部門

- 1) Anukul BURANAPRATHEPRAT, ブラパ大学, 2024年9月24日～10月7日
- 2) Chainarong LIMPHAKDISAWAT, ブラパ大学, 2024年9月25日～10月6日
- 3) Cuong Kim Nguyen, ベトナム科学大学, 2024年11月17日～24日
- 4) Loc Xuan Nguyen, ベトナム科学大学, 2024年11月17日～24日
- 5) Endro SOEYANTO, インドネシア国立研究改革庁, 2024年11月26日～12月4日
- 6) Chen-Tung Arthur CHEN, National Sun Yat-Sen University, 2024年9月27日～10月26日
- 7) Suratsawadee, カセサート大学, 2024年9月27日～10月2日
- 8) Tanuspong Pokavanich, カセサート大学, 2024年9月29日～10月13日
- 9) Yang Min, 自然資源部第二海洋研究所, 2024年10月5日～11月1日
- 10) Gao Huiwang, 中国海洋大学環境科学与工程学院, 2025年2月19日～22日
- 11) Zhang Chao, 中国海洋大学環境科学与工程学院, 2025年2月19日～22日
- 12) Junyong Zheng, 中国海洋大学海洋与大气学院, 2024年12月9日～12月15日
- 13) Jianhui TANG, Yantai Institute of Coastal Zone Research, Chinese Academy of Sciences, 2024年11月20日～25日
- 14) Tao ZHOU, Yantai Institute of Coastal Zone Research, Chinese Academy of Sciences, 2024年11月20日～25日
- 15) Yanfang LI, Yantai Institute of Coastal Zone Research, Chinese Academy of Sciences, 2024年11月20日～25日
- 16) Fahui GONG, Yantai Institute of Coastal Zone Research, Chinese Academy of Sciences, 2024年11月20日～25日
- 17) Song JIN, Yantai Institute of Coastal Zone Research, Chinese Academy of Sciences, 2024年11月20日～25日

化学汚染・毒性解析部門

- 1) Chompoobut Chalida, Chulabhorn Research Institute タイ, 令和6年9月29日～11月27日
- 2) Guo Jiahua, Northwest University, China, 令和6年7月20日～8月1日
- 3) Liang Jiayi, Northwest University, China, 令和6年7月20日～8月1日
- 4) Liu Jiaxin, Northwest University, China, 令和6年7月20日～8月1日
- 5) Tsuchiya Maria Claret, University of the Philippines Los Banos, 令和7年1月12日～19日
- 6) Clarisse Pereira, University of the Philippines Los Banos, 令和7年1月12日～2月20日
- 7) Agus Sudaryanto, Research Center for Environmental and Clean Technology, National Research and Innovation Agency, Indonesia, シンポジウムへの参加および共同研究の実施, 令和6年9月29日～10月14日
- 8) Ahmad Shoiful, Research Center for Environmental and Clean Technology, National Research and Innovation Agency, Indonesia, シンポジウムへの参加および共同研究の実施, 令和6年9月29日～10月14日
- 9) Ana Catarina Almeida Sousa, University of Évora, Portugal, 共同研究の実施, 令和7年1月8日～2月3日
- 10) Ochigue Princess Claire Dumaguing, Mindanao State University-Iligan Institute of Technology, Philippines, 共同研究の実施, 令和7年2月25日～3月29日
- 11) Bryan W. Brooks, Baylor University, USA, セミナーの講師, 令和6年9月13日

生態・保健科学部門

- 1) Artem Baidaliuk, Institut Pasteur, France, 共同研究の実施, 令和6年12月16～27日
- 2) Felix Jan Hein Hol, Radboud University, Netherlands, 共同研究の実施, 令和7年1月7～10日
- 3) Aaron James C. Feliciano, University of Philippines Diliman, Philippines, 共同研究の実施, 令和7年2月4～6日

6. 6 招聘研究員

環境動態解析部門

- 1) Wang Shuya, 沿岸環境科学研究センター, 日本学術振興会外国人特別研究員, 黒潮流域における流れと地形の相互作用に起因する内部波と乱流混合, 中国, 令和6年9月まで
- 2) Leng Qian, 特定研究員, 燧灘における低次生態系数値モデリング, 中国
- 3) Mao Xinyan, 特定研究員, 燧灘の高解像度流動モデル・低次生態系モデルを開発, 中国, 令和6年8月まで

化学汚染・毒性解析部門

- 1) Nguyen Minh Tue, 研究機関研究員, アジア地域の廃棄物処理活動に由来する内分泌攪乱化学物質の曝露影響評価, バイオアッセイおよびGC(LC)-TOFMSを用いた内分泌攪乱化学物質の毒性同定・評価手法の確立, ベトナム
- 2) Kanerva Mirella Maria, 特定研究員, 環境汚染物質暴露によるバルト海産タイセイヨウサケの肝臓トランスクリプトーム・プロテオームへの影響, フィンランド
- 3) Marisol Asela Buenfil Rojas, 沿岸環境科学研究センター, 日本学術振興会外国人特別研究員, メキシコ・ワニ野生個体群の化学物質汚染と影響の統合的評価, メキシコ

生態・保健科学部門

- 1) Levente-Péter Kolcsár, 沿岸環境科学研究センター, 日本学術振興会外国人特別研究員, 日本産河川昆虫ユキガガンボの種多様性の解明と地球温暖化の影響予測, ハンガリー
- 2) Karen Judan Cruz, 沿岸環境科学研究センター, 日本学術振興会外国人特別研究員, 遺伝子組換えティラピアのゲノムワイド検索: 養殖における水資源管理への応用, フィリピン
- 3) Anwar Hossain, 沿岸環境科学研究センター, 特定研究員, 養殖排水中の抗生物質の除去と薬剤耐性菌の制御: バングラデシュへ適用可能な新技術, バングラデシュ
- 4) Michael T. Monaghan, 沿岸環境科学研究センター, 客員教授, 東南アジアの蚊媒介感染症講座に関する教育および研究, ドイツ
- 5) Divina Amalin, 沿岸環境科学研究センター, 客員教授, 東南アジアの蚊媒介感染症講座に関する教育および研究, フィリピン
- 6) Kim Sanghee, 理工学研究科修士課程, 魚類スクーチカ症の原因虫 *Miamiensis avidus* の走化性に関する研究, 大韓民国

6. 7 留学生等

環境動態解析部門

- 1) Bai Yu, 大学院理工学研究科博士後期課程, 瀬戸内海におけるマイクロプラスチック動態に関するモデリング, 中国
- 2) Li Zilin, 大学院理工学研究科博士後期課程, 東シナ海における低酸素水塊の分布と時間変動に関する研究, 中国
- 3) Li Yaxian, 大学院理工学研究科博士後期課程, 瀬戸内海におけるPCBの水平分布と季節変化に関する研究, 中国
- 4) Zhao Xueting, 大学院理工学研究科博士後期課程, 瀬戸内海の植物プランクトン態のPCB濃度の時間変動に関する研究, 中国
- 5) Li Saisai, 大学院理工学研究科博士後期課程, ADCPデータによる動物プランクトン現存量の推測, 中国

- 6) Lin Shiyang, 大学院理工学研究科博士後期課程, 燧灘におけるフロント構造と底部冷水に関するモデリング研究, 中国
- 7) Luo Yifei, 大学院理工学研究科博士後期課程, 黒潮流域における沿岸水と外洋水の海水交換と栄養塩輸送及びその影響評価, 中国
- 8) Jiang Muyan, 大学院理工学研究科博士後期課程, 東シナ海と豊後水道における ADCP データによる動物プランクトン現存量の推測, 中国
- 9) Zhu Lei, 大学院理工学研究科博士後期課程, 四国沖における水塊変動に関する研究, 中国
- 10) Wu Zaosen, 大学院理工学研究科博士後期課程交換留学生, 堆積物における窒素・炭素循環に関するモデリング研究, 中国
- 11) Lu Xinyu, 大学院理工学研究科博士後期課程交換留学生, 干潟における炭素循環に関するモデリング研究, 中国
- 12) Kongpradit Patinee, 大学院理工学研究科博士後期課程理工学専攻, 北部タイランド湾の栄養塩循環とヤコウチュウ赤潮に関する研究, タイ
- 13) Yuenyong Suphachai, 大学院理工学研究科博士後期課程理工学専攻, 豊後水道への外洋系水の進入現象に関する観測的研究, タイ
- 14)

化学汚染・毒性解析部門

- 1) Chen Hao, 理工学研究科博士後期課程, 塩素化パラフィン曝露によるニワトリ胚の発生毒性評価, 中国
- 2) Boukara Islem, 理工学研究科博士前期課程, 日本政府・文科省国費留学生, iPS 細胞とその分化肝細胞を用いた塩素化パラフィンの肝毒性評価, アルジェリア
- 3) Dave Robledo, 理工学研究科博士後期課程, 愛媛大学特別研究員, 環境汚染物質によるシャチ エストロゲン受容体の転写活性化能の評価および分子メカニズムの解明, フィリピン
- 4) Ding Xin, 理工学研究科博士前期課程, TCDD 曝露による鯨類線維芽細胞への毒性影響評価, 中国
- 5) Chalida Chompoobut, JSPS Ronpaku Program, マイクロプラスチック曝露によるタイ住民への健康影響調査, タイ

生態・保健科学部門

- 1) Micanaldo E. Francisco, 理工学研究科博士後期課程 日本政府・文科省国費留学生, デング熱媒介蚊の生態疫学に関する研究, フィリピン
- 2) Jerica Isabel L. Reyes, 理工学研究科博士後期課程, 日本政府・文科省国費留学生, デング熱媒介蚊の生態疫学に関する研究, フィリピン
- 3) Atikah Fitria Muharromah, 理工学研究科博士後期課程, 住友電工社会貢献基金寄付講座留学生, デング熱媒介蚊の生態疫学に関する研究, インドネシア
- 4) Mohammad Mosleh Uddin, 理工学研究科博士後期課程, 日本政府・文科省国費留学生, デング熱媒介蚊の生態疫学に関する研究, バングラデシュ
- 5) Kenneth Bongulto, 理工学研究科研究生, 日本政府・文科省国費留学生, デング熱媒介蚊の生態疫学に関する研究, フィリピン
- 6) Dan Joseph Logronio, 理工学研究科研究生, 日本政府・文科省国費留学生, 淡水生態系の生物多様性評価に関する研究, フィリピン
- 7) Irish Coleen Angelo Asin, 理工学研究科研究生, 日本政府・文科省国費留学生, デング熱媒介蚊の生態疫学に関する研究, フィリピン
- 8) Kim Sanghee, 理工学研究科修士課程, 魚類スクーチカ症の原因虫 *Miamiensis avidus* の走化性に関する研究, 大韓民国

7. 教育活動

7. 1 卒業論文・修士論文・博士論文 題目

(令和6年度)

環境動態解析部門

卒業論文

- 1) 梅若 亜理子 : 潮汐フロント周辺の流動構造に関する観測的研究
- 2) 安藤 岬希 : 豊後水道における急潮進入に対する低次生態系応答
- 3) パティンゴ リュウ : 豊後水道北部の潮汐フロント周辺における低次生態系動態
- 4) 新垣 ひなた : 海底コアを用いた東シナ海におけるマイクロプラスチック沈積量の推定
- 5) 堀江 直人 : 別府湾のマイワシにおける堆積物 DNA の分解に関する研究

修士論文

- 1) 門田 雅仁 : トカラ海峡周辺における栄養塩添加に伴う低次生態系応答
- 2) 須佐 周子 : 網走湖堆積物中の DNA を用いた生物群集の長期変遷過程に関する研究

化学汚染・毒性解析部門

卒業論文

- 1) 中村 真莉奈 : ヒト iPS 細胞由来神経前駆細胞と神経細胞に対するビスフェノール類および有機フッ素化合物の毒性評価
- 2) 西田 圭那 : ヒト iPS 細胞由来心筋細胞に対する有機フッ素化合物の毒性評価
- 3) 大野 琴子 : 芳香族炭化水素受容体の内因性リガンド FICZ 曝露によるヒト線維芽細胞のシトクロム P450 1A1 誘導能評価
- 4) 岡嶋 菜美 : ニワトリ発生初期胚に対するペルフルオロオクタン酸曝露の有害性評価
- 5) 佐伯 大雅 : アニリン骨格を持つ化合物のコイの赤血球に対する溶血作用の評価
- 6) 秦 美月 : ポリプロピレンマイクロプラスチックの経口曝露によるコイの成長阻害
- 7) 森 拓斗 : 病原性細菌の感染による魚類の血しょう中遊離アミノ酸濃度の変化
- 8) 亀田 直人 : ツシマヤマメコにおける残留性有機汚染物質の汚染実態
- 9) 木上 舜太 : 瀬戸内海に生息するマアジのベンゾトリアゾール系紫外線吸収剤汚染と有機ハロゲン化合物との比較解析
- 10) 鈴木 洋祐 : Covid-19 流行期のスリランカ都市部における排水および環境水中の抗微生物薬の分布と挙動
- 11) 中西 諒 : メキシコ産モレレットワニ (*Crocodylus moreletii*) における血漿中農薬汚染の実態とステロイドホルモンに及ぼす影響
- 12) 平田 仁 : 瀬戸内海沿岸に漂着したスナメリにおけるベンゾトリアゾール系紫外線吸収剤と有機ハロゲン化合物の蓄積特性
- 13) 福井 光貴 : 沿岸海域をフィールドとした生分解性・汎用プラスチックに対するポリ塩化ビフェニルの吸着特性
- 14) 村上 幸村 : 東温市拜志川流域における農薬類の挙動と生態リスク
- 15) 山崎 彩花 : 大阪、ハノイ、バンコクの水圏環境における PFAS の存在と挙動
- 16) 山本 愛依 : ゼブラフィッシュ胚を用いた PFOA 代替物質(HFPO-TA, HFPO-TeA)の甲状腺ホルモンへの影響評価

修士論文

- 1) 濱元 明来 : 海棲哺乳類の線維芽細胞を用いたダイオキシン曝露によるシトクロム P450 1A1 誘導能の種差
- 2) 好本 優菜 : 水酸化 PCBs によるイヌ・アザラシ (イヌ亜目) エストロゲン受容体の転写活性化能の種間比較

- 3) 甲斐 奏 : ベトナムとタイの水圏環境における農薬類・医薬品類・生活関連化学物質の存在と挙動および生態リスク
- 4) 佐藤 愛佳 : ペット動物とペットフードにおける有機フッ素化合物(PFAS)の汚染実態解明
- 5) 松田 悠莉 : ヒト肝 S9 画分を用いた *in vitro* 試験と機器分析による有機リン系難燃剤の代謝物同定および尿中レベルに基づいた曝露量評価

博士論文

- 1) Chen Hao : Effects of exposure to short chain chlorinated paraffins (SCCPs) on early chicken embryos
- 2) 須之内 朋哉 : ハクジラ類の脂皮に蓄積する有機ハロゲン化合物の網羅的スクリーニングとプロファイル解析

生態・保健科学部門

卒業論文

- 1) 下村 琳 : 菌類様原生生物ラビリントラ類の細胞外有機物分解能と海水中での細菌群集との関係
- 2) 飯塚 まり : 海水中の有機物加水分解酵素活性の変化と海水試料保存法の検討

修士論文

- 1) 浦久保 陸人 : 西部北太平洋亜寒帯・亜熱帯におけるプロテアーゼ活性プロファイル

7. 2 講義・集中講義

環境動態解析部門

講義

郭 新宇

- 1) 令和6年度1Q, 愛大プライム科目, 共通教育
- 2) 令和6年度前期, 沿岸海洋学研究, 理学部
- 3) 令和6年度前期, 海洋物理学Ⅱ, 理学部
- 4) 令和6年度前期, 海洋学概論, 理学部
- 5) 令和6年度3Q, 愛大プライム科目, 共通教育
- 6) 令和6年度後期, 沿岸海洋学, 理学部
- 7) 令和6年度後期, 地球科学課題研究, 理学部
- 8) 令和6年度後期, 地球環境学特論, 理学部
- 9) 令和6年度後期, 最新地球惑星科学, 理学部
- 10) 令和6年度前期, 大気海洋科学特論, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 11) 令和6年度前期, 地球科学フィールド高等実習Ⅰ, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 12) 令和6年度前期, 地球科学高等実験Ⅰ, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 13) 令和6年度前期, 地球科学ゼミナールⅠ, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 14) 令和6年度後期, 地球科学フィールド高等実習Ⅲ, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 15) 令和6年度後期, 地球科学高等実験Ⅲ, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 16) 令和6年度後期, 地球科学ゼミナールⅡ, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 17) 令和6年度後期, 地球進化学特論Ⅷ, 大学院理工学研究科博士後期課程

森本 昭彦

- 1) 令和6年度前期, 沿岸海洋学研究, 理学部
- 2) 令和6年度後期, 沿岸海洋学, 理学部
- 3) 令和6年度後期, 海洋物理学Ⅰ, 理学部
- 4) 令和6年度後期, 地学課題演習, 理学部

- 5) 令和6年度後期, 課題挑戦キックオフセミナー, 理学部
- 6) 令和6年度後期, 環境科学セミナーⅠ, 理学部
- 7) 令和6年度後期, 地球環境学特論, 理学部
- 8) 令和6年度後期, 地球環境学序論, 理学部
- 9) 令和6年度後期, 地球物理学実験, 理学部
- 10) 令和6年度後期, 海洋力学, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 11) 令和6年度前期, 地球科学フィールド高等実習Ⅰ, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 12) 令和6年度前期, 地球科学高等実験Ⅰ, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 13) 令和6年度前期, 地球科学ゼミナールⅠ, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 14) 令和6年度後期, 地球科学フィールド高等実習Ⅲ, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 15) 令和6年度後期, 地球科学高等実験Ⅲ, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 16) 令和6年度後期, 地球科学ゼミナールⅡ, 大学院理工学研究科博士前期課程

加 三千宣

- 1) 令和6年度前期, 地学Ⅰ, 理学部
- 2) 令和6年度前期, 沿岸海洋学研究, 理学部
- 3) 令和6年度後期, 地球科学課題研究, 理学部
- 4) 令和6年度前期, 海洋学概論, 理学部
- 5) 令和6年度後期, 地球環境学特論, 理学部
- 6) 令和6年度後期, 地球化学, 理学部
- 7) 令和6年度前期, 地球科学フィールド高等実習Ⅰ, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 8) 令和6年度前期, 地球科学高等実験Ⅰ, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 9) 令和6年度前期, 地球科学ゼミナールⅠ, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 10) 令和6年度後期, 地球科学フィールド高等実習Ⅲ, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 11) 令和6年度後期, 地球科学高等実験Ⅲ, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 12) 令和6年度後期, 地球科学ゼミナールⅡ, 大学院理工学研究科博士前期課程

吉江 直樹

- 1) 令和6年度前期, 海洋学概論, スーパーサイエンス特別コース・理学部
- 2) 令和6年度前期, 地球科学野外研究, 理学部
- 3) 令和6年度後期, 環境建設プロジェクト実習Ⅲ, 工学部
- 4) 令和6年度後期, 地球生態学, 工学部
- 5) 令和6年度後期, 地球化学, 理学部
- 6) 令和6年度後期, 地球科学課題研究, 理学部
- 7) 令和6年度後期, 地球環境学特論, 理学部
- 8) 令和6年度後期, 環境科学セミナーⅣ, スーパーサイエンス特別コース
- 9) 令和6年度前期, 地球科学フィールド高等実習Ⅰ～Ⅲ, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 10) 令和6年度前期, 地球科学高等実験Ⅰ, Ⅲ, Ⅴ, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 11) 令和6年度前期, 地球科学ゼミナールⅠ～Ⅳ, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 12) 令和6年度前期, 地球科学プレゼンテーション特別実習Ⅰ～Ⅲ, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 13) 令和6年度前期, 地域社会プロジェクト実習Ⅰ～Ⅱ, 工学部

牛島 悠介

- 1) 令和6年度後期, 地学課題演習, 理学部
- 2) 令和6年度後期, 地球環境学特論, 理学部
- 3) 令和6年度後期, 最新地球惑星科学, 理学部
- 4) 令和6年度後期, 地球物理学実験, 理学部

化学汚染・毒性解析部門

講義

岩田 久人

- 1) 令和6年度前期, 環境毒性学, 理学部・農学部・社会共創学部
- 2) 令和6年度前期, 生物化学基礎Ⅰ, 理学部

- 3) 令和6年度後期, 環境科学セミナーⅡ, 理学部
- 4) 令和6年度後期, 環境科学セミナーⅠ, 理学部
- 5) 令和6年度後期, 環境科学セミナーⅢ, 理学部
- 6) 令和6年度後期, 生物学展望Ⅰ, 理学部
- 7) 令和6年度後期, 生物学課題研究, 理学部
- 8) 令和6年度前・後期, 生物学特別演習Ⅰ-Ⅳ, 理学部
- 9) 令和6年度前・後期, 卒業研究Ⅰ-Ⅱ, 理学部
- 10) 令和6年度後期, 環境分子毒性学, 大学院理工学研究科
- 11) 令和6年度前期, 生物学ゼミナールⅠ, 理学部
- 12) 令和6年度後期, 生物学ゼミナールⅡ, 理学部
- 13) 令和6年度後期, 課題挑戦KOセミナー, 理学部
- 14) 令和6年度通年, 分子毒性学, 医学系研究科
- 15) 令和6年度前・後期, 生物学ゼミナールⅠ-Ⅳ, 大学院理工学研究科
- 16) 令和6年度前・後期, 生物学課題実験Ⅰ-Ⅳ, 大学院理工学研究科
- 17) 令和6年度後期, 環境生物学特論, 大学院理工学研究科

国末 達也

- 1) 令和6年度前期, 特別演習Ⅰ, 理学部
- 2) 令和6年度前期, 特別演習Ⅱ, 理学部
- 3) 令和6年度後期, 特別研究Ⅰ, 理学部
- 4) 令和6年度後期, 特別研究Ⅱ, 理学部
- 5) 令和6年度後期, 環境化学, 理学部
- 6) 令和6年度後期, 生態環境分析学, 理学部
- 7) 令和6年度後期, 課題挑戦KOセミナー, 理学部
- 8) 令和6年度後期, 環境科学セミナーⅠ, 理学部
- 9) 令和6年度前期, 環境科学セミナーⅡ, 理学部
- 10) 令和6年度後期, 環境科学セミナーⅢ, 理学部
- 11) 令和6年度後期, 先端研究入門B, 共通
- 12) 令和6年度前期, 環境化学特論, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 13) 令和6年度前期, 科学・技術英語, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 14) 令和6年度前期, 高等セミナーA, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 15) 令和6年度後期, 高等セミナーB, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 16) 令和6年度前期, 高等セミナーC, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 17) 令和6年度後期, 高等セミナーD, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 18) 令和6年度集中, 修士特別研究Ⅰ, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 19) 令和6年度集中, 修士特別研究Ⅱ, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 20) 令和6年度集中, アカデミックプレゼンテーション, 大学院理工学研究科博士前期課程

野見山 桂

- 1) 令和6年度前期, 特別演習Ⅰ, 理学部
- 2) 令和6年度前期, 特別演習Ⅱ, 理学部
- 3) 令和6年度後期, 特別研究Ⅰ, 理学部
- 4) 令和6年度後期, 特別研究Ⅱ, 理学部
- 5) 令和6年度後期, 化学実験法, 理学部
- 6) 令和6年度後期, 化学Ⅰ, 理学部
- 7) 令和6年度後期, 機器分析Ⅱ, 理学部
- 8) 令和6年度前期, 科学研究倫理, 理学部
- 9) 令和6年度前期, 化学実験Ⅱ, 理学部
- 10) 令和6年度後期, 化学実験Ⅴ, 理学部
- 11) 令和6年度前・後期, 基礎化学実験, 理学部
- 12) 令和6年度前期, 卒業研究Ⅰ, 理学部
- 13) 令和6年度後期, 卒業研究Ⅱ, 理学部
- 14) 令和6年度前期, 化学ゼミナールⅠ, 大学院理工学研究科
- 15) 令和6年度後期, 化学ゼミナールⅡ, 大学院理工学研究科
- 16) 令和6年度前期, 化学ゼミナールⅢ, 大学院理工学研究科
- 17) 令和6年度後期, 化学ゼミナールⅣ, 大学院理工学研究科

- 18) 令和6年度後期, 有害物質動態論, 大学院理工学研究科
- 19) 令和6年度前期, 分子科学課題演習 I, 大学院理工学研究科
- 20) 令和6年度後期, 分子科学課題演習 II, 大学院理工学研究科

田上 瑠美

- 1) 令和6年度前期, 基礎化学実験, 理学部
- 2) 令和6年度後期, 基礎化学実験, 理学部
- 3) 令和6年度前期, 化学実験 II, 理学部
- 4) 令和6年度後期, 化学実験 V, 理学部
- 5) 令和6年度前期, 特別演習 I, 理学部
- 6) 令和6年度前期, 特別研究 I, 理学部
- 7) 令和6年度後期, 特別演習 II, 理学部
- 8) 令和6年度後期, 特別研究 II, 理学部

仲山 慶

- 1) 令和6年度前期, 基礎生物学演習, 理学部
- 2) 令和6年度前期, 基礎生物学実験, 理学部
- 3) 令和6年度前期, 生物学ゼミナール I, 理学部
- 4) 令和6年度前期, 生物学展望 II
- 5) 令和6年度前期, 特別演習 I, 理学部
- 6) 令和6年度前期, 特別研究 I, 理学部
- 7) 令和6年度後期, 生物学課題研究, 理学部
- 8) 令和6年度後期, データマネジメント基礎, 理学部
- 9) 令和6年度前後期, 生物学特別演習 I~IV, 理学部
- 10) 令和6年度前後期, 卒業研究 I, II, 理学部
- 11) 令和6年度前後期, 生物学ゼミナール I, II, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 12) 令和6年度前後期, 生物学課題実験 I, II, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 13) 令和6年度前後期, 生物情報学, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 14) 令和6年度前後期, 生物学ゼミナール I, II, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 15) 令和6年度前後期, 生物学課題実験 I, II, 大学院理工学研究科博士前期課程

生態・保健科学部門

渡辺 幸三

- 1) 令和6年度前期, 工学入門, 工学部
- 2) 令和6年度前期, 建設倫理, 工学部
- 3) 令和6年度前期, 学部共通 PBL, 工学部
- 4) 令和6年度前期, 技術英語 I, 工学部
- 5) 令和6年度後期, 応用数学 II, 工学部
- 6) 令和6年度後期, 工学コミュニケーション, 大学院理工学研究科
- 7) 令和6年度後期, 流域環境工学, 大学院理工学研究科
- 8) 令和6年度前期, 生物多様性と人間活動, 大学院理工学研究科
- 9) 令和6年度前後期, 水圏環境工学特論 VII, 大学院理工学研究科

大林 由美子

- 1) 令和6年度前期, 環境基礎数学, 農学部
- 2) 令和6年度前期, 海洋環境学, 農学部
- 3) 令和6年度前期, 環境保全学実験 III, 農学部
- 4) 令和6年度前期・後期, 先端研究入門 B, 共通教育
- 5) 令和6年度後期, 環境保全学概論, 農学部

- 6) 令和6年度通年, 分子生態学実習, 農学部
- 7) 令和6年度通年, 環境保全セミナー, 農学部
- 8) 令和6年度前期, 環境保全学特論, 大学院農学研究科
- 9) 令和6年度後期, 農学最先端研究, 大学院農学研究科
- 10) 令和6年度後期, 海洋生物地球科学, 大学院農学研究科
- 11) 令和6年度通年, 環境保全学特別演習Ⅰ, 大学院農学研究科
- 12) 令和6年度通年, 環境保全学特別演習Ⅱ, 大学院農学研究科
- 13) 令和6年度通年, 環境保全学特別実験Ⅰ, 大学院農学研究科
- 14) 令和6年度通年, 環境保全学特別実験Ⅱ, 大学院農学研究科
- 15) 令和6年度, 専攻セミナー 生産環境学, 大学院連合農学研究科

8. 設 備

(令和6年度導入)

環境動態解析部門

- 1) ワイパー式メモリー水温塩分計 ACTW-WF-L 2台 :
海水の物理的な性質として重要な水温と塩分を計測するために使用

化学汚染・毒性解析部門

- 1) コンビニ・エバポ K4 CEK4-SU-P4 Bio Chromato :
化学分析の前処理における高沸点溶媒の迅速な除去と濃縮のため
- 2) 水道直結型超純水製造装置 ザルトリウス H20-MA-T :
海水中の化学成分の分析時、および器具の洗浄に必要な超純水生成に使用
- 3) 倒立型培養顕微鏡 エビデント :
培養細胞の状態を観察するため
- 4) ワイパー式メモリー水温塩分計 ACTW-WF-L (WDF有L) :
海水の物理的な性質として重要な水温と塩分を計測するために使用
- 5) トリロジー7200-002 :
海水中の植物プランクトン量の指標であるクロロフィル色素濃度の分析に使用
- 6) UV照射装置 (Aセット) UVライト+電池BOX (Bセット) UVライト+中継BOX+電池 :
海洋環境モニタリングに用いる各種センサーへの生物付着を防止するために使用

生態・保健科学部門

- 1) 卓上冷却遠心機 5430R FA-45-30-11 アンゲルローター付き 5428000430 :
試料の分離・精製等
- 2) カスタマイズ PC VAIO VJPI238004240 :
データ処理
- 3) 14inch MacBook Pro Spacezwart :
構築した数理モデルに基づく感染症拡大のシミュレーションや疫学パラメータの統計的推定

9. 広 報

9. 1 CMES ニュース

CMES ニュース No.50

目 次

研究課題紹介

生態・保健科学部門 教 授 渡辺 幸三

化学汚染・毒性解析部門 教 授 岩田 久人

化学汚染・毒性解析部門 教 授 野見山 桂

受賞紹介

理学部理学科化学コース 服部 兼真

編集後記

LaMer ニュース No.17

目 次

拠点長 新年度挨拶

化学汚染・毒性解析部門 教 授 岩田 久人

LaMer 共同研究課題紹介

国立環境研究所 家田 曜世

日本学術振興会 外国人特別研究員 Anwar Hossain

2024年度共同利用・共同研究 採択課題

化学汚染・毒性解析部門 教 授 岩田 久人

編集後記

CMES ニュース No.51

目 次

新任教員紹介

生態・保健科学部門 助 教 濱本 耕平

環境動態解析部門 助 教 牛島 悠介

愛媛大学先端研究院(eu-PIAS)発足のお知らせ

先端研究高度支援室 准教授 吉江 直樹

研究課題紹介

国際・社会連携室 教授 Divina M Amalin

受賞紹介

理工学研究科 博士前期課程 2年 佐藤 愛佳

理工学研究科 博士前期課程 2年 松田 悠莉

理工学研究科 博士前期課程 1年 服部 兼真

理工学研究科 博士前期課程 1年 徳田 深咲

理工学研究科 博士前期課程 1年 栞原 萌葉

理工学研究科 博士後期課程 1年 Islem Boukara

理工学研究科 博士後期課程 3年 Dave Arthur R. Robledo

理工学研究科 博士前期課程 2年 濱元 明来

編集後記

目次

CMESと低温科学研究所の合同研究集会開催報告

環境動態解析部門 教授 郭 新宇

JSPS Core-to-core シンポジウムの開催報告

国際・社会連携室 特定准教授 鈴木 康嗣

研究集会開催報告

環境動態解析部門 助教 牛島 悠介

先端研究高度支援室 准教授 吉江 直樹

環境動態解析部門 教授 森本 昭彦

化学汚染・毒性解析部門 准教授 野見山 桂

編集後記

9. 2 報道関係

環境動態解析部門

加 三千宣

- 1) 2024年11月28日朝日新聞 1952年 人が地球環境を圧倒し始めた
- 2) 2024年11月10日日経新聞 地球に人類活動の痕跡、「人新世」開始は1952年 愛媛大
- 3) 2024年10月15日朝日新聞デジタル 人間が地球を圧倒し始めたのはいつ？ 地層記録を7700年分みた https://www.asahi.com/articles/ASSBC36MLSBCPLBJ009M.html?iref=pc_ss_date_article
- 4) 2024年10月1日 Meteo Giomale When did the Anthropocene begin? The date will surprise you <https://www.meteogiornale.it/eng/2024/10/magazine/when-did-the-anthropocene-begin-the-date-will-surprise-you/>
- 5) 2024年9月30日 テレビ愛媛 世界中で1952年前後に“人の影響”急増 愛媛大・東大など研究グループが地層調査で解明【愛媛】
- 6) 2024年9月30日 大学ジャーナルオンライン 1952年頃から世界中の地層で人の影響を示す痕跡が急増 愛媛大学などが発見
- 7) 2024年9月29日 Iowa Climate Change Anthropocene: Cockroach of the Geologic Time Scale! <https://iowacclimate.org/2024/09/29/anthropocene-cockroach-of-the-geologic-time-scale/>
- 8) 2024年9月28日 Carbon Brief New climate research に PNAS 論文の紹介記事. <https://www.carbonbrief.org/daily-brief/leaders-at-un-urge-worlds-richest-to-do-more-on-climate/>
- 9) 2024年9月28日 Earth.com When did the Anthropocene begin? <https://www.earth.com/news/when-did-the-anthropocene-begin/>
- 10) 2024年9月28日 IFL SCIENCE Geological Fingerprints Suggest The Anthropocene Started In The 1950s <https://www.iflscience.com/geological-fingerprints-suggest-the-anthropocene-started-in-the-1950s-76147>
- 11) 2024年9月30日 Science X PHYS ORG New assessment suggests Anthropocene started in the 1950s <https://phys.org/news/2024-09-anthropocene-1950s.html>
- 12) 2024年9月23日 X PNASNews When was the dawn of the Anthropocene? According to a study, the human impact on Earth systems—including the appearance of organic pollutants, microplastics, and plutonium and modern carbon-14 from nuclear detonations—accelerated around 1952. In PNAS: <https://ow.ly/n9Ly50TwjK7>
- 13) 2024年9月22日 NHK E テレサイエンス ZERO 「人新世 地層が語る “人間の時代”」 <https://www.nhk.jp/p/zero/ts/XK5VKV7V98/episode/te/P78LZMYL45/>
- 14) 2024年1月31日 南海放送 News CH. X 新時代に突入した地球 過去100年分の地層データにみる「人新世」の始まり…人が求めた豊かさの代償

化学汚染・毒性解析部門

岩田 久人

- 1) 令和7年3月28日, DDT could be affecting killer whale hormones, The Wildlife Society
- 2) 令和6年7月17日, 塩素系難燃剤は鳥類の胚発生に影響する, 愛媛大学ストックサイト
- 3) 令和6年7月16日, Chlorinated flame retardants affect avian embryonic development, EurekAlert!, <https://www.eurekalert.org/news-releases/1051506>
- 4) 令和6年7月16日, Chlorinated flame retardants affect avian embryonic development, AlphaGalileo, <https://www.alphagalileo.org/en-gb/Item-Display/ItemId/248157>
- 5) 令和6年7月16日, Chlorinated flame retardants affect avian embryonic development, Asia Research NEWS, <https://admin.asiaresearchnews.com/content/chlorinated-flame-retardants-affect-avian-embryonic-development-0>

国末 達也

- 1) 令和7年3月3日, 「Profiles of 313 organohalogen compounds as habitat indicators of 11 toothed whale species」, EurekAlert!, <https://www.eurekalert.org/news-releases/1075597>
- 2) 令和7年3月3日, 「Profiles of 313 organohalogen compounds as habitat indicators of 11 toothed whale species」, AlphaGalileo, <https://www.alphagalileo.org/Item-Display/ItemId/255700>
- 3) 令和7年3月3日, 「Profiles of 313 organohalogen compounds as habitat indicators of 11 toothed whale species」, Asia Research News, <https://www.asiaresearchnews.com/content/profiles-313-organohalogen-compounds-habitat-indicators-11-toothed-whale-species>

9. 3 講座, 講演会等

環境動態解析部門

森本 昭彦

- 1) 瀬戸内海の栄養塩循環, 令和5年度えひめ環境大学, 松山市, 7月

化学汚染・毒性解析部門

岩田 久人

- 1) 化学物質と環境, 令和6年度愛媛大学附属高等学校における高大連携授業「環境教育学」, 松山市, 1月
- 2) 愛媛大学研究・産学連携推進機構, 科研費の獲得等に関する説明会, 「科研費採択のための技術とヒント: 自由な発想を実現するために」, 松山市, 7月

国末 達也

- 1) 内分泌かく乱化学物質, 高大連携授業「愛媛県立松山南高等学校スーパーサイエンスハイスクール環境教育学」, 松山市, 9月

野見山 桂

- 1) まつやまミニ環境フォーラム「プラスチックの海といきもの」主催・愛媛県松山市環境部、まつやま Re・再来館, 8月24日
- 2) 中予コミュニティ・カレッジ「環境講座」野生生物を取り囲む窮屈な環境～化学物質汚染・プラスチック問題を考える～, 愛媛県生涯学習センター, 松山市, 12月10日

田上 瑠美

- 1) 愛媛大学理学部公開講座「化学物質とのつきあい方を考える ～化学物質のリスク評価概論～」, 松山市, 7月7日
- 2) 松山南高等学校スーパーサイエンスハイスクール事業支援事業における研究室体験「化学物質とのつきあい方を考える」, 松山市, 12月19～20日
- 3) SCIEX 環境セミナー「高分解能質量分析計 X500R を用いた環境試料のターゲット・ノンターゲット分析 ～PPCPs・農薬・ゴム製品添加剤・PFAS・変化体～」, 広島市, 7月1日

仲山 慶

- 1) 「Microplastic impacts on fish: A comparative study of type, size, and degradation」, 海洋環境国際シンポジウム みんなの海 国際会議 vol. 1, 唐津市, 1月30日

生態・保健科学部門

大林 由美子

- 1) 第30回 海のサイエンスカフェ「北極海にひろがるプラスチック汚染」, 企画・実施, 国立極地研究所, 立川市, 6月
- 2) 女子中高生夏の学校 ～科学・技術・人との出会い2024, 国立女性教育会館, 8月
- 3) 第31回 海のサイエンスカフェ「海の中の「水の塊」が台風の強さを左右する!?', 企画・実施・進行, 日本海洋学会教育問題研究会主催, 東京, 9月
- 4) 自然観察会「みてみよう!いきものマイクロ☆たんけん隊」, 茨城県自然博物館, 11月
- 5) 第32回 海のサイエンスカフェ「動物プランクトンの世界 駿河湾にすむミジンコたちの話」, 企画・実施・進行, 日本海洋学会教育問題研究会主催, 東京, 3月

10. 調査実習船「いさな」運行状況

(令和6年度)

船長：大西 秀次郎

日 付	運航海域	目 的
令和6年4月17日	伊予灘	プランクトン採集
令和6年4月25日	伊予灘	プランクトン採集
令和6年5月10日	伊予灘	プランクトン採集
令和6年5月17日	伊予灘	事務担当者による視察
令和6年5月17日	伊予灘	音響切離装置の動作テスト
令和6年6月3日	伊予灘	プランクトン採集
令和6年6月25日	伊予灘	農学部実習
令和6年6月29日	伊予灘	プランクトン採集
令和6年7月1日	伊予灘	農学部実習
令和6年7月16日～17日	伊予灘	プランクトン採集
令和6年7月31日	伊予灘、豊後水道	急潮観測
令和6年8月1日～6日	豊後水道	急潮観測
令和6年8月7日～9日	宇和海	急潮観測
令和6年8月22日	伊予灘	プランクトン採集
令和6年9月6日	伊予灘	プランクトン採集
令和6年11月21日	伊予灘	他機関研究者による調査船視察
令和7年1月14日	伊予灘	ドローンによる海面高度および波浪観測

11. 研究員名簿

(研究員：沿岸環境科学研究センター規則(14章参照)に基づき任命された学内の協力研究者)

(令和6年度)

氏名	所属	職	研究課題	主として連携する研究分野
村上 安則	理工学研究科環境機能科学専攻	教授	化学物質が発生期の神経系に及ぼす影響の解析	化学汚染・毒性解析部門
鑑迫 典久	農学研究科生物環境学専攻	教授	工場排水の生物応答を用いた管理手法の開発及び・周辺環境に及ぼす毒性影響評価 等	化学汚染・毒性解析部門
座古 保	理工学研究科環境機能科学専攻	教授	ナノ粒子や生体分子を利用した新規バイオ分析法の開発	化学汚染・毒性解析部門
井上 幹生	理工学研究科環境機能科学専攻	教授	河川性魚類の生息環境の解析	生態・保健科学部門
畑 啓生	理工学研究科環境機能科学専攻	教授	沿岸魚類群集の解析	生態・保健科学部門

12. 客員研究員名簿

(客員研究員：沿岸環境科学研究センター規則(14章参照)に基づき委嘱された学外の協力研究者)

(令和6年度)

氏名	所属	職	研究課題	主として連携する研究分野
高橋 暁	国立研究開発法人 産業技術総合研究所	主任研究員	瀬戸内海をはじめとする沿岸海域の環境問題第に関する研究	環境動態解析部門
市川 香	九州大学応用力学研究所 地球環境力学部門	准教授	沿岸域の海面高度・流速のリモートセンシング漂流ブイ・ドローンなどを用いた広域現場観測	環境動態解析部門
速水 祐一	佐賀大学農学部生物資源学科	准教授	貧酸素水塊の形成・変動過程等、沿岸海域における海洋環境の変動機構に関する研究	環境動態解析部門
兼田 淳史	福井県立大学 海洋生物資源学部	教授	緑辺海および内湾の物理環境に関する研究	環境動態解析部門
奈良 正和	高知大学教育研究部自然科学系理工学部門	教授	瀬戸内海をはじめとした沿岸域の地質学的研究	環境動態解析部門
山口 一岩	香川大学農学部 応用生物科学科	准教授	沿岸海域における生物活動を介在する親生物元素の循環ならびにエネルギー流の解析	環境動態解析部門
磯辺 篤彦	九州大学応用力学研究所附属 大気海洋環境研究センター	教授	沿岸海域における大気海洋相互作用と海洋循環	環境動態解析部門
槻木 玲美	松山大学 法学部	教授	琵琶湖や瀬戸内海等を対象に、湖底・海底の堆積物に残る色素や動物・植物プランクトンの遺骸、遺伝子情報を用いて微生物相とこれら生物間相互作用の長期変化を明らかにする環境解析	環境動態解析部門
柴田 康行	東京理科大学 環境安全センター	副センター長	残留性有機汚染物質等の分析法開発並びに環境動態の解明 等	化学汚染・毒性解析部門
森 千里	千葉大学大学院医学研究院 環境生命医学	教授	生活習慣病や心の病、環境がもたらす健康影響などを事前に予防する「予防医学」の研究・普及を図っている	化学汚染・毒性解析部門
井口 泰泉	横浜市立大学	特任教授	発生途上の動物（マウス、ワニ、カエル、サカナ）へのエストロゲンの影響 等	化学汚染・毒性解析部門
大嶋 雄治	九州大学大学院 農学研究院	教授	化学物質が水生生物の生理・生殖・行動に及ぼす影響	化学汚染・毒性解析部門

有菌 幸司	熊本大学大学院 生命科学研究部 (薬)	特任教授	環境汚染物質の生態影響に関する研究 等	化学汚染・毒性解析部門
渡邊 泉	東京農工大学 農学研究院	教授	生態系における微量元素の動態解析と影響評価 等	化学汚染・毒性解析部門
山田 格	国立科学博物館	名誉研究員	海棲哺乳類学	化学汚染・毒性解析部門
板井 啓明	東京大学大学院理学系研究科 地球惑星科学専攻	准教授	北西太平洋各地の生物試料中水銀安定同位体比を計測し、同位体の三次元分布を元に水銀広域動態を解析する。	化学汚染・毒性解析部門
鈴木 剛	国立研究開発法人 国立環境研究所 資源循環領域	主幹研究員	資源循環研究プログラムにおいて、工業製品廃棄物の健全な資源循環・廃棄処理に資する製品由来化学物質の安全性評価に関する研究 等	化学汚染・毒性解析部門
篠原 亮太	熊本県環境センター	館長	水環境中有害化学物質の動態、中微量化学物質の動態、外因性内分泌攪乱化学物質（環境ホルモン）の生態系影響、水の高度処理、干潟における多環芳香族炭化水素の光化学反応、医薬品の環境動態、有機性廃棄物の再利用	化学汚染・毒性解析部門
磯部 友彦	国立研究開発法人 国立環境研究所 環境リスク・健康領域	主幹研究員	主に生体試料を対象とした新規環境汚染物質の分析法開発に関する共同研究	化学汚染・毒性解析部門
飯田 緑	九州工業大学大学院情報工学研究院	准教授	抗生物質曝露による魚類への影響解析	化学汚染・毒性解析部門
野中 里佐	尚絅大学生活科学部 准教授	准教授	薬剤耐性菌とその出現・拡大のメカニズムに関する研究	生態・保健科学部門
広瀬 裕一	琉球大学理学部海洋自然科学生物系	教授	ホヤの生物学および形態学	生態・保健科学部門
柳田 哲矢	山口大学共同獣医学部	准教授	寄生虫の集団遺伝学的解析	生態・保健科学部門
臼井 優	酪農学園大学獣医学部	准教授	環境の薬剤耐性菌の衛生学的研究	生態・保健科学部門
丸山 史人	広島大学 IDEC 国際連携機構	教授	環境ゲノミクスの研究	生態・保健科学部門

13. 運営委員会

(令和6年度)

委員長	郭 新宇	沿岸環境科学研究センター	センター長・教授
委員	森本 昭彦	沿岸環境科学研究センター	副センター長・教授
委員	小田 敬美	法文学部	教授
委員	中村 依子	教育学部	准教授
委員	井上 幹生	理工学研究科（理学系）	教授
委員	白石 研	医学系研究科	准教授
委員	日向 博文	理工学研究科（工学系）	教授
委員	渡邊 誠也	農学研究科	教授
委員	入江 賀子	社会共創学部	准教授
委員	若松 伸一	研究・産学連携支援部	部長
委員	渡辺 幸三	沿岸環境科学研究センター	教授
委員	岩田 久人	沿岸環境科学研究センター	教授
委員	国末 達也	沿岸環境科学研究センター	教授
委員	加 三千宣	沿岸環境科学研究センター	教授
委員	野見山 桂	沿岸環境科学研究センター	准教授
委員	田上 瑠美	沿岸環境科学研究センター	准教授

14. センター規則および運営委員会規程

愛媛大学沿岸環境科学研究センター規則

平成16年 4月 1日
規則第 197号

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人愛媛大学基本規則第30条の2第2項の規定に基づき、愛媛大学沿岸環境科学研究センター(以下「センター」という。)の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 センターは、沿岸域の環境科学に関する研究及び教育を行うことにより、沿岸環境科学研究の総合的推進を図り、併せて地域社会の発展に貢献することを目的とする。

(研究部門)

第3条 前条の目的を達成するため、センターに次の研究部門を置く。

- (1) 環境動態解析部門
- (2) 化学汚染・毒性解析部門
- (3) 生態・保健科学部門

(組織)

第4条 センターに、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 専任教員
- (3) 特定職員である教員
- (4) 兼任教員
- (5) その他必要な職員(以下「センター職員」という。)

2 センターに、前項のほか、副センター長を置くことができる。

(先端研究院会議)

第5条 センターの業務に関する重要な事項は、愛媛大学先端研究院先端研究院会議(以下「先端研究院会議」という。)において審議する。

(運営委員会)

第6条 センターの運営に関する事項を審議するため、センター運営委員会(以下「運営委員会」という。)を置く。

2 運営委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(センター長)

第7条 センター長候補者及び副センター長候補者は、愛媛大学(以下「本学」という。)の専任の教授及び特定職員である教授のうちから先端研究院会議が推薦し、学長が選考する。

2 センター長及び副センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、センター長又は副センター長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、それぞれ前任者の残任期間とする。

3 前項の規定にかかわらず、副センター長の任期は、センター長の任期の末日を超えることができない。

(専任教員)

第8条 センターの専任教員は、先端研究院会議が推薦し、国立大学法人愛媛大学人事委員会の議を経て、学長が選考する。

(兼任教員)

第9条 兼任教員は、本学の専任教員及び特定職員である教員のうちから、センター長が当該教員の所属する部局等の長の同意を得て推薦し、学長が任命する。

2 兼任教員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、兼任教員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

3 前項の規定にかかわらず、兼任教員の任期は、センター長の任期の末日を超えることができない。

(職務)

第10条 センター長は、センターの業務を掌理する。

2 副センター長は、センター長の職務を補佐する。

3 センター長が不在又は事故があるときは、副センター長、専任教員又は特定職員である教員のうち、センター長があらかじめ指名する者がその職務を代行する。

4 専任教員及び特定職員である教員は、センター長の職務を助け、センターの業務を遂行する。

5 兼任教員は、専任教員とともにセンターの業務を遂行する。

6 センター職員は、センターの業務に従事する。

(客員教授等)

第11条 センターに、客員教授又は客員准教授（以下「客員教授等」という。）を置くことができる。

2 客員教授等の選考は、国立大学法人愛媛大学客員教授等称号付与規程の定めるところによる。

(研究員)

第12条 センターに、研究員を置くことができる。

2 研究員は、センターの研究計画に基づき、研究に従事するものとする。

3 研究員は、本学の専任教員のうちからセンターの専任教員が推薦し、運営委員会の議を経て、学長が任命する。

4 研究員の任期は2年以内とし、再任を妨げない。

(客員研究員)

第13条 センターに、客員研究員を置くことができる。

2 客員研究員の選考は、愛媛大学客員研究員規程又は愛媛大学外国人客員研究員規程の定めるところによる。

(利用)

第14条 センターの利用に関する規程は、別に定める。

(国際・社会連携室)

第15条 センターに、愛媛大学沿岸環境科学研究センター国際・社会連携室（以下「国際・社会連携室」という。）を置く。

2 国際・社会連携室に関し必要な事項は、別に定める。

(生物環境試料バンク)

第16条 センターに、生物・環境試料を収集管理し、学内外の研究に供する生物環境試料バンク（以下「バンク」という。）を置く。

2 バンクに関する規程は、別に定める。

(研究生)

第17条 センターは、研究生を受け入れることができる。

2 研究生の入学選考は、運営委員会で行う。

(事務)

第18条 センターに関する事務は、研究・産学連携支援部先端研究推進課において処理する。

(雑則)

第19条 この規則に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成16年6月9日から施行する。

附 則

この規則は、平成16年11月16日から施行する。

附 則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成20年10月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成22年4月14日から施行し、平成22年4月1日から適用する。

附 則

この規則は、平成22年9月7日から施行し、平成22年7月7日から適用する。

附 則

この規則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成25年7月25日から施行する。

附 則

この規則は、平成27年2月18日から施行する。

附 則

この規則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和3年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和5年5月30日から施行する。

附 則

この規則は、令和6年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和7年4月1日から施行する。

愛媛大学沿岸環境科学研究センター運営委員会規程

平成16年 4月 1日
規 則 第 2 6 号

(趣旨)

第1条 この規程は、愛媛大学沿岸環境科学研究センター規則第6条第2項の規定に基づき、愛媛大学沿岸環境科学研究センター運営委員会(以下「運営委員会」という。)の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 運営委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

(1) 愛媛大学沿岸環境科学研究センター(以下「センター」という。)の運営に係る基本事項に関すること。

(2) センターの予算及び決算に関すること。

(3) その他センターの運営に関すること。

(組織)

第3条 運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

(1) センター長

(2) 副センター長（副センター長を置く場合に限る。）

(3) センターの講師以上の専任教員

(4) 各学部の専任教員 各1人

(5) 研究・産学連携支援部長

(6) その他委員長が必要と認めた者

2 前項第4号の委員は、各学部長が推薦し、学長が任命する。

3 第1項第6号の委員は、運営委員会の議を経て委員長が推薦し、学長が任命する。

4 第1項第4号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じたときはこれを補充し、その任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第4条 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(議事)

第5条 運営委員会は、委員(代理者を含む。以下同じ。)の過半数が出席しなければ議事を開くことができない。

2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、説明又は意見を聴くことができる。

(専門委員会)

第7条 運営委員会は、専門的事項を調査検討するため、専門委員会を置くことができる。

2 専門委員会に関する事項は、運営委員会が定める。

(事務)

第8条 運営委員会に関する事務は、研究・産学連携支援部先端研究推進課において処理する。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、運営委員会の運営に関し必要な事項は、運営委員会が定める。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成16年11月16日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年10月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年2月18日から施行する。

附 則

- 1 この規程は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 この規程施行後、第3条第2項の規定により最初に任命される社会共創学部と同条第1項第4号の委員の任期は、同条第4項の規定にかかわらず、平成29年3月31日までとする。

附 則

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和6年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和7年4月1日から施行する。

愛媛大学沿岸環境科学研究センター国際・社会連携室内規

〔 令和3年4月1日
制 定 〕

(趣旨)

第1条 この内規は、愛媛大学沿岸環境科学研究センター（以下「センター」という。）規則第15条第2項の規定に基づき、愛媛大学沿岸環境科学研究センター国際・社会連携室（以下「連携室」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 連携室は、センターが行う国際共同研究や国際交流などの国際連携活動及び社会連携活動の推進に寄与することを目的とする。

(業務)

第3条 連携室は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 教職員、研究者、学生の国際交流に関すること。
- (2) 国際共同研究に関すること。
- (3) 寄附講座等の社会連携活動に関すること。
- (4) その他国際連携活動や社会連携活動に関すること。

(組織)

第4条 連携室に、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) 室長
- (2) 室員

(室長)

第5条 室長は、センターの専任教員のうちからセンター運営委員会が推薦し、センター長が任命する。

2 室長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、室長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

3 室長はセンター長の指示に従い、連携室の業務を掌理する。

(室員)

第6条 室員は、センター運営委員会が推薦し、室長が任命する。

2 室員は、連携室の業務に従事する。

(雑則)

第7条 この内規に定めるもののほか、連携室に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この内規は、令和3年4月1日から施行する。

愛媛大学沿岸環境科学研究センター生物環境試料バンク内規

平成16年 4月 1日
制 定

(趣旨)

第1条 この内規は、愛媛大学沿岸環境科学研究センター（以下「センター」という。）規則第13条第2項の規定に基づき、愛媛大学沿岸環境科学研究センター生物環境試料バンク（以下「試料バンク」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(業務)

第2条 試料バンクは、生物及び環境の試料を収集管理するとともに、学内外の研究に供し、沿岸環境科学の推進に資する業務を処理する。

(組織)

第3条 試料バンクに、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) 試料バンク長
- (2) その他必要な職員

第4条 試料バンク長は、センター教員のうちからセンター運営委員会が推薦し、センター長が任命する。

- 2 試料バンク長の任期は2年とし、再任を妨げない。
- 3 試料バンク長はセンター長の指示に従い、試料バンクの業務を掌理する。

(専門委員会)

第5条 試料バンクに、試料バンクに関する重要事項を審議するため試料バンク専門委員会を置く。

- 2 試料バンク専門委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第6条 試料バンクの事務は、研究・産学連携支援部先端研究推進課で処理する。

(雑則)

第7条 この内規に定めるもののほか、試料バンクの運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この内規は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 この内規の施行後、最初に任命される試料バンク長の任期は、第4条第2項の規定にかかわらず、平成17年3月31日までとする。

附 則

この内規は、平成16年11月16日から施行する。

附 則

この内規は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成20年10月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、令和3年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、令和6年5月28日から施行し、令和6年4月1日から適用する。

附 則

この内規は、令和7年4月1日から施行する。

平成28年4月1日

目次

- 第 1 章 総 則
- 第 2 章 安全統括管理者の責務
- 第 3 章 安全統括管理者, 運航管理者等の選解任
- 第 4 章 安全統括管理者等の勤務体制並びに職務及び権限
- 第 5 章 運航計画の作成等並びに運航に必要な情報の収集及び伝達
- 第 6 章 運航の可否判断
- 第 7 章 運航及び調査・実習に伴う作業の安全の確保
- 第 8 章 運航施設の点検整備
- 第 9 章 海難その他の事故の処理
- 第10章 安全に関する教育, 訓練等
- 第11章 雑 則

第1章 総則

(目的)

第1条 この規程は、愛媛大学沿岸環境科学研究センター(以下「センター」という。)が調査実習船の運航に当たって、安全最優先意識の徹底を図るとともに、調査実習船の業務を安全、適正かつ円滑に処理するための業務の実施の基準を明確にし、運航の安全を確保することを目的とする。

(用語の意義)

第2条 この規程において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

- (1)安全マネジメント体制:安全統括管理者により、センターで行われる安全管理が、あるべき手順及び方法に沿って確立され、実施され、維持される状態
- (2)安全統括管理者:運航の安全を確保するための管理業務を統括管理する者
- (3)運航管理者:船長の職務権限に属する事項以外の船舶の運航の管理に関する統轄責任者
- (4)運航管理補助者:運航管理者の職務を補佐し、運航管理者が職務を執行できないとき、その職務を代行する者
- (5)陸上連絡員:船舶との連絡を行う者
- (6)運航補助員:乗員の代表者(学生を除く。)
- (7)運航計画:起終点、寄港地、航行経路、航海速力、運航回数、発着時刻、運航の時季等に関する計画
- (8)発航:現在の停泊場所を解らんして次の目的港への航海を開始すること。
- (9)基準航行:基準経路を基準速力により航行すること。
- (10)入港:港の区域内、港湾区域内等において、狭水路、閘門等を通航して防波堤等の内部へ進航すること。
- (11)運航:「発航」、「基準経路及び基準速力による航行の継続」又は「着棧」を行うこと。
- (12)反転:目的港への航行の継続を中止し、発航港へ引返すこと。
- (13)運航基準図:航行経路(起終点、寄港地、針路、変針点等)、標準運航時間、航海速力、船長が直接操船する区間、その他航行の安全を確保するために必要な事項を記載した図面

第2章 安全統括管理者の責務

(安全統括管理者の主体的関与)

第3条 船舶による運航の安全確保のため、安全統括管理者は次に掲げる事項について主体的に関与し、全体の安全マネジメント体制を適切に運営する。

- (1)関係法令及び学内規程の遵守と安全最優先の原則の徹底
- (2)重大な事故等に対する確実な対応
- (3)安全マネジメント体制を確立し、実施し、維持するために、かつ、運航の安全を確保するために必要な要員、情報、運航施設等を確実に使用できるようにすること。
- (4)安全マネジメント体制の見直し

第3章 安全統括管理者、運航管理者等の選解任

(安全統括管理者の選任)

第4条 センター長は、安全統括管理者を選任又は自ら兼任する。

(運航管理者の選任)

第5条 安全統括管理者は、センターの教職員の中から運航管理者を選任する。

(安全統括管理者及び運航管理者の解任)

第6条 安全統括管理者は、安全統括管理者又は運航管理者が次の各号のいずれかに該当することとなったときは、当該安全統括管理者又は運航管理者を解任する(自ら兼務している場合は兼務を解く。ものとする。

- (1)身体の故障その他やむを得ない事由により職務を引続き行うことが困難になったとき。
- (2)安全管理規程に違反することにより、その職務を引続き行うことが運航の安全の確保に支障を及ぼすおそれがあると認められるとき。

(運航管理補助者及び陸上連絡員の選任及び解任)

第7条 安全統括管理者は、運航管理補助者及び陸上連絡員を選任及び解任する。

第4章 安全統括管理者等の勤務体制並びに職務及び権限

(安全統括管理者等の勤務体制)

第8条 安全統括管理者、運航管理者及び運航管理補助者は、船舶を運航中は常時連絡できる体制にななければならない。

(安全統括管理者の職務及び権限)

第9条 安全統括管理者の職務及び権限は、次のとおりとする。

- (1) 安全マネジメント体制に必要な手順及び方法を確立し、実施し、維持すること。
- (2) 情報伝達及びコミュニケーションの確保、事故等に関する報告、是正措置及び予防措置の実施状況等、安全マネジメント体制の実施状況及び改善の必要性の有無を記録すること。
- (3) 関係法令の遵守と安全最優先の原則を徹底するとともに、安全管理規程の遵守を確実にすること。

(運航管理者の職務及び権限)

第10条 運航管理者の職務及び権限は、次のとおりとする。

- (1) 船長の職務権限に属する事項を除き、船舶の運航の管理及び運航の安全に関する業務全般を統轄し、安全管理規程の遵守を確実にしてその実施を図ること。
- (2) 船舶の運航に関し、(船長と協力して)運航の安全を図ること。
- (3) 運航管理補助者を指揮監督すること。

2 運航管理者の職務及び権限は、法令に定める船長の職務及び権限を侵し、又はその責任を軽減するものではない。

(運航管理補助者の職務)

第11条 運航管理補助者は、運航管理者を補佐するほか、運航管理者がその職務を執行できないときは、その職務を代行するものとする。

第5章 運航計画の作成等並びに運航に必要な情報の収集及び伝達

(使用許可)

第12条 船舶の使用を希望する者は、あらかじめセンター長に調査実習船使用願を提出し、使用許可を受けなければならない。

2 乗船者に学外者が含まれる場合は、前項の使用願とともに、当該者に係る誓約書を提出しなければならない。

3 センター長は、船舶の使用を許可したときは、遅滞なく運航管理者及び船長に通知するものとする。

(運航計画の作成及び変更)

第13条 船長は運航にあたって事前に運航計画書を運航管理者に提出しなければならない。

2 運航計画を作成又は変更する場合は、運航管理者は使用船舶の性能、使用棧橋付近の状況、航路の交通状況及び自然的性質等についてその安全性を検討するものとする。

3 船舶、陸上施設又は港の状況が船舶の運航に支障を及ぼすおそれがあると認められる場合は、運航管理者は、運航休止、寄港地変更等の措置をとらなければならない。

(運航管理者の措置)

第14条 運航管理者は、前条第1項に定める運航計画書の提出があった場合は、遅滞なく安全統括管理者に報告するものとする。

2 運航管理者は、気象・海象に関する情報、港内事情、陸上施設の状況、水路通報、港長公示等官公庁の発する運航に関する情報、乗船した乗員数、船舶の動静、その他航行の安全の確保のために必要な事項を把握するものとする。

(船長の措置)

第15条 船長は、次に掲げる場合には必ず陸上連絡員に連絡しなければならない。

- (1) 発航前点検を終え出港するとき。
- (2) 現場海域での調査・実習が終了したとき。
- (3) 着棧したとき。
- (4) 非常連絡事項(別表)に定める事故が発生したとき。
- (5) 航行の安全に係わりを有する船体、機関、設備等の修理又は整備を必要とする事態が生じたとき。

2 船長は、次に掲げる事項の把握に努めるものとする。

- (1) 気象・海象に関する情報
- (2) 航行中の水路の状況

(連絡方法)

第16条 船長と陸上連絡員との連絡は、携帯電話等によるものとする。

(運航基準図等)

第17条 運航基準図に記載すべき事項は次のとおりとする。

- (1) 起点、終点及び寄港地の位置並びにこれら相互間の距離
- (2) 航行経路(針路、変針点、基準経路等)
- (3) 標準運航時間(起点、終点及び寄港地並びに主要地点通過時間)
- (4) 通航船舶、漁船等により、通常、船舶がふくそうする海域
- (5) 航行経路付近に存在する浅瀬、岩礁等航行の障害となるものの位置
- (6) その他航行の安全を確保するために必要な事項

2 船長は、基準経路、避険線その他必要と認める事項を海図に記入するものとする。

(速力基準等)

第18条 速力基準は、次のとおりとする。

速力区分	速力	毎分機関回転数
最 微 速	2 ノット	600rpm(スロークラッチ使用)
微 速	5 ノット	600rpm
半 速	15 ノット	1800rpm
航海速力	21 ノット	2400rpm

2 船長は、速力基準表を船橋内の操作する位置から見易い場所に掲示しなければならない。

(特定航法)

第19条 伊予市森港の航法は、次のとおりとする。

船舶は、入港しようとするときは森港栽培漁業研究所取水口灯浮標を右に見て水路に入り、水路の右側を航行しなければならない。

第6章 運航の可否判断

(発航の可否判断)

第20条 船長は、発航前に運航の可否判断を行い、発航地の気象・海象が次に掲げる条件の一に達していると認めるときは、発航を中止しなければならない。

- (1) 波浪警報・注意報発令
- (2) 風速 10m/s 以上
- (3) 波高 1.5m以上
- (4) 視程 1000m以下

2 船長は、発航前において、航行中に遭遇する気象・海象(視程を除く。)に関する情報を確認し、次に掲げる条件の一に達するおそれがあると認めるときは、発航を中止しなければならない。

- (1) 波浪警報・注意報発令
- (2) 風速 10m/s 以上
- (3) 波高 1.5m以上

3 船長は、前2項の規定に基づき発航の中止を決定したときは、乗員の下船、保船措置その他の適切な措置をとらなければならない。

(航行の可否判断)

第21条 船長は、周囲の気象・海象(視程を含む。)に関する情報を確認し、基準航行を継続した場合、船体の動揺等により安全な運航が困難となるおそれがあると認めるとき又は周囲の視程が1000m以下となったときは、基準航行を中止し、減速、適宜の変針、反転等の適切な措置をとらなければならない。

2 船長は、日の出前及び日没後の航行を避けるよう、運航計画を作成するとともに、万が一運航中遭遇が予想される場合は、運航計画の変更を速やかに行い、避港等の措置を実施する。

(着棧の可否判断)

第22条 船長は、着棧予定地の気象・海象に関する情報を確認し、次に掲げる条件の一に達していると認めるときは、着棧を中止し、適宜の海域での待機、臨時寄港その他の適切な措置をとらなければならない。

- (1) 波浪警報・注意報発令

(2) 風速 10m/s 以上

(3) 波高 1.5m以上

(4) 視程 1000m以下

(運航の可否判断等の連絡及び記録)

第 23 条 船長は、運航中止の措置をとったときは、その旨を陸上連絡員に連絡しなければならない。

2 船長は、基準航行の変更、運航の可否判断、運航中止の措置を運航日誌に記録するものとする。運航中止基準の達した、又は達するおそれがあった場合における運航継続の措置については、判断理由を記載すること。記録は適時まとめて記載してもよい。

(陸上連絡員の援助措置)

第 24 条 陸上連絡員は、船長から臨時寄港する旨の連絡を受けたときは、当該寄港地における使用栈橋の手配等適切な援助を行うものとする。

第7章 運航及び調査・実習に伴う作業の安全の確保

(作業体制)

第 25 条 船長は、乗員の中から運航補助員(学生を除く。)を任命する。

2 船長は運航補助員及び乗員を指揮して、乗下船する乗員の誘導、離着棧時における諸作業を実施する。

3 船長は、乗員に対し、乗船前又は乗船後出港前に、安全に関する説明を行う。

(乗船作業)

第 26 条 着棧後、運航補助員は船長の指示を確認し、乗員に乗船の開始を指示する。

2 運航補助員は乗船乗員数を把握し、乗員定員を超えていないことを確認して船長に報告する。

(離棧作業)

第 27 条 運航補助員は、乗員の乗船が完了したときはその旨船長に報告し、船長の指示により迅速に離棧作業を行う。

(着棧作業)

第 28 条 運航補助員は、船長の指示により迅速、確実に係留作業を実施する。

2 運航補助員は、着棧時の衝撃による乗員の転倒事故を防止するため、乗員へ着席や手すりへの掴まりを指示する。

3 運航補助員は、着棧時、乗員が船体着棧側に身を乗り出さないよう注意する。

(係留中の保安)

第 29 条 船長及び運航補助員は、係留中、乗員の安全に支障のないよう係留方法に十分留意する。

(下船作業)

第 30 条 船長は、船体が完全に着棧したことを確認したときは、その旨乗員に合図する。

2 運航補助員は、着棧完了合図を確認した後、乗員に下船を指示し、下船完了後、船長に報告する。

(発航前点検)

第 31 条 船長は、発航前に船舶が航海に支障ないかどうか、その他航海に必要な準備が整っているかどうか等を点検しなければならない。

(船内点検)

第 32 条 船長は、航海中、船内の状況に留意し、直接状況を見られない場所その他必要と認められる場所については運航補助員及び乗員に点検させるものとする。

(機器点検)

第 33 条 船長は着棧前、栈橋手前(防波堤手前)300m 等着棧地の状況に応じ安全な海域において、機関の後進、舵等の点検を実施する。一日に何度も離着棧を繰り返す場合もその都度実施する。

(乗船待ち及び調査・実習中の乗員に対する遵守事項等の周知)

第 34 条 船長は、乗員に対して乗船前又は乗船後出港前において、次の事項を周知しなければならない。

(1)乗員は乗下船時又は船内においては、船長及び運航補助員の誘導に従うこと。

(2)乗員は船内においては、乗船中の者に危害を加えるような行為又は迷惑をかける行為をしないこと。

(3)その他乗員の調査・実習中の安全に関して調査実習船「いさな」使用者の安全心得(別紙)を守ること。

(船内における遵守事項等の掲示)

第35条 船長は、船内の乗員が見やすい場所に次の事項を掲示しなければならない。

(1)乗員の禁止事項

(2)救命胴衣の格納場所及び着用方法

(3)非常の際の避難要領(非常信号、避難経路等)

(4)病気、盗難等が発生した場合の乗員への通報

(5)下船及び非常の際には船長及び運航補助員の指示に従うこと。

(乗員に対する救命胴衣及び安全具の着用に関する指示)

第36条 船長は、救命胴衣及び安全具の着用に関し、乗員に対し次の措置を講じなければならない。

(1)乗員には、常時救命胴衣を着用させるよう徹底させること。

(2)甲板作業中は、ヘルメット及び手袋の着用を徹底させること。

(3)特に必要があるときは、防護具が入った安全靴の着用を指示すること。

(飲酒等の禁止)

第37条 船長及び乗員は、呼気1リットル中のアルコール濃度が0.15mg以上であると判断される場合は、船舶の運航及び調査・実習等の作業を行ってはならない。

第8章 運航施設の点検整備

(船舶検査結果の確認)

第38条 運航管理者は、船舶が法令に定める船舶検査を受検したときは、当該検査の結果を確認しておくこと。

(船舶の点検整備)

第39条 船長は、船体、機関、諸設備、諸装置等について、点検簿を作成し、それに従って、原則として運航前に1回以上点検を実施するものとする。ただし、当日、発航前点検を実施した事項については点検を省略することができる。

2 船長は、前項の点検中、異常を発見したときは、修復整備の措置を講じなければならない。

(陸上施設の点検整備)

第40条 船長は、陸上施設チェック表に基づいて、運航前に1回以上、係留施設(岸壁、ピット、防舷材)、乗降用施設について点検し、異常のある箇所を発見したときは、直ちに修復整備の措置を講じなければならない。

第9章 海難その他の事故の処理

(事故処理にあたっての基本的態度)

第41条 事故の処理にあたっては、次に掲げる基本的態度で臨むものとする。

(1)人命の安全の確保を最優先とすること。

(2)事態を楽観視せず常に最悪の事態を念頭におき措置を講ずること。

(3)事故処理業務は、すべての業務に優先して実施すること。

(4)陸上連絡員は、陸上でとりうるあらゆる措置を講ずること。

(事故等の範囲)

第42条 この規程において、「事故」とは本学の運航中の船舶に係る第1号から第4号までに掲げる事象をいい、「事故等」とは事故及び第5号の事態(以下「インシデント」という。)をいう。

(1)乗員、乗員又はその他の乗船者の死亡、行方不明、負傷若しくは疾病又はその他の人身事故(以下「人身事故」という。)

(2)衝突、乗揚げ、火災、浸水、漂流、行方不明、機関停止等重大な機関故障又はその他の救助を必要とする船舶の海難事故

(3)航路の障害、港湾施設の損傷又は荒天等による運航の阻害

(4)強取(乗っ取り)、殺人、傷害又は暴行・脅迫等の不法行為による運航の阻害

(5)前各号の事象に至るおそれの大きかった事態

(船長のとるべき措置)

第43条 船長は、自船に事故が発生したときは、人命の安全の確保のための万全の措置、事故の拡大防止のための措置、乗員の不安を除去するための措置等必要な措置を講ずるとともに、事故の状況及び講じた措置を速やかに海上保安官署及び陸上連絡員等に連絡しなければならない。この場合において措置への助言を求め、援助を必要とするか否かの連絡を行わなければならない。

2 船長から海上保安官署等への速報は、「官公署連絡表」(別表)により、まず、「118」番に架電し、以後、海上保安官署の指示によるもの

とする。

- 3 船長は、自船が重大かつ急迫の危険に陥った場合又は陥るおそれがある場合は、直ちに遭難通信(遭難信号)又は緊急通信を発しなければならぬ。
- 4 事故が発生したときに、乗員の安全、船体の保全のために船長が講ずべき必要な措置はおおむね次のとおりである。

(1) 海難事故の場合

- ① 損傷状況の把握及び事故局限の可否の検討
- ② 人身事故に対する早急な救護
- ③ 連絡方法の確立
- ④ 乗員への正確な情報の周知及び状況に即した適切な乗員の誘導
- ⑤ 二次災害及び被害拡大を防止するための適切な作業の実施

(2) 不法事件の場合

- ① 被害者に対する早急な救護
- ② 不法行為者の隔離又は監視
- ③ 連絡方法の確立
- ④ 乗員に対する現状及び措置状況の周知と乗員の軽率な行為の禁止
- ⑤ 不法行為が継続している場合、中止を求める不法行為者への説得

(陸上連絡員のとるべき措置)

第44条 陸上連絡員は、通常連絡、着積連絡等、船長からの連絡が異常に遅延し連絡がない場合、遅滞なく船舶の動静把握のために必要な措置を講じなければならない。

2 陸上連絡員は、前項の措置を講じたにもかかわらず船舶の動静を把握できないときは、直ちに「118」番により海上保安官署に連絡するとともに、関係者に通報しなければならない。

3 事故の発生を知ったとき又は船舶の動静が把握できないときに陸上連絡員がとるべき必要な措置はおおむね次のとおりである。

- (1) 事故の実態把握及び救難に必要な情報の収集
 - (2) 海上保安官署への救助要請
 - (3) 行方不明者の捜索又は本船の救助のための捜索船又は救助船等の手配
 - (4) 必要人員の派遣及び必要物資の補給等
 - (5) 船長に対する必要事項の連絡
 - (6) 医師、病院、宿舎の手配等の乗員の救護のための措置
 - (7) 乗員の氏名の確認及びその連絡先への通知
 - (8) 損害保険会社への連絡
- (安全統括管理者のとるべき措置)

第45条 安全統括管理者は、事故の状況、被害規模等を把握・分析し、適切に対応措置を講じなければならない。また、現場におけるリスクを明確にし、必要な対応措置を講じなければならない。

(医療救護の連絡等)

第46条 船長及び陸上連絡員は、船内に医療救護を必要とする事態が発生したときは、最寄りの医師と連絡をとり、その指示のもとに適切な措置を講じなければならない。

(現場の保存)

第47条 船長及び陸上連絡員は、事故の処理後、関係海上保安官署等と連絡をとりつつ、事故原因の調査を行うとともに、事件捜査の対象となる場所及び物品の保存に努めなければならない。

(事故の原因等の調査)

第48条 運航管理者は、事故原因及び事故処理の適否を調査し、事故の再発防止及び事故処理の改善を図るものとする。

第10章 安全に関する教育、訓練等

(安全教育)

第49条 安全統括管理者は、乗員及び陸上連絡員に対し、安全管理規程、海上衝突予防法等の関係法令その他運航の安全を確保するために必要と認められる事項について理解しやすい具体的な安全教育を定期的実施し、その周知徹底を図らなければならない。

2 運航管理者は、航路の状況、海難その他の事故及びインシデント(事故等の損害を伴わない危険事象)事例を調査研究し、随時又は前項の教育に併せて乗員に周知徹底を図るものとする。

(訓練)

第50条 安全統括管理者は、事故処理に関する訓練を計画し、年1回以上これを実施しなければならない。訓練は、実践的なものとし、訓練の前後には打合せを行う。

(記録)

第51条 運航管理者は、前2条の教育及び訓練を行ったときは、その概要を記録簿に記録しておくものとする。

(見直し)

第52条 安全統括管理者は、年1回以上船舶及び陸上施設の状況並びに安全管理規程の遵守状況のほか安全マネジメント体制全般にわたり見直しを行うものとする。さらに、重大事故が発生した場合には速やかに実施する。

2 見直しを行うに際し、安全マネジメント体制の機能全般に関し見直しを行い、改善の必要性について評価し、改善に向け作業する。

3 安全統括管理者は、見直しを行ったときは、その内容を記録しておくものとする。

第11章 雑則

(安全管理規程の変更)

第53条 安全統括管理者は、関係法令の改正、使用船舶の変更等、この規程の内容に係る事項に常に留意し、当該事項に変更が生じたときは、遅滞なくこの規程の改正を行なうものとする。

(安全管理規程等の備付け等)

第54条 安全統括管理者は、安全管理規程及び運航基準図を船舶その他必要と認められる場所に、容易に閲覧できるよう備え付けなければならない。

2 安全マネジメント体制を確立し、実施し、維持するために、作成した各種文書は適切に管理する。

(情報伝達)

第55条 安全統括管理者は、運航の安全の確保に関する情報伝達を行うとともに容易に閲覧できるようにする。

2 安全統括管理者は、安全にかかわる意見等の把握に努め、その検討、実現反映状況についてセンター内各員へ周知する。

附 則

この規程は、平成22年6月2日から施行する。

附 則

この規程は、平成23年7月8日から施行する。

附 則

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

調査実習船「いさな」使用者の安全心得

<乗船前安全心得>

1. 乗船にあたって、使用責任者は研究室及び事務室に乗船目的や、航海計画を事前に提出して許可を得、乗船時の緊急連絡先を確保して置くこと。また、補助者が学生(正職員で無い場合)の場合は出張届を出して、大学の総合保険を付けて貰うこと(平成17年7月1日から適用)。
2. 船は狭くて突起物が多いので、服装は身体にフィットするものとし、長靴又は靴を準備すること(サンダル履き禁止)。
3. 体調には十分留意し、持ち込む飲食物にも十分注意を払うこと。

<乗船時安全心得>

1. 船内においては船長の命令は絶対であるので、指示に従うこと。
2. 乗船してすぐに救命胴衣を着用すること。また乗船中は常に着用しておくこと。
3. 出港時、入港時は岸壁等で身体を挟まないように特に注意すること。船が重たいので、スピードが出ていなくても、強大な圧力がかかる。また、舳い綱も危険であるので、触る場合は船長の指示どおりに行うこと。
4. 救命筏や消火設備、信号紅煙の場所を事前にチェックして、自己の安全を確保しておくこと。船は燃え易い材質なので火気使用は極力避けること。救命浮器は上部甲板後方にある。
5. 乗船中はみだりに船舶備品を触らない。特に計器類は航海上重大な危険を伴うので、研究上必要な場合も船長の許可を得てから使用すること。不用意に触ってしまった場合は、必ず船長に申し出ること。
6. 船に持ち込んだ調査器具や手回り品は作業や通行に邪魔にならないところに荷崩れを起こさないように積み込むこと。
7. 調査時、特にウインチで器具を吊り上げたり下ろしたりしている時は危険であるので、ロープやワイヤーの下にいたり、ロープを踏んだりしないこと。アンカーの上げ下げの時も同様である。
8. 船内は全面禁煙である。

<下船時心得>

1. 船長の指示に従って、船を乗船前の状態に戻すこと。特に持ち込んだものは、ゴミ類に至るまで持ち帰ること。
2. 救命胴衣やヘルメットなど、船舶備品は持ち帰らないこと。

補足:<自分の身は自分で守る>

1. 携帯電話は十分に充電しておき、ビニール袋などに入れて携帯しておく。
遭難時は、連絡手段の有無が明暗を分けます。常に連絡手段の確保に努めましょう。
2. 気象状況を良く確認しておき、それに備えた服装にする。
体が濡れた状態で風に当たると体力を奪われます。雨具を用意しましょう。また、綿製の衣類は、濡れると体温を奪います。化学繊維製で速乾素材の衣服着用を心がけましょう。(遭難時においても体温保持に相当の効果があるとされています)
3. 非常用食料、飲料を少量でよいので準備しておく。
4. 船は常に揺れているため、脳や体が徐々に疲れ、船酔いの原因ともなる。こまめな糖分・水分の補給を心がけよう。
5. 夏季は大量の紫外線を浴びる。長袖長ズボン、帽子、サングラス、日焼け止めクリームを準備しましょう。

「官公署連絡表」

【非常連絡事項】 事故等が発生した場合の連絡は、原則として次の区分により行うものとする。

(1) 全事故等に共通する事項

船名, 日時, 場所, 事故等の種類, 死傷者の有無, 救助の要否, 当時の気象・海象

(2) 事故等の態様による事項

	事故等の種類	連絡事項
a	衝突	① 衝突の状況(衝突時の両船の針路, 速力等又は岸壁等への接近状況) ② 船体, 機器の損傷状況 ③ 浸水の有無(あるときはd項) ④ 流出油の有無(あるときはその程度及び防除措置) ⑤ 自力航行の可否 ⑥ 相手船の船種, 船名, 総トン数, (用)船主・船長名(できれば住所, 連絡先) -船舶衝突の場合 ⑦ 相手船の状況(船体損傷の状況, 死傷者の有無, 救助の要否等) -船舶衝突の場合
b	乗揚げ	① 乗揚げの状況(乗揚げ時の針路, 速力, 海底との接触箇所, 船体傾斜, 吃水の変化, 陸岸との関係等) ② 船体周囲の水深, 底質及び付近の状況 ③ 潮汐の状況, 船体に及ぼす風潮及び波浪の影響 ④ 船体, 機器の損傷状況 ⑤ 浸水の有無(あるときはd項) ⑥ 離礁の見通し及び陸上からの救助の可否 ⑦ 流出油の有無(あるときはその程度及び防除措置)
c	火災	① 出火場所及び火災の状況 ② 出火原因 ③ 船体, 機器の損傷状況 ④ 消火作業の状況 ⑤ 消火の見通し
d	浸水	① 浸水箇所及び浸水の原因 ② 浸水量及びその増減の程度 ③ 船体, 機器の損傷状況 ④ 浸水防止作業の状況 ⑤ 船体に及ぼす風浪の影響 ⑥ 浸水防止の見通し ⑦ 流出油の有無(あるときはその程度及び防除措置)
e	強取, 殺人傷害, 暴行等の不法行為	① 事件の種類 ② 事件発生の端緒及び経緯 ③ 被害者の氏名, 被害状況等 ④ 被疑者の人数, 氏名等 ⑤ 被疑者が凶器を所持している場合は, その種類, 数量等 ⑥ 措置状況
f	人身事故 (行方不明を除く)	① 事故の発生状況 ② 死傷者数又は疾病者数 ③ 発生原因 ④ 負傷又は疾病の程度 ⑤ 応急手当の状況 ⑥ 緊急下船の必要の有無
g	乗員, 乗組員等の行方不明	① 行方不明が判明した日時及び場所 ② 行方不明の日時, 場所及び理由(推定) ③ 行方不明者の氏名等 ④ 行方不明者の遺留品等
h	その他の事故	① 事故の状況 ② 事故の原因 ③ 措置状況
i	インシデント	① インシデントの状況 ② インシデントの原因 ③ 措置状況